

年 報

2013年度
(平成25年度)

聖路加看護大学
St. Luke's College of Nursing

目 次

ごあいさつ	理事長 福井 次矢	・ 1
序文	学 長 井部 俊子	・ 2
組織図		3
重点目標		4
学事暦		5
I 法人機関		・ 7
1 理事会		7
2 常任理事会		7
3 評議員会		8
4 大学運営会議		9
5 利益相反マネジメント委員会		9
II 大学決議機関		・ 10
1 教授会		10
2 研究科委員会		10
III 教学組織		・ 12
1 看護学部 看護学科 (在籍者・入学者・卒業者数などのデータ)		12
(1) 看護教育会議		22
(2) 教育会議		22
(3) 養護教諭養成プログラム運用委員会		23
(4) 多様な学生の学びに関するプロジェクト		23
(5) 公衆衛生看護学実習プロジェクト		24
2 看護学研究科 (在籍者・入学者・修了者数などのデータ)		25
(1) がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン		28
(2) アジア・アフリカ学術基盤形成事業		28
タンザニアの母子保健改善に貢献する持続的な若手研究者の育成		
(3) 文部科学省平成25年度専門的看護師・薬剤師等医療人材養成事業		29
「チームビルディング力育成プログラム」推進委員会		
(4) フューチャー・ナースファカルティ育成プログラム (FNFP)		33
(5) 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業		33
3 図書館		35
(1) 図書館		35
(2) 大学史編纂・資料室／委員会		42
4 看護実践開発研究センター		44
(1) センター運営委員会		44
(2) People-Centered Care 実践開発室		48
(3) キャリア開発支援室		52
(4) 研究活動支援室		53
(5) WHO PHC 看護開発協力センター		54
(6) るかなび運営会議		55
(7) 聖路加・テルモ共同研究事業		57
(8) 福島県災害支援プロジェクト		57

IV	学生支援組織	・ 59
1	教務部（教務課）	59
	（1）カリキュラム運用委員会	59
	①実習単位認定者会議	60
	②臨地実習Ⅱ担当者会議	61
	（2）実習室委員会	61
	（3）体育デー委員会	62
	（4）オリエンテーション・セミナー委員会	63
	（5）IR室	64
2	学生部（学生課）	65
	（1）チャペルアワー委員会	69
	（2）奨学生選考委員会	69
	（3）健康管理室	70
V	大学事務局	・ 76
1	秘書室（法人事務局兼務）	76
2	総務課（学生課）	77
3	財務経理課	78
4	管財課	79
5	研究センター事務課	84
6	危機管理室	84
7	広報室	84
VI	学長諮問委員会	・ 87
1	学事協議会	87
2	自己評価委員会	87
3	研究倫理審査委員会	89
4	人権委員会	90
5	発明委員会	90
6	危機管理委員会	90
7	創立100周年事業検討委員会	91
VII	常設委員会	・ 95
1	教育予算委員会	95
2	広報委員会	95
3	情報システム委員会	97
4	国際化推進委員会	99
5	表彰運営委員会	100
6	紀要委員会	102
7	入試委員会	102
8	FDS委員会	103
9	衛生委員会	104
10	ファカルティ・スタッフミーティング	105
VIII	関連施設報告	・ 106
1	聖公会関係大学・短期大学学長懇親会	106
2	リエゾン・コミッティ	106
3	聖路加国際病院ナースマネージャー会	106
4	ウィリアムズ主教記念基金運営委員会	107
IX	聖路加国際メディカルセンターとの一体化計画	・ 108

○	構成員	・ 109
---	-----	-------

ごあいさつ

聖路加看護学園理事長 **福井 次矢**

2013年度における聖路加看護大学の教育研究活動の記録を関係各位の皆様にお届けいたします。

今年度も大学のスタッフ、理事・評議員の皆様のご協力により、例年のように活発な教育研究活動が遂行されました。心から感謝申し上げます。

本学は1920年の創立以来、キリスト教精神を基盤とし、看護保健職域に従事する看護専門職とその指導者の育成に取り組んできました。

50年前の1964年には私学で日本初の看護学部4年制教育を開始し、最近でも科学研究費採択率1位、日本の看護領域において初のWHO(世界保健機構)コラボレーティングセンター認定などの実績により、我が国の看護教育のパイオニアとしての評価も受けてきました。

一方、超高齢社会の到来、医療技術の高度化、グローバル化の急激な進展等に対応して、看護・医療においてもより高度な教育と実践、そして最先端の研究が融合した学府が求められています。また、安定した大学運営も重要な課題となっています。

これらの問いに答えるべく、2012年8月に開始した一般財団法人聖路加国際メディカルセンターとの法人一体化計画について、2013年度はさらに文部科学省との話し合いを継続した結果、法人および大学名称を聖路加国際大学に変更するとともに、聖路加国際メディカルセンターの医療関連事業を聖路加国際大学に譲渡することとなりました。2014年度からのこの新体制の発足に向け、本学および聖路加国際メディカルセンター双方の総力を挙げて、17のワーキンググループと法人一体化推進会議により準備を整えることができました。関係各位の努力に感謝いたします。

この新体制構想の実現により、更なる教育・研究・実践の発展と、大学運営の財務基盤の確立が期待されます。特に、学生実習の強化をはじめ、国際教育の強化や、公衆衛生大学院の設立など、2014年度以降も本学が発展を継続するための取り組みが前進することになります。

2020年の大学創立100周年および2022年の病院創立120周年に向け、聖路加国際大学の将来像をより具体化、確定できるよう努力したいと思っています。引き続き、関係各位の皆様のご協力をお願い申し上げます。

序 文

2013年度の聖路加看護大学は、2012年度に行った将来構想委員会の成果（全33項目）を基に、各事業を2013年度（13項目実施）や2014年度の事業計画に組み込んで予算化し（10項目）、実現化を進めた。また、各種の補助金獲得状況を把握し、「私立大学等改革総合支援事業」のタイプ1「建学の精神を生かした大学教育の質の向上」とタイプ2「特色を発揮し、地域の発展を重層的に支える大学づくり」の項目にもとづいて体制を整備した。特に、タイプ2の重点項目とされる「大学所在地の都道府県又は市区町村との包括連携協定の締結」を得るため、これまでの実績をもとに中央区に働きかけを行った。

教育活動では、科目ナンバリング、GPAが始まり、学生の成績評価を行うとともに、ポートフォリオ(manaba course2)の導入に向けた研修会を開催した。2014年度、2015年度の公衆衛生看護学実習に向けた実習施設の確保と学生のふり分けを行った。大学院修士課程に、看護教育学上級実践コースの開設を決め、聖路加国際病院看護師を対象とした特別入試を行った。このコースは、文部科学省による「看護系大学教員養成機能強化事業」に採択された「フューチャー・ナースファカルティ（FNF）育成プログラム」によって強化された。また、「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」の採択によって、アクティブ・ラーニングの設備・システムの検討が精力的に行われた。

看護実践開発研究センターは、創立10周年を迎え、大学創立記念行事において記念講演会を開催した。研究支援室は、文部科学省科学研究費助成事業62件、厚生労働科学研究費補助金14件の研究支援を行った。テルモ株式会社の支援による聖路加市民アカデミーは最終年となった。

一方、学校法人聖路加看護学園と一般財団法人聖路加国際メディカルセンターとの法人一体化の準備が着々と進められた。法人一体化推進会議が毎週開催され、17のワーキンググループ（WG）で検討された内容について意思決定を行った。WGは、文書規程、経営企画、人事、財務経理、情報システム、総務、物品管理、施設管理、教育研修、研究管理、図書館、国際、臨床学術センター（CCA）、広報、看護、健康管理、アーカイブであった。

事前相談書による文部科学省との話し合いが続けられた結果、2013年12月18日に大学設置・学校法人審議会大学設置分科会運営委員会にて大学名称の変更が承認され、12月19日に寄附行為と学則変更を提出し、2月12日に文部科学大臣により認可された。その後、聖路加国際メディカルセンター理事会・評議員会（2月24日）、聖路加看護学園理事会・評議員会（2月27日）にて事業の譲渡に関する契約の承認を得た。この間、クリスマス祝会にて学生への説明を行い、保護者・受験生等へ大学名変更に関する説明文書の郵送を行った他、12月27日の朝日新聞に「教育・研究・実践の融合—最善を尽くせ、しかも一流であれ—」と題して、大学名変更に関する広告を掲載した。

最後に、訃報を記さなければならない。本学名誉教授であり、元理事であった高橋シュン先生が、2013年7月17日に逝去され、10月6日に偲ぶ会を開催した。さらに、2013年12月21日に特任教授として統計学の指導に情熱をかたむけて下さった柳井晴夫先生が逝去された。心より感謝を捧げたい。

「聖路加看護大学」としての年報はこれで最終となる。

2014年3月31日

聖路加看護大学学長 井部俊子

2013年度聖路加看護大学 重点目標

2014/2/18現在

区分	重点目標	尺度	目録	実績値	BSCの視点	所管	委員会等	アクションプラン
1. 法人	・聖路加国際病院との一体化計画の推進 ④母体機関計画策定	事前計画策定	7月までに提出	6月27日提出	達成度 100%	法人事務局	大学運営会議	法人事務局による文部科学省との交渉
2. 学部	・志願者数増加対策(①W) ・教員の構成 ・聖路加国際病院との一体化に向けた新しいカリキュラムの構築(①I) ・学生3年次編入制の検討	志願者数 指定校推薦の応募 組織再編議の構築 カリキュラム構築 カリキュラム構築	450名 3名 上半期 7月までに構築	入試科目の変更 (2015年より) 0名 再編確定 プロジェクト開始	100% 100% 100% 50%	広報室 学部長 学事協議会	入試委員会 教授会	広報機関の作成と実施 入試改革：実験科目、赤本作成、その他 プロジェクトによる構築(2015年を目標) プロジェクトによる構築(2016年を目標)
3. 大学院	・博士論文の質の担保 ・大学院授業料の検討 ・聖路加国際病院看護部の大学院入学促進 ・大学院修得者割合の向上 ・大学院進学率の向上 ・大学院進学率の向上 ・大学院進学率の向上	リポート公開に向けた方 針の明確化 改定案作成 計画策定	今年度中 今年度中 5月提議案提出 今年度中	取りも完成 承認 CNE5名	100% 100% 100% 100%	教務部 財務課 教務部	研究科委員会 大学運営会議 研究科委員会	材料経費について原案作成し、大学運営会議で審議 大学院にCNEコース開設準備(開設は次年度、カリキュラム改訂は済み) 所管看護部との一体化プロジェクトの進行 プロジェクトによるカリキュラム構築(2015年を目標)
4. 研究センター	・10周年事業(創立記念行事) ・聖路加国際病院との連携強化 ・収益事業拡大	採場者数 記念誌発行 連携関係部の育成 企業との契約締結	300 本年度内 10月 10月	プロジェクト開始 プロジェクト開始 プロジェクト開始 プロジェクト開始	75% 100% 100% 100%	教務部 教務部 研究センター	研究科委員会 研究科委員会 センター運営委員会	FNF委員会、IAプログラム委員会の設置 ※2 記念事業の企画運営と記念誌の発行 センター各セクションと病院との人的・物的連携 テレモ事業計画含む
5. 教務部	・研究活動促進の充実 ・eポートフォリオ導入に向けた準備(①II) ・GPAの算出と評価(①I)	支援体制策定の完成 eポートフォリオ導入	10月 今年度中	一体により体制強化 導入開始 class of 2013で実績	100% 100%	研究センター 教務部	センター運営委員会 カリキュラム運用委員会	研究活動促進委員会との協働体制：研究発表公表のための支援活動 google appsとの協働性などを確認の上、検討を進める ※1・2 評価スコアの大学院登録要件利用
6. 学生部	・チャペルアワーの充実 ・国家試験および就職に対する支援の充実 ・アクティブラーニングを支援する人材育成(①II) ・電子的情報源の積極的取集と維持	参加人数 支援回数 モジュール実施 アクセス集積の算出 eブックの購入 冊子資料の移動	前年度比増 前年度比増 3月に実施 11月までに実施 購入冊数の7% 8月に実施	前年より増 前年より増 2回実施 アセス実施 9月17日現在 完了	50% 50% 100% 100%	学生部 学生部 学術情報課 学術情報課	図書委員会 図書委員会 図書委員会	アンケート実施、時間の検討 設備相談は随時実施 参加者とのコミュニケーション欲、支援への満足度等を調査し評価 ※1 電子ジャーナルに対するアクセス集積を算出し、適切な購入につなげる。 eブックは、電子化がすすんでいる洋書を中心に購入する 移動冊数は6月図書委員会で決定
8. 事務局	・業務プロセス見直しによる効率化(①III)	見直し件数	10件	IR、総務、広報、入試事務 室、警衛、法人、危機管理 室	100%	事務局各課	自己評価委員会	会計プロセス、人事労務管理、教育予約システム、その他 自己評価委員会による準備
9. その他	・大学評価改善に向けた準備	準備完了率	100%	準備完了 1/15準備委員会へ提出	100%	総務課	自己評価委員会	

※1 戦略的意識形成事業

※2 教員養成機能強化事業

2013年度 学事暦

年 月 日	大 学 行 事	理事会・教授会・委員会など
2013年		
4月3日(水)	学部入学式・始業式	
4日(木)	} 新入生オリエンテーション	
6日(土)		
8日(月)	学部授業開始	
9日(火)		教授会
10日(水)	大学院入学式・開講式	
11日(木)	大学院オリエンテーション	
12日(金)	"	
13日(土)	大学院授業開始	
16日(火)		研究科委員会
17日(水)		看護教育会議
	大学一斉休暇 (4/30～5/2)	
5月14日(火)		教授会
15日(水)	修士論文研究計画書提出締切	
21日(火)		研究科委員会
24日(金)		常任理事会
25日(土)	体育デー	
27日(月)		ミセスセントジョン記念日
30日(木)		理事会・評議員会
6月7日(金)	総合看護・看護研究Ⅱ計画書提出締切 総合実習(6/10～7/19)、養護実習(6/10～7/13)	
11日(火)		教授会
18日(火)		研究科委員会
29日(土)	大学説明会	
7月9日(火)		教授会
10日(水)	修士・博士論文提出締切	
16日(火)		研究科委員会
17日(水)		看護教育会議
24日(水)	修士課程学内推薦入学試験	
26日(金)		修士課程選考判定会議
	前期試験期間 7月29日～8月2日	
8月3日(土)	大学説明会	
4日(日)	"	
	夏季休暇 8月5日～9月20日	
5日(月)	FD・SD研修会(8/5～8/7)	
10日(土)		トイスラー記念日
	大学一斉休暇(8/12～17)	
	看護学実習(9/2～1/24)	
9月3日(火)		臨時研究科委員会
10日(火)	学位授与・論文発表会	教授会
12日(木)	修士課程入学試験	
17日(火)	学部学位授与	研究科委員会・修士課程入試判定会議
19日(木)	学士編入学試験	
23日(月)	学部後期授業開始	
24日(火)		学士編入学試験選考会議・臨時教授会
27日(金)		理事会・評議員会
	野外活動実習(9/16～9/19、9/19～9/22)	

年 月 日	大 学 行 事	理事会・教授会・委員会など
10月1日(火)	大学院授業開始	
8日(火)		臨時研究科委員会・教授会
17日(木)	博士後期課程入学試験	
22日(火)		研究科委員会・博士後期課程入試選考判定会議
11月7日(木)	推薦、帰国生、指定校推薦入学試験	
9日(土)	白楊祭	
10日(日)	"	
11日(月)	ふりかえ休日	
12日(火)		推薦、帰国生、指定校推薦入試選考会議・教授会
19日(火)		研究科委員会
12月10日(火)	修士論文研究計画書提出締切	教授会
12日(木)	総合看護・看護研究Ⅱ提出締切	
17日(火)		研究科委員会
21日(土)	クリスマスの集い	
冬季休暇 12月24日～1月3日 大学一斉休暇(12/25～1/4)		
2014年		
1月6日(月)	授業開始	
10日(金)	博士論文提出締切	
14日(火)		教授会
21日(火)		研究科委員会
	学部後期試験・博士論文審査(1/20～24)	
24日(金)	大学創立記念行事	
25日(土)	大学創立記念日	
31日(金)	修士論文提出締切	
2月3日(月)	学部1次入学試験	学部入試1次選考会議・学部入試1次発表・臨時研究科委員会
5日(水)		
6日(木)	学部2次入学試験	
10日(月)		学部入試2次選考会議・教授会
12日(水)		学部入試2次発表
18日(火)		研究科委員会
19日(水)		看護教育会議
	老年看護学実習(2/10～2/15)	
	看護展開論実習(2/13～3/4)	
	修論審査・最終試験 2月17日～22日	
24日(月)	博士論文発表会	臨時研究科委員会・臨時教授会(4年生単位認定)
25日(火)		
26日(水)	修士課程Ⅱ期入学試験	
27日(木)		理事会・評議員会
3月3日(月)	修士論文発表会(修論・上級実践)	
4日(火)	"	臨時研究科委員会・修士課程選考判定会議
7日(金)	卒業式・修了式予行演習	
10日(月)	卒業式・修了式	
11日(火)		科目等履修生選考会議・教授会
18日(火)		研究科委員会・臨時教授会(1～3年生単位認定)
20日(木)		教育会議・教職員歓送迎会

I 法人機関

1 理事会

1. 役割・職務

- 1) 役員および理事会は、寄附行為第5条から第17条に規定されている。
- 2) 学校法人の業務を決し、役員の選任および解任、理事長の選任を行う。理事の職務の遂行を監督する。理事長を選任する。
- 3) 理事長は法人を代表し、その業務を総理する。
- 4) 監事は、法人業務および財産の監査を実施し、監査報告書を理事会・評議員会に提出する。

2. 活動内容

下記のとおり4回の理事会を開催した。

- 1) 2013年5月30日(木) コートヤード・マリオット銀座東武ホテル

理事11名出席(うち2名委任状出席)、監事2名出席

決議事項

①2012年度決算の承認 ②同決算の監査報告 ③2014年度入学生および在校生の学納金 ④学則変更 ⑤理事の再任および理事長の選任 ⑥評議員の選任 ⑦規程の改定 ⑧ふじみ野市との災害時における避難所等施設利用に関する協定書について

- 2) 2013年9月27日(金) コートヤード・マリオット銀座東武ホテル

理事11名出席(うち3名委任状出席)、監事1名出席・1名欠席

決議事項

①学則変更 ②規程の改定

- 3) 2013年11月27日(水) 聖路加国際病院

理事11名出席(うち3名委任状出席)、監事2名出席

決議事項

①聖路加看護学園と聖路加国際メディカルセンターの一体化について ②寄附行為の変更 ③学則変更

- 4) 2014年2月27日(木) コートヤード・マリオット銀座東武ホテル

理事11名出席(うち2名委任状出席)、監事2名出席

決議事項

①聖路加看護学園と聖路加国際メディカルセンターの一体化について ②法人一体化後の役員・評議員選任および任期の見直しについて ③聖路加国際メディカルセンターの医療関連事業と同事業に関する債務の承継について ④聖路加国際メディカルセンターとの業務委託契約・賃貸借契約締結について ⑤規程の制定および改定などについて ⑥2014年度事業計画・予算案 ⑦学則変更

3. 課題

- ①次回寄附行為改定に向けて、文言の修正、評議員の選出区分等の整理を行う必要がある。
- ②理事の任期が分散しており、任期を統合する必要がある。

2 常任理事会

1. 役割・職務

- 1) 常任理事会規程に規定されている。

理事会の委任に基づき経営の基本方針、全般的業務執行方針、並びに重要な業務の計画・実施に関し協議し、理事会で付議する事項を除き審議し決定する。

- 2) 常任理事会の付議事項については、同規程別表1に規定されている。

2. 活動内容

下記のとおり3回の常任理事会を開催した。

- 1) 第30回 2013年5月24日(金) 会議室

審議事項

①2012年度決算の承認 ②同決算の監査報告 ③2014年度入学生および在校生の学納金 ④学則変更 ⑤理事の再任および理事長の選任 ⑥評議員の選任 ⑦規程の改定 ⑧ふじみ野市との災害時における避難所等施設利用に関する協定書について

- 2) 第31回 2013年9月20日(金) 会議室

審議事項

①学則変更 ②規程の改定

3) 第32回 2014年2月14日(金) 会議室

審議事項

①聖路加看護学園と聖路加国際メディカルセンターの一体化について ②法人一体化後の役員・評議員選任および任期の見直しについて ③聖路加国際メディカルセンターの医療関連事業と同事業に関する債務の承継について ④聖路加国際メディカルセンターとの業務委託契約・賃貸借契約締結について ⑤規程の制定および改定などについて ⑥2014年度事業計画・予算案 ⑦学則変更

3. 課題

- ①聖路加国際大学への移行に伴い、常任理事会機能を強化し、理事会より付託された機関決定を行う会議として再設定する必要がある。
- ②このため、常任理事会の構成員の変更および毎月の開催とするなどの変更も必要である。

3 評議員会

1. 役割・職務

- 1) 評議員会は、寄附行為第18条から第24条に規定されている。
- 2) 寄附行為に規定された諮問事項について、理事長は評議員会の意見を聞かなければならない。諮問事項とは、予算、借入金、基本財産の処分、事業計画、予算外の新たな義務負担または権利の放棄、寄附行為の変更、合併、解散、寄附金品の募集等である。
- 3) 法人業務、財産の状況、役員の実務執行状況について意見を述べ、もしくはその諮問に答え、または役員から報告を徴することができる。

2. 活動内容

下記のとおり4回の評議員会を開催した。

- 1) 2013年5月30日(木) コートヤード・マリオット銀座東武ホテル
評議員26名出席(うち4名委任状出席)、監事1名出席・1名欠席

決議事項

①2012年度決算の承認 ②同決算の監査報告 ③2014年度入学生および在校生の学納金 ④学則変更 ⑤理事の再任および理事長の選任 ⑥評議員の選任 ⑦規程の改定 ⑧ふじみ野市との災害時における避難所等施設利用に関する協定書について

2) 2013年9月27日(金) コートヤード・マリオット銀座東武ホテル

評議員 25名出席(うち4名委任状出席)・2名欠席、監事1名出席・1名欠席

決議事項

①学則変更 ②規程の改定

3) 2013年11月27日(水) 聖路加国際病院

評議員26名出席(うち3名委任状出席)・1名欠席、監事2名出席

決議事項

①聖路加看護学園と聖路加国際メディカルセンターの一体化について ②寄附行為の変更 ③学則変更

4) 2014年2月27日(木) コートヤード・マリオット銀座東武ホテル

評議員26名出席(うち3名委任状出席)・1名欠席、監事2名出席

決議事項

①聖路加看護学園と聖路加国際メディカルセンターの一体化について ②法人一体化後の役員・評議員選任および任期の見直しについて ③聖路加国際メディカルセンターの医療関連事業と同事業に関する債務の承継について ④聖路加国際メディカルセンターとの業務委託契約・賃貸借契約締結について ⑤規程の制定および改定などについて ⑥2014年度事業計画・予算案 ⑦学則変更

3. 課題

- ①学校法人聖路加国際大学への移行に伴い、評議員の選出区分の変更について、次回の寄附行為改定にて実施する必要がある。
- ②評議員の任期が多岐にわたるため、任期の統一を図る必要がある。

4 大学運営会議

1. 役割・職務

「学校法人聖路加看護学園大学運営会議細則」に定められている。

2. 活動内容

- 1) 2013年度は11回開催した。
- 2) 2013年度決算を検討し、2013年5月30日の理事会で承認を得た。2014年度事業計画と予算を編成し、2014年2月27日の理事会で承認を得た。
- 3) 部門別の月次予算執行状況と寄付金募集状況を把握し管理した。
- 4) 各種補助金獲得状況を把握し管理した。
- 5) 各種規程の内容を見直し、2013年5月30日・9月27日・2014年2月27日の理事会で承認を得た。
- 6) 組織図の改編案を作成。2014年2月27日の理事会で承認を得た。
- 7) 聖路加国際病院との一体化計画案を作成し、2013年6月27日に文部科学省へ事前相談書を提出した。寄附行為変更、学則改定、大学院学則改定、法人名称変更、大学名称の変更を検討し、2013年11月27日の理事会で承認を得た。
- 8) 2014年度学納金を検討し、2013年5月30日の理事会で承認を得た。
- 9) 2012年度将来構想委員会の成果（全33項目）を基に、各事業を2013年度（13項目実施）や2014年度の事業計画に組み込んで予算化し（10項目）、実現化を進めた。
- 10) ふじみ野市との災害時における避難所等施設利用に関する協定について検討し、2013年5月30日の理事会で承認を得た。
- 11) 利益相反マネジメント委員会を発足した。
- 12) 立教大学との学部間交流について検討した。
- 13) 中央区との包括連携協定について検討した。
- 14) 本会議メンバーが2013年12月18日の聖路加国際病院短中期経営戦略会議に出席した。

3. 課題

- 1) 法人一体化後の法人全体の円滑な運営に資するた

め、常任理事会の機関決定に必要な事項についての審議を行う会議としての体制整備を行う。具体的には、常任理事会を毎月開催し、理事会および評議員会提出議案の作成に関する事項と理事会決議事項の執行に関する事項について審議して決済する。大学運営会議では、大学の教育に関する基本方針の立案・協議や教員の任用選考および人事に関する協議、そして大学の業務執行方針、重要な業務の計画・実施に関する協議を行う。

5 利益相反マネジメント委員会

1. 役割・職務（聖路加看護学園利益相反マネジメント規程）

学園の常任理事および教職員の利益相反を適切に管理し、利益相反による不利益の防止を図る。

2. 活動内容

今年度は、9月9日に委員会を開催した。

- 1) 利益相反マネジメント規程の内容確認と検討。
 - ・利益相反マネジメントの対象者範囲を再検討し、規程を修正した。9月の理事会にて規程修正は承認された。
- 2) 利益相反ガイドラインおよび利益相反マネジメントポリシーの内容検討。
 - ・委員会にて内容を精査し、ガイドラインおよびポリシーの策定を完了した。

3. 課題

規程及びガイドラインに則り、実際の利益相反マネジメントを運用する必要があるが、聖路加国際メディカルセンターとの法人一体化が決定したことから、一体化後の規程およびガイドライン、運用を検討する必要性が生じたため、今年度中の運用開始は保留となった。

2014年度中に再度検討を行い、運用開始を目指す。

Ⅱ 大学決議機関

1 教授会

1. 役割・職務（学則第40条）

教授会は次の事項を審議する。

- 1) 学則に関する事項
- 2) 教育課程に関する事項
- 3) 研究および教授に関する事項
- 4) 学生の入学、退学、転入学、休学、編入学、再入学、卒業および賞罰に関する事項
- 5) その他学長が諮問する事項

2. 活動内容

定例会（11回）、臨時会（4回）を開催し、上記の審議事項の他に、以下について話し合を行った。

- 1) 本学の教員体制の再編について検討し、2014年度から新たな教員体制で教育・研究を展開することになった。
- 2) 保健師教育を学部から大学院へ移行することの審議が行われ、学部教育の中に地域・在宅看護学の教育を入れることを条件に、保健師教育を大学院修士課程の上級実践コースに移行することが承認された。
- 3) 入試委員会からの提案により、アドミッションポリシーの改正と2015年度学部一般入試科目が決定した。
- 4) 学生が行った懲戒対象事実について審議を行い、無期停学の処分を決定した。その後、医療機関を受診し、病名が確認されたため停学を解き、治療期間の休学を承認した。
- 5) 各種プロジェクトを立ち上げ、計画を実施していくことが承認された。
- 6) 病院との法人一体化に伴い、大学名変更について、大学学則、大学院学則変更が承認された。
- 7) 大学名変更による規程の変更および下記規程の改訂を行った。

教授会規程、カリキュラム運用委員会内規、未来の助産師基金規程、認定看護管理者ファーストレベル講実施細則、入試委員会規程、青木奨学金規程・細則、ウバウバ奨学金規程・細則、名誉教授の称号授与細則。

3. 課題

- 1) 法人一体化のもと、新たな組織体制により、教授会の位置づけ、役割を検討する必要がある。

2 研究科委員会

1. 役割・職務（研究科委員会規程による）

- 1) 大学院担当教員の人事に関する事項
- 2) 入学・修了・休学・退学・転学・留学・賞罰その他学生の身分に関する事項
- 3) 教育課程および研究指導に関する事項
- 4) 学位の審査に関する事項
- 5) その他大学院に関する事項

2. 活動内容

定例委員会（9回）、臨時委員会（10回）を開催し、上記の職務を遂行した。なお、学籍、入試、学位授与のデータに関してはⅢ-2を参照のこと。

- 1) 次年度の非常勤講師、客員教授、特任教員、臨床教員の選任を行った。
- 2) 修士課程推薦入試、修士課程特別入試（看護教育学上級実践コース）、看護学専攻入試Ⅰ期・Ⅱ期、ウィメンズヘルス助産学専攻入試Ⅰ期・Ⅱ期、博士後期課程入試Ⅰ期・Ⅱ期を施行し、入学者を決定した。修了の認定を行い、修了者を決定した。学生からの休学、退学の願いを受けて、審議決定した。
- 3) 特別講義チームビルディングを実施した（詳細はⅢ-2(3)）。

修士論文計画書の審査を行った。

次年度のカリキュラムと担当者、時間割を決定した。次年度より博士後期課程に遺伝看護学を開設、修士課程に看護教育学上級実践コースを開設、専門看護師教育課程申請のためウィメンズヘルス上級実践コースの科目増設を計画し、学則の変更を理事会に提案、承認された。

保健師養成課程の大学院への移行の方針を決定した。

修士課程上級実践コースの実習、課題研究の指導者について、申し合わせを成文化した。

- 4) 修士課程論文コースでは論文審査と最終試験、上

級実践コースは最終試験の委員を決定し、実施した。博士論文審査委員会を設置し、実施した。審査結果の報告を受けて審議し、学位授与を決定した。

博士論文の研究計画書の審査委員会を設置、実施した。審査結果の報告を受けて審議し、論文博合否の判定を行った。論文博士について、資格審査、予備審査、論文審査を実施し、その結果を受けて、学位授与を決定した。

- 5) 修士課程遺伝看護学上級実践コースを日本看護系学会協議会に、専門看護師教育課程として申請し、認可された。

文部科学省による「看護系大学教員養成機能強化事業」に「フューチャー・ナースファカルティ育成プログラム」を申請し採択された。

学費の検討を行い修士課程ではコース別の学費の設定、博士課程の減額を理事会に提案し、次年度からの変更が決定した。

博士論文を本学リポジトリによる Web 公開を本年度より開始した。これに伴い雑誌投稿との関係を整理し、学生に周知した。

3. 課題

- 1) 学校法人の組織変更に伴い、大学院教育に関する規程等の整備が課題である。
- 2) 特別入試のあり方の整備が課題である。
- 3) 保健師養成課程の大学院への移行については、次年度を目標に学則変更が継続審議となっている。

Ⅲ 教学組織

1 看護学部・看護学科

【在籍者】

収容定員に対する在籍者数

(2013.4現在)

学 年	収容定員	現 員 数	休学者数 (内数)	留年者数 (内数)
1 年	75	80	0	0
2 年	80	95	0	1
3 年	80	92	1	3
4 年	80	106	1	4
計	315	373 (118.4%)	2 (0.5%)	8 (2.1%)

【入学者】

学 部

《 》…男子内数

	学部一般	推薦/・帰国生入学			学士編入学	科目等履修生
募集要項配布期間	2013年8月～ 2014年1月	2013年7月～11月			2013年7月～9月	2014年2月～ 2014年3月
願書受付期間	2014年1月6日～ 1月22日	2013年10月18日～ 10月25日			2013年8月30 9月6日	2014年2月24日～ 3月5日
募 集 員	60 (指定校推薦 10名以内を含む)	【推薦】 15	【帰国生】 若干名	【帰国生】 10名以内	20	各科目若干名
志願者数(倍率)	452 (7.5倍) 《28》	43 (2.9倍) 《2》	3 《0》	0 《0》	49 (2.5倍) 《6》	2
受 験 者 数	444 (7.4倍) 《26》	43 (2.9倍) 《2》	3 《0》	0 《0》	45 (2.3倍) 《6》	2
合 格 者 数	1次試験 179 《5》	16	0	0	20	2
	2次試験 91 《1》	《1》	《0》	《0》	《2》	
補 欠 者 数	48				3 《0》	
入 学 者 数	64 《2》	16 《1》	0 《0》	0 《0》	19 《2》	

【卒業生】

	学部一般	編入生
卒業生数	82	21
入学時人数	85	20
上級から加わる	2	1
下級へ下がる	4	0
退学	1	0

【平均修得単位数】

平均修得単位数（学士編入生を除く）

		卒業所要 単位数	平均取得 単位数	最高取得 単位数	最低取得 単位数
教養科目	教養科目	16	26	42	18
	外国語科目	10	10	12	10
	小計	28	36	54	28
基礎科目		32	32	32	32
専門科目		69	73	78	69
総計		129	141	177	130

【国家試験結果】

国家試験結果

	受験者 (名)	合格者 (名)	合格率 (%)
保健師	99	94	94.9
看護師	101	100	99.0

【学部科目等履修生】

科目等履修生開講科目および履修者数(1名)

	授業科目	単位数	履修者数	単位修得者数	単位未履修者数
前期	生命倫理	1			
	看護技術論	1			
	老年看護学（基礎）	1			
	急性期看護論Ⅲ	1	1	0	1
	学校保健	2			
	養護概説	2			
	看護研究Ⅰ	2			
	看護ゼミナール（緩和ケア）	1			
	看護ゼミナール（がん看護）	1			
	看護ゼミナール（遺伝看護）	1			
	看護ゼミナール（老年看護学実践ゼミ）	1			
後期	倫理学	2			
	教育方法の研究	2			
	教育制度論	2			
	カウンセリング概論	2			
	生涯発達論（成人・老年）	2			
	老年看護学（急性期実践方法）	1	1	0	1
	看護政策論	2			
	看護研究Ⅱ	3			
計			2	0	2

【実習施設】

2013 年度実習施設一覧表

	授業科目	単位数	施設名		授業科目	単位数	施設名
1	コミュニケーション実習	1	聖路加国際病院	36	老年看護学実習	3	すえながデイサービス
2	基礎看護技術実習	1	聖路加国際病院	37	老年看護学実習	3	柿生アルナ園デイサービス
3	看護展開論実習	1	聖路加国際病院	38	老年看護学実習	3	みずべの苑デイサービス
4	小児看護学実習	2	聖路加国際病院	39	老年看護学実習	3	高齢者総合福祉施設 晴海苑
5	小児看護学実習	2	済生会横浜市東部病院	40	老年看護学実習	3	なぎさと楽苑デイサービス
6	小児看護学実習	2	神奈川県立 こども医療センター	41	老年看護学実習	3	マイライブ徳丸デイサービス
7	小児看護学実習	2	桜川保育園	42	老年看護学実習	3	南陽園在宅サービスセンター
8	小児看護学実習	2	明石町保育園	43	老年看護学実習	3	第二南陽園 在宅サービスセンター
9	小児看護学実習	2	築地保育園	44	老年看護学実習	3	第二南陽園 在宅サービスセンター
10	小児看護学実習	2	八丁堀保育園	45	老年看護学実習	3	よつば苑通所サービス
11	小児看護学実習	2	十思保育園	46	老年看護学実習	3	三ノ輪通所サービス
12	小児看護学実習	2	堀留町保育園	47	老年看護学実習	3	デイサービスセンター あいおい
13	小児看護学実習	2	人形町保育園	48	老年看護学実習	3	ケアホーム西大井 こうほうえん
14	小児看護学実習	2	日本橋保育園	49	老年看護学実習	3	西大井いきいきセンター
15	小児看護学実習	2	浜町保育園	50	老年看護学実習	3	ユトリアムデイサービス
16	小児看護学実習	2	つくだ保育園	51	老年看護学実習	3	グループホーム人形町
17	小児看護学実習	2	月島保育園	52	老年看護学実習	3	グループホームひまわり
18	小児看護学実習	2	かちどき西保育園	53	老年看護学実習	3	日本橋高齢者在宅 サービスセンター
19	小児看護学実習	2	勝どき保育園	54	老年看護学実習	3	デイサービスセンター なごやか築地
20	小児看護学実習	2	晴海保育園	55	精神看護学実習	2	東京武蔵野病院
21	周産期看護学実習	2	聖路加国際病院	56	地域・在宅看護学実習	2	中央区いきいき桜川
22	周産期看護学実習	2	東府中病院	57	地域・在宅看護学実習	2	中央区いきいき浜町
23	成人看護学実習(急性期)	2	聖路加国際病院	58	地域・在宅看護学実習	2	中央区いきいき勝どき
24	成人看護学実習(慢性期)	2	聖路加国際病院	59	地域・在宅看護学実習	2	中央区築地児童館
25	成人看護学実習(慢性期)	2	国立がん研究センター	60	地域・在宅看護学実習	2	中央区新川児童館
26	老年看護学実習	3	永生会永生病院	61	地域・在宅看護学実習	2	中央区堀留町児童館
27	老年看護学実習	3	救世軍ブース記念病院	62	地域・在宅看護学実習	2	中央区浜町児童館
28	老年看護学実習	3	ブース記念老人保健施設 グレイス	63	地域・在宅看護学実習	2	中央区佃児童館
29	老年看護学実習	3	介護老人保健施設 リハポート明石	64	地域・在宅看護学実習	2	中央区月島児童館
30	老年看護学実習	3	永生会老人保健施設 イマジン	65	地域・在宅看護学実習	2	中央区勝どき児童館
31	老年看護学実習	3	中央区立高齢者在宅サ ビスセンターマイホーム新川	66	地域・在宅看護学実習	2	中央区晴海児童館
32	老年看護学実習	3	中央区立高齢者在宅サ ビスセンターマイホームはるみ	67	地域・在宅看護学実習	2	白十字訪問看護 ステーション
33	老年看護学実習	3	小茂根の郷 在宅サービスセンター	68	地域・在宅看護学実習	2	訪問看護ステーション けせら
34	老年看護学実習	3	練馬高松園デイサービス	69	地域・在宅看護学実習	2	練馬区医師会立 訪問看護ステーション
35	老年看護学実習	3	みやうちデイサービス	70	地域・在宅看護学実習	2	おもて参道 訪問看護ステーション

	授業科目	単位数	施設名		授業科目	単位数	施設名
71	地域・在宅看護学実習	2	訪問看護ステーション みけ	106	総合実習	2	ひやしんす城北地域 活動支援センターⅢ型
72	地域・在宅看護学実習	2	板橋ロイヤル 訪問看護ステーション	107	総合実習	3	東芝ヒューマンアセットサ ービス株保健支援事業部
73	地域・在宅看護学実習	2	浅草医師会立訪問看護 ステーション	108	総合実習	2	N T T 東日本首都圏 健康管理センター
74	地域・在宅看護学実習	2	城北訪問看護 ステーション	109	総合実習	2	小児保健福祉センター
75	地域・在宅看護学実習	2	自由が丘 訪問看護ステーション	110	総合実習	2	中央区医師会立訪問看護 ステーションあかし
76	地域・在宅看護学実習	2	医師会立品川区 訪問看護ステーション	111	総合実習	2	永生会永生病院
77	地域・在宅看護学実習	2	東電さわやか訪問看護 ステーション中野	112	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	青山学院中等部
78	地域・在宅看護学実習	2	医師会立中央区 訪問看護ステーション	113	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	専修大学松戸高等学校
79	地域・在宅看護学実習	2	岩本町訪問看護 ステーション	114	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	東京学芸大学附属 竹早小学校
80	地域・在宅看護学実習	2	桜台訪問看護 ステーション	115	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	千葉県立柏高等学校
81	地域・在宅看護学実習	2	あすか山訪問看護 ステーション	116	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	蕨崎市立甘利小学校
82	地域・在宅看護学実習	2	河北訪問看護・リハビリテ ーション阿佐ヶ谷	117	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	筑波大学附属小学校
83	地域・在宅看護学実習	2	すみだ医師会・すみだ訪問 看護ステーション	118	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	東京学芸大学附属 世田谷小学校
84	地域・在宅看護学実習	2	訪問看護ステーション けやき	119	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	鴻巣市立下忍小学校
85	地域・在宅看護学実習	2	訪問看護ステーション 芦花	120	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	山形県立山県西高等学校
86	地域・在宅看護学実習	2	訪問看護ステーション 北沢	121	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	山脇学園中学校・高等学校
87	地域・在宅看護学実習	2	訪問看護ステーション さぎそう	122	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	品川区立立三木小学校
88	地域・在宅看護学実習	2	すみれ訪問看護 ステーション	123	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	目黒区立第七中学校
89	地域・在宅看護学実習	2	大島訪問看護 ステーション	124	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	文教大学附属中学・高等 学校
90	地域・在宅看護学実習	2	新みさと訪問看護 ステーション	125	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	板橋区立中根橋小学校
91	地域・在宅看護学実習	2	セコムとしま 訪問看護ステーション	126	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	白井市立白井第二小学校
92	地域・在宅看護学実習	2	セコム吉祥寺 訪問看護ステーション	127	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	国際基督教大学高等学校
93	地域・在宅看護学実習	2	セコム世田谷 訪問看護ステーション	128	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	東京学芸大学附属高等学校
94	地域・在宅看護学実習	2	セコム市川 訪問看護ステーション	129	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	東京都立戸山高等学校
95	地域・在宅看護学実習	2	滝野川病院訪問看護 ステーション	130	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	玉川聖学院
96	総合実習	2	聖路加国際病院	131	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	中央区泰明小学校
97	総合実習	2	訪問看護ステーション パリアン	132	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	松戸市立高木小学校
98	総合実習	2	齋藤助産院	133	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	江東区東雲小学校
99	総合実習	2	助産婦石村	134	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	東洋女子高等学校
100	総合実習	2	豊倉助産院	135	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	成蹊中学高等学校
101	総合実習	2	東邦大学医療センター 大森病院	136	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	大垣市立興文中学校
102	総合実習	2	東京武蔵野病院	137	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	松江北高等学校
103	総合実習	2	多摩たんぼぼ 訪問看護ステーション	138	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	広尾学園中学校・高等学校
104	総合実習	2	多摩たんぼぼ訪問看護 ステーションむれ				
105	総合実習	2	多摩たんぼぼ訪問看護 ステーションむさしの				

Class of 2014 (2014年3月卒業) 総合看護・看護研究Ⅱタイトル一覧

学籍番号	氏名	領域	指導教員	タイトル
10B001	相沢絵里奈	母性・助産学	五十嵐ゆかり	緊急帝王切開を体験した女性へのパースレビューの現状
10B002	浅海りり子	教養	鶴若 麻理	「よい看護師」に求められる特質に関する研究 ー看護師の視点からー
10B003	浅野 祥子	成人(急性期)	宇都宮明美	ICUで死を迎えた患者の家族に対するグリーフケアの実際
10B004	安部 克憲	基礎	大久保暢子	遷延性意識障害患者と看護師の相互作用とそれによる看護ケアへの影響
10B005	新井さよ子	国際	長松 康子	途上国で活動を行う日本人助産師ワーカーが直面する困難とその対処
10B006	新井 柚子	地域	大森 純子	住民の暮らしを守る一次医療圏の役割 ー北海道の地域でのフィールドワークを通してー
10B007	伊澤 真穂	基礎	伊東美奈子	新卒看護師の職業継続を支える要因 ～入職7か月目の看護師へのインタビュー調査から～
10B008	今井 莉絵	母性・助産学	飯田真理子	緊急帝王切開術前から術後にかけて母親が医療者に求めるケアについての文献検討
10B009	色川ゆかり	教養	菊田 文夫	親子キャンプのプログラムや、家族を超えた共同生活が親の子どもをみる視点の変化や子どもに対する気持ちの変化が与える家族に対する影響
10B010	上原 侑莉	教養	菊田 文夫	自然体験活動におけるスタッフ間のコミュニケーションに関する考察 ー聖路加親子キャンプの事例を通してー
10B011	内山貴美子	基礎	大久保暢子	失語症患者に対する看護師のコミュニケーション技術の検討
10B012	大塚 早記	地域	小野若菜子	神経難病患者の家族が長期在宅介護を継続している要因
10B013	近江 麻耶	教育	三浦友理子	看護学実習において看護学生が楽しさを感じた状況の質的分析
10B014	岡本野乃香	成人(急性期)	櫻井 文乃	救命救急領域で働く看護師が抱く家族成員の突然死に直面した患者家族へのケア実施に対する意識
10B015	荻原 沙奈	母性・助産学	森 明子	女子大生に対する妊娠前教育の実践と評価
10B016	鎌田 舞子	母性・助産学	五十嵐ゆかり	周産期搬送システムの現状と課題 ー助産師が担う搬送コーディネーターに焦点をあててー
10B017	白木 美穂	教養・情報	中山 和弘	Q & Aサイトの投稿から見た不妊者の不妊治療のステージによる悩みの変遷
10B018	加舎美智瑠	精神	木戸 芳史	成人期の自閉症スペクトラム障害を持つ人の抱える課題と介入
10B019	川上 玲子	国際	長松 康子	フィリピンの首都マニラにおける中産層の人々の死生観
10B020	川口 彩香	基礎	大久保暢子	脳神経病棟における身体抑制の現状とそれに替わる看護技術の検討
10B021	岸本 璃子	学校保健	三森 寧子	高等学校における発達障害をもつ生徒への養護教諭のかかわりの現状と課題
10B022	木村 有里	教育	松谷美和子	特定保健指導における減量成功者の契機と困難：アセスメント・指導方法に焦点化して
10B023	清野 薫	精神	大橋 明子	国内における乳がん患者の精神的苦痛の介入の実際とその効果 ー看護職の介入の拡大に焦点を当ててー
10B024	金 郁慧	母性・助産学	片岡弥恵子	NICU・GCUにおける多職種連携と看護職の役割
10B025	小林 真衣	小児	小野 智美	外来で採血を受ける幼児後期～学童前期の子どもの達成感・満足感を高める看護援助についての考察 ～処置前の紙芝居、処置後のあそびを通して～
10B026	駒井 瑞穂	成人(急性期)	池口 佳子	グリーフケアに関する文献検討 ー現状と家族にもたらす効果についてー
10B028	櫻庭 友里	成人(慢性期)	飯岡由紀子	在宅療養を希望する終末期患者とその家族への退院調整を担う施設側看護師のケアと役割についての文献的考察
10B029	佐藤 秀美	精神	角田 秋	精神疾患を抱える思春期・青年期患者に対するアプローチ ～うつ病、希死念慮を抱える患者に焦点を当てて～
10B030	佐藤 博美	小児	眞鍋裕紀子	幼児期後期から学童期前期の小児がんの子どもに対する病状説明の現状と課題について
10B031	佐藤 舞	成人(慢性期)	飯岡由紀子	乳がん術後患者のリンパ浮腫発生後の効果的なセルフケア支援
10B032	佐藤 明衣	国際	長松 康子	開発途上国における日本人ワーカーの現地スタッフとの信頼関係構築に関する研究
10B033	澤田 彩乃	学校保健	岩辺 京子	知的障害のある子どもへの“性に関する指導”の展望 ー教諭や保護者へのインタビューを踏まえてー

学籍 番号	氏 名	領 域	指導教員	タイトル
10B034	設樂 理砂	成人 (急性期)	宇都宮明美	多職種が活動する災害時における看護師の役割 —東日本大震災でのDMAT看護師の活動の現状と課題
10B035	菅原 才加	精神	木戸 芳史	新卒看護師における初年度のメンタルヘルス等の推移に関する文献検討
10B036	相馬 幸代	母性・ 助産学	川元 美里 森 明子	産業看護職が就労女性に行っているリプロダクティブ・ヘルスの支援の現状
10B037	高橋 昇平	教養・ 情報	中山 和弘	Q & A サイトへの投稿から見た発達障害者とその家族の小学生からの学校生活上での困難
10B038	高橋 知里	地域	小林 真朝	保健師にとっての事業化とは
10B039	高橋やよい	管理	吉田 千文	一般病棟看護師のがん患者の看取り後の思いとその後の心理的変化に関する研究
10B040	田口 智子	学校 保健	岩辺 京子	思春期やせ症の児童・生徒への養護教諭の支援の在り方
10B041	竹田 千慧子	教養・ 情報	中山 和弘	成人女性を対象とした HPV ワクチン接種に関する意思決定支援ツールの作成と評価
10B042	立川 桃子	成人 (慢性期)	飯岡由紀子	終末期患者・家族への病状説明に対し一般病棟の看護師が抱く困難感と看護の検討
10B043	田中 千紘	管理	吉田 千文	看護における接遇と東京ディズニーリゾートにおけるホスピタリティの看護への適用可能性
10B044	玉谷 知佳	成人 (慢性期)	飯岡由紀子	抗がん剤の副作用により手足症候群を発症したがん患者に対する外来看護：実情と課題
10B045	田村 芽唯	地域	大森 純子	離島に夫婦で暮らし続けることへの思い ～佐渡島の山奥で生活する後期高齢者夫婦において、認知症の夫を介護しながら生活する妻へのインタビューより～
10B047	傅田あすか	学校 保健	岩辺 京子	日本と諸外国の性教育の実態と今後の課題 —高校一年生へのアンケート調査を通じて—
10B048	土井 愛弓	教養	菊田 文夫	宿泊型自然体験活動が参加者である親に与える効果についての研究 —聖路加看護大学が主催する親子キャンプを通して—
10B049	徳道 亜紀	小児	平林 優子	痛みを伴う検査、処置を受ける子どもへのプレパレーションのあり方の考察 —看護師の関わりの観察、インタビュー、実践の分析を通して—
10B050	永野 花香	老年	千吉良綾子	特別養護老人ホームでの看取り教育に関する文献検討 —教育ニーズ・課題、教育プログラムの視点から—
10B052	名取 茜	精神	大橋 明子	精神疾患を抱える患者の暴力や攻撃性に対する精神科看護師のかかわり方の現状
10B053	野澤 幸恵	基礎	菱沼 典子 加藤木真史	経管栄養を受けている患者への看護ケアの実際 —人間にとっての食事の視点から—
10B054	萩原 由奈	成人 (急性期)	宇都宮明美	ICUに緊急搬送された患者家族の情報に関するニーズに対する具体的介入方法の検討
10B055	平岡沙梨衣	母性・ 助産学	五十嵐ゆかり	NICUにおける父親へのケアの現状
10B056	平澤 洋美	地域	麻原きよみ	耐糖能異常を有しながら中小企業で働く人々に保健師が行う効果的な支援と役割につて —インタビューからの考察—
10B057	平原 綾乃	成人 (慢性期)	高田 幸江	ターミナル期にある、トータルペインを抱える患者に対するケアの検討
10B058	深堀 書加	精神	大橋 明子	精神障がい者の異性との付き合い方に関する悩みとその援助について
10B060	藤田 ゆり	母性・ 助産学	飯田真理子	看護職が妊娠期や産褥期にある女性に対して行う効果的な教育・指導のありかたに関する文献検討
10B061	舟塚 愛美	学校 保健	三森 寧子	事例からみた思春期の発達障害児に対する支援について
10B062	古内 早紀	小児	平林 優子	乳幼児期の小児がん患児の両親が抱く不安と看護支援の検討 ～小児病棟での実習を通して～
10B063	別府 紫	教育	三浦友理子	高校生に対する知識の伝達にとどまらない性教育に関する授業の現状
10B064	穂積 咲希	教養	鶴若 麻理	看護大学生の臨床実習時におけるソーシャルネットワーキングサービス利用の状況と今後の課題
10B065	堀 真紀子	国際	長松 康子	帰国子女の海外生活及び帰国後の生活に体験する困難とその支援策
10B066	本間 美葉	母性・ 遺伝	有森 直子	ダウン症候群児と家族のための発達・支援ガイドマップの作成

学籍 番号	氏 名	領 域	指導教員	タイトル
10B067	牧 理絵	学校 保健	三森 寧子	小学校高学年の子どもの睡眠に関する実態から考える養護教諭としての支援の 在り方～小学5年生へのアンケート調査と学級担任・養護教諭へのインタビュー を通して
10B068	真下 結	教養	鶴若 麻理	終末期における治療差し控えおよび中止に関する家族の代理意思決定で生じる 葛藤
10B069	松谷 遥	老年	亀井 智子	転倒骨折予防実践講座参加者における講座参加後の転倒予防行動への取り組み ー講座に参加する都市部在住高齢者を対象とした短期的評価ー
10B071	丸山 紗希	管理	吉田 千文	東日本大震災時の避難所における、被災者の「食」の実態と課題
10B072	三浦 敬美	地域	小林 真朝	生活習慣病改善にむけた健康関連アプリケーションにおける医療専門職による 健康支援
10B073	三上 文香	母性・ 助産学	川元 美里 蛭田 明子	生まれてすぐに子どもを亡くした両親が社会の中で体験する辛さとその対処
10B074	水沼たまみ	成人 (急性期)	櫻井 文乃	術前患者の自信を引き出す日常的な看護援助における現状と課題
10B075	三橋 りさ	基礎	大橋久美子	看護場面におけるタッチングに関する学生の認識と実践の調査
10B076	宮田 理絵	成人 (急性期)	櫻井 文乃	ICUに緊急入院した患者家族への看護援助における看護師の認識
10B077	八重畑春香	母性・ 助産学	小黒 道子	口唇口蓋裂児の出生における、産科入院中の両親への効果的な早期看護支援の 検討
10B078	安田 理恵	成人 (急性期)	池口 佳子	術後訪問を通して手術室看護師が経験したこと
10B079	安本 悠	基礎	佐居 由美	術後せん妄予防のための効果的な看護ケアに関する文献検討
10B080	安諸 美希	成人 (急性期)	林 直子	がん化学療法の有害事象である味覚障害への看護の検討
10B081	山口 美夏	学校 保健	岩辺 京子	日本の養護教諭とイギリスのスクールナースの比較 ～学校での役割や特性に着目して～
10B082	山田 花恵	小児	平林 優子	長期入院中の幼児期の子どもに対する遊びを取り入れたかかわりとその意味 ー看護師・医師・保育士・CLSの入院児とのかかわりー
10B083	山西 杏奈	母性・ 助産学	新福 洋子	産後1か月の褥婦の母親役割獲得の過程と必要なサポート
10B084	吉田 苑子	地域	小野若菜子	新人訪問看護師への支援体制の現状に関する文献検討
10B085	若林 美里	学校 保健	三森 寧子	思春期における「いじめ」の実態と支援について考える ー実際に職場で働く 教師及び看護学生へのアンケート、養護教諭へのインタビューを通してー
09B047	高木 慶子	教育	松谷美和子	認知症介護者の精神的負担 ～介護体験の「語り」から読み解く精神的負担の 原因と強み～
09B049	高橋 奈弓	基礎	佐居 由美	要介護高齢者の「思い」に関する文献的考察
11B072	板橋みずほ	教養・ 情報	中山 和弘	主要新聞社の記事にみる時代背景によるうつ病像の変化と医療化
11B073	遠藤まりえ	成人 (慢性期)	飯岡由紀子	看取りを経験した病棟看護師が抱くターミナルケアの魅力
11B074	斉藤 典子	精神	角田 秋 大橋 明子	精神障害者きょうだいの精神保健医療福祉に関する思い
11B075	進藤 寛子	学校 保健	岩辺 京子	養護教諭の児童虐待への早期発見と支援のあり方 ー児童虐待事例に関わった養護教諭へのインタビューを通してー
11B076	杉山栄美子	管理	倉岡有美子	家族支援専門看護師の活動の実態と課題
11B077	高橋 孝	教養・ 情報	中山 和弘	エビデンスの効果サイズに対する一般社会の認知バイアスとその経済的影響評 価：精神科領域の事例を用いたベイズモデル（MCMC法）及び産業連関分析の 応用
11B078	伊達 尚江	精神	木戸 芳史	精神科訪問看護利用者の思いと、地域で求められる看護支援のあり方に関する 文献レビュー

学籍 番号	氏 名	領 域	指導教員	タイトル
11B079	田中 翔純	教養	鶴若 麻理	重篤な疾患を持つ新生児の治療方針決定に関する親の後悔を軽減するサポート
11B080	鶴見 晋親	管理	倉岡有美子	病院に勤務する看護師の給与と給与決定に影響を与える要因
11B081	徳永亜衣子	精神	大橋 明子	精神障害者のリハビリを促すためのストレスを生かした看護支援の具体的な実践方法 - ストレスモデルの視点から -
11B082	富澤 真希	管理	倉岡有美子	学士号を持つ看護系大学生が最終学年時に描くキャリアデザイン
11B083	小野 奈海	母性・ 遺伝	有森 直子	ウェブ上にみられる市民の遺伝子検査に関する関心事項
11B084	邊見由紀子	成人 (急性期)	池口 佳子	在宅療養を行う終末期がん患者の家族介護者の体験に関する文献的考察
11B085	星名 美佳	母性・ 助産学	蛭田 明子	流産、死産、新生児死にかかわる看護職が抱く感情に関する文献検討
11B086	増澤摩利子	精神	角田 秋	精神疾患を持つひとを地域で支える、日本におけるアウトリーチ支援：ACT(Assertive Community Treatment/包括型地域支援プログラム)の現状と課題
11B087	松村 晶子	成人 (急性期)	宇都宮明美	クリティカルケア領域における患者のアドボカシーに関する研究動向
11B088	松本 砂里	教養・ 情報	中山 和弘	職場のメンタルヘルス対策用eラーニングの現状と課題 - プログラムの信頼性、ポジティブ心理学普及度の視点からの検討 -
11B089	望月 優加	成人 (急性期)	池口 佳子	手術室看護師が実施する術前訪問の現状に関する文献検討
11B090	山田 珠里	老年	梶井 文子	日本の認知症高齢者施設における物理的な住環境に関する研究の文献検討
11B091	米持 美穂	成人 (慢性期)	飯岡由紀子	患者の成人型アトピー性皮膚炎治療に対する認識とQOL維持・向上に必要なケアの文献的考察
07B081	竹内 博美	教養・ 情報	中山 和弘	医療の現場に『ナラティブ』という視点を生かす意義 ~看護師・患者間のコミュニケーションギャップの実際を通して~

【学部選択科目履修状況】

(新カリキュラム)

		授業科目	学年	人数
教養科目	人間と文化	キリスト教倫理	1年	37
		音楽	1・2年	26
		美術	1・2年	53
		文学	1・2年	56
		哲学	1年	8
		倫理学	1・2年	8
		宗教学	1・2年	22
	人間と社会	歴史学	1・2年	5
		法学（日本国憲法）	1年	72
		教育原理	1年	49
		教育方法の研究	1年	21
		社会学	1年	48
		心理学	1年	39
		教育制度論	2年	9
		カウンセリング概論	2年	16
		教職概論	2年	8
		道德及び特別活動論	3年	12
	人間と言語	国語表現法	2年	2
		選択英語Ⅰ	1・2年	9
		選択英語Ⅱ	2年	0
選択英語Ⅲ		3年	6	

		授業科目	学年	人数
教養科目	人間と言語	海外語学演習	1・2年	10
		ドイツ語Ⅰ	1年	14
		ドイツ語Ⅱ	2年	2
		中国語	1・2年	3
	人間と情報	基礎統計学	1年	6
		生物学	1年	9
	人間と環境と自然	物理学	1年	12
		化学	1年	6
		体育Ⅰ	1年	73
	総合科目	体育Ⅱ	1・2年	82
		総合科目Ⅱ（健康科学）	1年	13
		総合科目Ⅲ（ボランティア活動学習）	1年	6
		総合科目Ⅳ（自校学習）	1年	6
		総合科目Ⅴ（国際交流演習）	1・2年	10
	基礎科目	環境と健康	保健統計	3年
専門科目	看護実践	学校保健	3年	81
		国際看護学	1年	82

(旧カリキュラム)

		授業科目	学年	人数
基礎科目	人間と社会	法学（日本国憲法）	4年	3
		教育課程論	4年	26
		道徳及び特別活動論	4年	28
		生徒指導論	4年	26
	人間と情報	統計学演習	4年	5
	体育	体育Ⅰ	3年	4
		体育Ⅱ	4年	3
	総合科目	総合科目Ⅳ （国際交流演習）	3・4年	
		教職実践演習	4年	28
	看護の基本	看護提供システムⅡ	4年	8
		看護技術論	4年	0
	人間の保持・環境の相互作用の強化	生涯発達看護論Ⅲ	4年	開講せず
		家族発達看護論Ⅱ	4年	12
		地域看護論Ⅲ	4年	12
		養護概説	4年	28

		授業科目	学年	人数
人間と環境の相互作用の修正	人間の回復・保護	慢性期看護論Ⅲ	4年	0
		リハビリテーション看護論Ⅱ	4年	11
		急性期看護論Ⅲ	4年	44
専門科目	看護学統合	看護研究Ⅱ	4年	86
		総合看護	4年	14
		看護ゼミナール（権利が脅かされやすい状況にある子どもと家族の看護）	4年	2
		看護ゼミナール（遺伝看護）	4年	7
		看護ゼミナール（看護教育）	4年	1
		看護ゼミナール（国際看護）	4年	6
		看護ゼミナール（老年看護実践）	4年	1
		看護ゼミナール（学校における救急処置）	4年	28
		看護ゼミナール（自校史演習）	4年	0
		看護ゼミナール（生活行動が障害された患者とその家族への看護）	4年	3
		看護ゼミナール（がん看護）	4年	9
		看護ゼミナール（緩和ケア）	4年	3
		看護ゼミナール（チームチャレンジ）	4年	9
		養護実習Ⅰ	4年	28
養護実習Ⅱ	4年			

【立教大学全学共通カリキュラム】履修状況

授業科目	履修者数
対人関係の心理	3
多文化の世界	1
維持可能な社会と平和	1
立教大学の歴史	2
思索と人生	2

【立教大学科目履修状況】

	前期	後期
開講科目数	182	204
履修科目数	5	0
履修者数	9	0
単位習得率	100%	

(1)看護教育会議

1. 役割・職務

1) 主たる実習病院である聖路加国際病院看護部と連携をはかり、本学の看護教育の質の向上をはかることを目的とする。個別の実習科目については、看護部、教育研修部ならびに当該病棟との事前打ち合わせ、事後の報告・反省会を行うので、看護教育会議では実習全体の課題の共有や、看護教育界、実践現場の新しい情報を相互に提供しあう。

2. 活動内容

本年度は大学と病院の一体化に向けて、秋から病院看護部との定期的な連絡会（看護ワーキング）を行った。その中で、実習のやり方についての検討を重ね、次年度学部実習担当者を各部署に配置する方針が示され、役割の明文化をおこなった。また次年度の会議の持ち方も検討し、年4回うち2回は学部実習担当者も参加する事とした。

また、看護ワーキングで組織変更の説明会（3月）と、学部実習担当者の研修会（3月と4月の2段階）を計画し、実施した。

1) 会議

上記の目的で会議を4月、7月、2月の3回開催した。参加人数は4月は病院28名、大学37名、7月は病院32名、大学37名、2月は病院31名、大学38名であった。

2) 内容

4月：病院からは看護部の体制、新人オリエンテーション、採用計画、病院の新規事業計画等の報告があった。大学からは学校法人のもとでの大学と病院の一体化構想について、学長より説明を行った。その後、メンバー紹介、学生数、国家試験結果、カリキュラムの年間計画（実習計画を含む）、多様な学生の学びについて、チームビルディング力育成プログラム、研究センター事業、交換留学生等の報告を行い、大学の広報活動の病院との連携、実習のあり方について意見交換を行った。

7月：病院からは次年度の採用状況、新人職員の状況、大学からは学生の実習状況、入試日程、交換留学生等について報告を行い、大学院修士課程において看護教育学の上級実践コース（CNE）の開設、保健師育成を大学院教育へ移行することの計画について説明を行った。

2月：病院からの就職状況に関する報告のあと、次年度から試みる実習のやり方に関し、「実習部署スタッフの役割」「学部実習担当者の役割」「教員の役割」につい

て報告し、意見交換を行った。

3. 課題

1) 次年度は組織編成が大幅に変わり、看護部とのより緊密な連携を行って、大学の教育・研究の向上と、病院のスタッフ教育・実践の向上をともに目指す事となる。この目標を牽引できる有用な会議となるよう計画していく。

(2)教育会議

1. 役割

本学専任の教職員の他に、非常勤講師、臨床教員が一同に会し、その年度の本学の活動内容および次年度の活動内容を知ってもらうこと、また、意見交換を行い本学の教育の質の向上を目指す。

2. 活動内容

毎年年度末に1回開催している。2013年度は3月20日（木）16：00～17：43に開催し、名誉理事長、理事長、学長、専任教職員（69名）、客員教授（5名）、兼任教授（2名）、非常勤講師（10名）、臨床教員（3名）、新任教職員（8名）、出向者（4名）計104名の出席があり、以下の内容で進められた。

- 1) 名誉理事長挨拶
- 2) 理事長挨拶
- 3) 学長挨拶
- 4) 大学の状況報告

事務局長より、将来構想を踏まえた2013年度の重点目標評価について、達成度の報告があった。その他、学部長より教育活動、研究センター長より研究活動、学生部長より卒業生・修了生の動向について、それぞれ報告があった。

5) 法人一体化に伴う組織体制について

事務局長より、2014年度からの学校法人聖路加国際大学の組織体制について組織図をもとに説明があった。さらに、学部長より教育組織を5部門に再編したこと、2014年度の委員会についての説明があり、事務局長より事務組織について説明があった。

6) 2014年度の教育計画について

事務局長より、2014年度の重点目標について説明があった。学部長からは学事暦について、本年度は暦通りに授業を実施するが、11月のみハッピーマンデー対策として、土曜日に2回補講日が入る旨の説

明があった。また、教務部長からは授業実施計画および新入生の報告があった。

7) 教育に関する意見交換

前回話題となった英語教育について、国際化推進委員会委員長より、今年度実施された交換留学、グローバルヘルスセミナー、N-CLEX 講座等の紹介があり、2015年にはイリノイ大学への留学や外国人患者とのロールプレイングを取り入れた医療英語などの実施を計画しているとの報告があった。

学生が留学を考える際の費用の問題が挙げられ、助成金の設立や予算措置をしてほしいとの意見があり、具体的に検討していくことになった。

3. 課題

非常勤講師や臨床教員に本学の活動を知ってもらうよい機会である。外部講師の出席者が少ないことは変わっていない。今回は、病院との法人一体化についての報告があったため、意見交換の時間が少なくなってしまった。法人一体化に伴い、今後、この会議が有効に機能していくために、どのように実施していくか検討していく必要がある。

(3) 養護教諭養成プログラム運用委員会

1. 役割・職務

- 1) 養護教諭一種免許取得に係るカリキュラムの運用を探る。
- 2) 養護教諭養成の将来の在り方を探る。
- 3) 在学生・卒業生の進路と動向について把握する。

2. 活動内容

- 1) カリキュラム内容及び履修時期について検討し、適正化を探る。
- 2) 履修カルテの検討・作成。
- 3) 本学における養護教諭養成に関して検討する。
- 4) 学生・卒業生の進路を把握し、可能な援助を検討する。

3. 課題

- 1) 養護実習と教員採用試験に関すること。
- 2) 科目内容及びカリキュラムの在り方。

4. 資料

なし

(4) 多様な学生の学びに関するプロジェクト

1. 役割・職務

- 1) 多様な学生の学生生活および修学・就職支援に関すること
- 2) 支援を行うための財源の確保と物品の調達

2. 活動内容

- 1) 聴覚障害学生の情報保障に関するニーズの把握と支援方法の検討
- 2) パソコンテイク、ノートテイク、手話通訳、DVD/ビデオ教材文字起こし等の手配並びに支援に関わる人件費の処理
- 3) 実習・インターンシップ時における手話通訳士の保険加入手続き
- 4) 財源の確保および実習必要物品（電子血圧計カフス等）の購入
- 5) 音声認識システムの試用と評価
- 6) 科目・実習担当教員による履修状況等の情報交換
- 7) 「就職・進学ガイダンス」の情報保障
- 8) 就職およびインターンシップに関する学生部長との個別面談調整
- 9) 「大学における障害学生の受け入れ状況に関する調査2014」（全国障害学生支援センター）への回答
- 10) 2014年度学士編入学入学生への教務部長・学生部長による入学前相談の実施およびFS ミーティング内での教職員への周知

3. 課題

- 1) 私学事業団補助金の削減に伴い本学での予算化が必須となること
- 2) 各科目によって講義形態、資料作成方法が異なり、実習は領域や対象者によって個々に支援内容の検討が必要であること
- 3) 講堂、校舎外など広い場所ではさらに情報伝達の困難さが生じること
- 4) 4年次「養護実習Ⅰ・Ⅱ」における情報保障の検討
- 5) 内部障害および精神的な問題を抱える学生への支援方法の検討
- 6) 聴覚障害を持つ次年度新入生への支援方法の検討

(5)公衆衛生看護学実習プロジェクト

1. 役割・職務

- 1) 公衆衛生看護学実習に31名以上が履修することへの対応

2. 活動内容

会議を5回実施、また福島県いわき市、長野県松本市に出向いて担当者間の会議を実施し、以下のことを検討および実施した。

- 1) 公衆衛生看護学実習Ⅱの実習先としていわき市、松本市の承諾を得た。
- 2) いわき市、松本市の担当者の実習目的・目標、内容、実習方法、実習する保健センターと学生数、宿泊場所、移動方法などについて打ち合わせを行った。
- 3) 特別区および小鹿野町以外で実習する学生の保健所実

習について、いわき市保健センターでの受け入れの承諾を得た。また、いわき市までの移動方法、実習のスケジュールおよび内容を決め、いわき市の承諾を得た。

- 4) 公衆衛生看護学実習Ⅰの領域および実習場所を確認、決定した。
- 5) 公衆衛生看護学実習ⅠⅡの実習担当者を各領域の確認を取りながら確定した。
- 6) 総合実習領域選択および公衆衛生看護学実習Ⅱガイドの資料、内容、進め方について検討し、実施した。
- 7) 公衆衛生看護学実習ⅠとⅡの希望の取り方および割付け方法を検討し決定、および実施した。

3. 課題

- 1) 公衆衛生看護学実習ⅠⅡ実施において生じる問題への対応と効果的な運用のための検討。
- 2) 2015年度実習に向けた準備

2 看護学研究科

大学院収容定員に対する在籍者数（2013.4現在）

修士課程

学 年	収容定員	現 員 数
1 年	看護：15	19 (7)
	ウィメンズ：15	18 (1)
2 年	看護：15	24 (5)
	ウィメンズ：15	16 (0)
3 年	看護	6 (6)
	ウィメンズ	1 (1)
計	60	84 (140.0%)

博士後期課程

学 年	収容定員	現 員 数
1 年	10	13
2 年	10	12
3 年	10	25 (内留年者 13)
計	30	50 (166.8%)

()：社会人うち数

大学院入学状況

	修士課程						計
	当該大学 出身者	他大学出身者			外国の 学校卒	その他	
		国立	公立	私立			
看護学専攻	7	2	2	8	0	0	19
ウィメンズ	8	1	4	5	0	0	18

	博士後期課程						計
	当該大学院修 士課程 出身者	他大学出身者			外国の 学校卒	その他	
		国立	公立	私立			
博士後期課程	8	3	2	0	0	0	13

看護基礎教育機関別入学状況（2013年度入学者）

		看護教育機関	大 学	短期大学	専門学校	なし	計
入 学 者 数	修士 課程	看護学専攻	18	0	1	0	19
		ウィメンズ	16	1	1	0	18
	博士後期課程		11	1	1	0	13

修士課程大学（学部）卒業年別入学状況（2013年度入学者）

大学卒業年度		2013年3月 大 学 卒	2012年3月 大 学 卒	2011年3月 以前大学卒	その他* (外国卒等)	計	左記のうち 有 職 者 数
入 学 者 数	看護学専攻	1	1	18	0	19	18
	ウィメンズ	9	0	9	0	18	9

*その他に大学評価・学位授与機構を含む

研究生等の学生数（2013年度）

研 究 生		計
学部卒以上	左記以外	
0	3※	3

※修士課程修了者

大学院修了者数

修 士 課 程		博士後期課程 (学位授与)	博士後期課程 (単位取得後退学者)	論文博士 (学位授与)
看護学専攻	22 うち社会人 5	11 (4)	0	1
ウィメンズヘルス・ 助産学専攻	16 うち社会人 1			

() 内は学位授与者のうち単位取得後退学後再入学し学位を受けたもの

大学院科目等履修者受け入れ状況

授業科目	単位数	履修者数	単位取得者数
急性期看護学特論Ⅲ	2	1	1
急性期看護学特論Ⅲ	2	2	2
実習（急性期看護学）	6	1	1

研究生受け入れ状況

指導教授	研究生数
田代順子教授	1
菱沼典子教授	1
松谷美和子教授	1

大学院受入状況（2013年度実施）

修士課程	学内推薦	I期	II期	看護教育学 特別入試
試験日	2013年7月24日	2013年9月12日	2013年2月27日	2013年12月13日
願書受付期間	2013年7月3日 ～7月10日	2013年8月21日 ～8月28日	2013年2月5日 ～2月12日	2013年12月3日 ～12月5日
募集人員	若干名	㊦： 12 ㊧： 12	㊦： 3 ㊧： 3	若干名
志願者数	㊦： 1 ㊧： 5	㊦： 17 うち社会人 4 ㊧： 15 うち社会人 0	㊦： 12 うち社会人 3 ㊧： 3 うち社会人 2	5
受験者数	㊦： 1 ㊧： 5	㊦： 17 うち社会人 4 ㊧： 15 うち社会人 0	㊦： 12 うち社会人 3 ㊧： 3 うち社会人 2	5
合格者数	㊦： 1 ㊧： 5	㊦： 11 うち社会人 3 ㊧： 12 うち社会人 0	㊦： 11 うち社会人 3 ㊧： 12 うち社会人 0	5
入学者数	㊦： 1 ㊧： 3	㊦： 9 うち社会人 3 ㊧： 8 うち社会人 0	㊦： 8 うち社会人 3 ㊧： 3 うち社会人 2	5

㊦：看護学専攻 ㊧：ウィメンズヘルス・助産学専攻

博士後期課程	I期	II期	研究生
試験日	2013年10月17日	2014年2月27日	
願書受付期間	2013年9月24日 ～10月1日	2014年2月4日 ～2月12日	2014年2月13日 ～2月13日
募集人員	8	2	若干名
志願者数	15 うち社会人 8	5 うち社会人 2	5 (継続1を含む)
受験者数	15 うち社会人 8	5 うち社会人 1	—
合格者数	12 うち社会人 7	3 うち社会人 1	—
入学者数	12 うち社会人 7	3 うち社会人 1	5 (継続1を含む)

(1)がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

1. 役割・職務

平成24年4月からは、第2期がんプロ（正式名：がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン）に参画し、2年目となった。本事業の目的としては以下の3点である。

①複雑化するがん患者の問題に関わる看護職の支援（継続的な教育の提供、がん看護の有資格者の資格取得後のブラッシュアップ）②各専門領域や大学間の連携を強化した協働プロジェクトの実施、③先進的な教育を行う海外の教育・研究機関との連携を一層強化した人材交流である。

2. 活動内容

①大学院修士課程において、がん看護上級臨床実践コースとしてがん患者に特化したフィジカルアセスメントや、がん患者の生殖医療、がん特有の症状マネジメントに関する講義と演習を踏まえ、がん治療専門施設、在宅緩和ケアを実施する訪問看護ステーションにおける実習を実施した。各科目においてはがん治療専門医やがん看護専門看護師等に講師・指導を依頼し、複雑化するがん治療や多様な療法の場で生かす、系統的な専門知識、技術、態度の育成を図った。

②がん化学療法看護認定看護師教育課程として6月～2月に教育コース(615時間)を実施し、21名が受講、フィジカルアセスメント演習や、中心静脈挿管シュミレーターを用いた薬剤投与管理演習を取り入れ、19名がコースを修了した。今年度がん化学療法認定看護師資格取得者は26名であった(2012年度修了生25名、2011年度修了生1名)。

③がん看護専門看護師コース修了後認定審査を受けるcandidates、がん看護専門看護師を対象にしたがん看護事例検討会を実施した。また、がん看護専門看護師が主催するコンサルテーション事業を開催した。がん化学療法看護認定看護師を対象にしたスキルアップセミナーを開催し、99名が参加した。2013年度CNS資格取得者は2名である。

④2月には、ハワイホスピスのKenneth L. Zeri氏(RN,MSN,NHA / Hospice Hawaii President &CPO)を講師に迎え、『在宅緩和ケアにおける高度がん看護実践と課題』をテーマにがん看護国際セミナーを開催した。当日は、大雪にもかかわらず参加申込

のあった150人のうち80名が参加した。さらに、Kenneth L. Zeri氏を講師に、大学院修士課程の学生と、がん緩和ケアなどの研究課題に関するコンサルテーションを行った。3月には、The Annual Assembly of the American Academy of Hospice and Palliative Medicine (AAHPM)に参加し、全米におけるホスピスケア、特にがんに関する緩和ケアに関すること、がん緩和ケアに関する看護師の教育プログラム、多職種協働についてのシンポジウムや教育講演等に参加し、情報収集を行った。

3. 課題

大学間の連携が求められていることから、プロジェクト10の大学間の連携を強化していくことである。今年度は、国際セミナーを開催するとともに、海外招聘講師からコンサルテーションを受ける機会を設けた。これにより昨年度課題とされた国際性を習得する一助となったと考える。次年度も海外の研究機関、医療機関と連携し学生が国際的視野を持ち研究活動に携われるよう機会を設ける予定である。また、コース受講生の継続獲得並びに増加についても今後の課題とする。

(2)アジア・アフリカ学術基盤形成事業

タンザニアの母子保健改善に貢献する持続的な若手研究者の育成

1. 役割・職務

「アジア・アフリカ助産研究センター」共同研究拠点を形成し、交流を通して東アフリカ初となる助産学専門の修士課程をタンザニア・ムヒンビリ健康科学大学に設立する。

最終的な目的は、高い妊産婦死亡率の続くタンザニアにおいて、大学院教育を推進することで、助産教育を向上させ、Women-centered Care（女性中心のケア）、Evidence-based Practice（エビデンスに基づいた実践）の概念に沿った臨床助産ケアの改善と妊産婦の健康の改善をもたらすことである。

2. 活動内容

1) 研究者交流・セミナー

2013年5月に開催したタンザニア助産師3名を招聘してのセミナーは、東京で行われていたアフリカ

開発会議の開催時期とも重なり、学内外から80名を超える参加者があった。現地の助産師が病院で多くの出産、合併症を持つ産婦と向き合いながらも、昨年の活動の一つである **Humanized Childbirth** セミナーでの学びから、産婦のプライバシーを守ることの意義を考え、分娩室（大部屋）にカーテンを取り付けたことが報告された。そのほかにも助産師の仕事に関する高校生へのリクルートを目的とした広報活動などの報告に、多くの関心が寄せられた。日本の市民に対し、本学の国際活動を周知することができた。

また、大学院修士課程助産学2年生6名、国際看護学1年生1名、教員2名が派遣され、現地の病院、診療所、大学、JICA 事務所を訪問し、現地の医療の現状を学ぶことができた。助産学の院生は現地の助産師、学生に対し、日本の助産、母子保健に関するプレゼンテーションを行い、日本とタンザニアの違いや今後のケアの改善などを話し合った。

2) 研究

派遣された修士課程の院生のうち、1名が修士論文、2名が課題研究のテーマとして、タンザニアでデータ収集・分析を行い、英文で執筆を行い、下記の3つの論文を提出した。

- Kana Shimoda ; Midwives' Intrapartum Monitoring Process and Management Resulting in Emergency Referrals in Tanzania
- Nao Tanaka ; Midwives' Expectations and Learning Needs for Professional Development in Tanzania
- Aiko Itokawa ; Evaluation of a Reproductive Health Awareness Program for Adolescence in Rural Tanzania : A Quasi-Experimental Pre-test Post-test Research

国内学会では2つ発表を行った。

- 竹内翔子（聖路加看護大学大学院）、下田佳奈（聖路加看護大学大学院）、高畑香織（聖路加看護大学大学院）、長松康子（聖路加看護大学）、江藤宏美（長崎大学）、新福洋子（聖路加看護大学）、堀内成子（聖路加看護大学）；タンザニア「人間的な出産」セミナーにおける助産師の認識の変容、日本ヒューマン・ケア心理学会 学術集会第15回大会(東京)、7.6-7.2013.

- 若井翔子（聖路加看護大学）、新福洋子（聖路加看護大学）、長松康子（聖路加看護大学）、八重ゆかり（聖路加看護大学）、江藤宏美（長崎大学）、毛利多恵子（毛利助産所）、堀内成子（聖路加産科クリニック）；タンザニア「人間的な出産」セミナーによる“女性を中心とするケア”の認識、第27回日本助産学会学術集会（金沢）、5.1-2.2013.

国際学会での発表は、2014年2月にマニラで開催された EAFONS にて、3年間の活動報告を行った。

- Shimpuku, Y., Horiuchi, S., Matsutani, M., Eto, H., Nagamatsu, Y., Oguro, M., Iida, M., Yaju, Y. “Partnership Model of Global Collaboration: The Shared Value of Humanized Childbirth in Tanzania,” 17th East Asian Forum of Nursing Scholars (Manila, Philippines) February 20-21, 2014

次年度の活動を継続するために、日本学術振興会国際交流事業に平成26年度申請を行ったが不採用となった。しかし、ファイザーヘルスリサーチ振興財団の国際共同研究助成に応募した「アフリカにおける思春期プロダクティブ・ヘルスプロモーション」の研究は採用されたので、2014年度へと続く研究活動の目途が立った。

3. 課題

本年度は国際的な助産研究に携わる意思を持つ日本側拠点機関の大学院生7名の派遣と、研究活動の実施を行うことができ、国際協働の難しさと、それを乗り越えるチームワーク、コミュニケーションに関して多くの学びを得た。今後研究活動を継続するためには、持続的に教員や大学院生の派遣が可能となるシステムづくりと資金の確保が課題である。

(3)文部科学省平成25年度専門的看護師・薬剤師等医療人材養成事業 「チームビルディング育成プログラム」推進委員会

1. 役割・職務

- 1) 平成23年度～平成25年度文部科学省専門的看護師・薬剤師等医療人材養成事業の採択を受け、大学

院修士課程において、People-Centered Care（以下PCC）を基本概念としたチーム医療を推進する高度看護実践家の育成を目的として、新規開講科目「特別講義『チームビルディング』」のカリキュラムを作成・実施し、最終年度としての総括評価を行う。

- 2) 特別講義「チームビルディング」の科目構成は、
- 1) PCC の概念とシステムズアプローチ、保健医療におけるチームとは(講義)、
 - 2) チームを作る方策を体験型学習により習得する演習、
 - 3) モデルとなるチーム医療の実践現場の見学(見学実習)、
 - 4) 実習におけるチーム作りの体験、
 - 5) 課題研究で複合的に構成し、保健医療の中での学際的チームを作る力を育成し、チーム医療の効果を評価する視点をもつことができるように意図した。
- 3) 演習では、米国ミシガン大学レクリエーション・スポーツ学部部長ジョン・スワドロー氏、エリザベス・ゾルウェグ氏を招請し、軽井沢町において2泊3日の宿泊演習を開催した。両氏がミシガン大学で長年実践している「チャレンジプログラム」を本セミナーに導入し、体験型学習サイクルを用いて、チームを作る方法やコミュニケーションのとり方、メンバーやリーダーとしての役割発揮の方法、事例分

析等を学習した。このセミナーを安全に開催するため、2年前からプログラム内容の事前打ち合わせ、使用する用具の準備、宿泊先の確保と詳細打ち合わせ、TAの確保を行った。

- 4) モデルとなるチーム医療の実践現場の見学については、上級実践コースの担当教員が推薦した医療機関7機関を選定し、事前の調整後、履修者が数名ずつ各機関へ見学に出向いた。
- 5) 課題研究では「リエゾンチームにおけるチームビルディング」をテーマとして、チームの実際の機能を検討する取り組みを行っている履修者があり、現在論文作成中である。

2. 活動内容

- 1) 特別講義『チームビルディング』のカリキュラム作成、実施、および評価平成23年度にカリキュラム全体を検討し、シラバスを作成した。24年度の課題をもとに、今年度は開講時期を9月の第1週とし、講義、演習は短期集中で履修し、その後9月中旬から1月にかけて見学実習に出向いた。その後、課題研究のテーマを検討し、各領域での実習を行いながら、課題研究をすすめているところである。

2) プロジェクトミーティング、オリエンテーション等の開催

表1 プロジェクトミーティング等の経過

開催月日	主な議題
4月11日	・大学院生への科目オリエンテーションの実施
7月23日	・院生への宿泊演習のオリエンテーションの実施について ・参加申込みについて ・チャレンジプログラムについて ・履修者のグループ分けについて ・グループワークの事例の作成について ・モデルチーム医療の見学先について ・大学院教育セミナーの開催について ・通訳の手配について ・バスの手配について
9月3日	・宿泊演習の内容について ・宿泊先ホテルとの最終確認(人数、部屋割り、名簿、インターネット環境)について ・モデルチーム医療見学要項について ・スワドロー氏、エリザベス氏との事前打ち合わせについて ・使用する道具の確認について ・通訳、TAとのプログラム打ち合わせについて ・大学院教育セミナーの参加申し込み状況について

9月6日～ 9月8日	・ 宿泊演習開催(軽井沢町すずかる荘)
11月26日	・ 宿泊演習の debriefing、および課題の明確化について ・ アンケート分析結果について ・ チーム医療見学の進捗について ・ 論文投稿の報告について
1月17日	・ チーム医療見学の報告について ・ 科目レポートの採点方法について ・ 本事業の第三者評価について ・ 実習ネットワーク会議の準備について(招待者、プログラム内容、司会) ・ 2014年度シラバス作成について

3. 課題と解決策

- ・ 9月第1週に講義、および宿泊演習を連続した日程で行い、見学実習もその後すぐの時期である9月中旬からスタートするよう変更し、学習に連続性を持たせることができた。
- ・ チャレンジプログラムを導入したことは、体験型学習サイクルに基づいてチーム作りを理解することにつながったため効果的であった。今後も継続する。また、複合的な科目構成は特に有用であった。
- ・ チャレンジプログラム進行中の各アクティビティ後の debriefing を促進するよう、講義の中でチャレンジプログラムの導入を行った。今年度は深い debriefing が行われた。

4. 履修者による評価

今年度の履修者は24名で、専攻領域は表2の通りであった。前年と同様の方法で、履修者による宿泊演習参加前後について、相互独立の一相互協動的自己観尺度、チームアプローチ尺度を用いて評価した。

履修者のプログラム参加前後の相互独立の一相互協動的自己観尺度得点の変化はプログラム参加後には有意に「独断性」、および「評価懸念」が有意に低下していた。チームアプローチ力については、「コミュニケーション」「関係性・メンバーシップ」「問題解決への取り組み」「自身の貢献・自信」の全てが有意に向上していた。また、各プログラムの満足度はいずれも高く(図)、参加日別の満足度は、2日目が高かった(図)。前年度と結果は同様の傾向であったが、平成25年度の履修者の方が相互独立の一相互協動的自己観尺度の「評価懸念」、および「チームアプローチ尺度」の下位項目全てについて点数の変化量が大きかった。

5. 評価

平成25年度は、科目の開講時期と内容を改善したことにより、よりチーム力を身につける教育を行うことができたことと評価でき、履修者の満足度も高かったことから、事業の目的は達成されたと捉えられた。

尚、補助事業が終了するにあたり、複合的な科目構成は継続し、科目の運営、特に宿泊演習の方法を検討する必要がある。一方で、チームビルディング力を身につける上でチャレンジプログラムの有用性は非常に高いため、宿泊演習を自己負担となっても継続する方法や、宿泊せずに学内のスペースで実施する方法などを検討した。最終的には、連続した2日間をとって学内で実施する方法を検討することとなった。

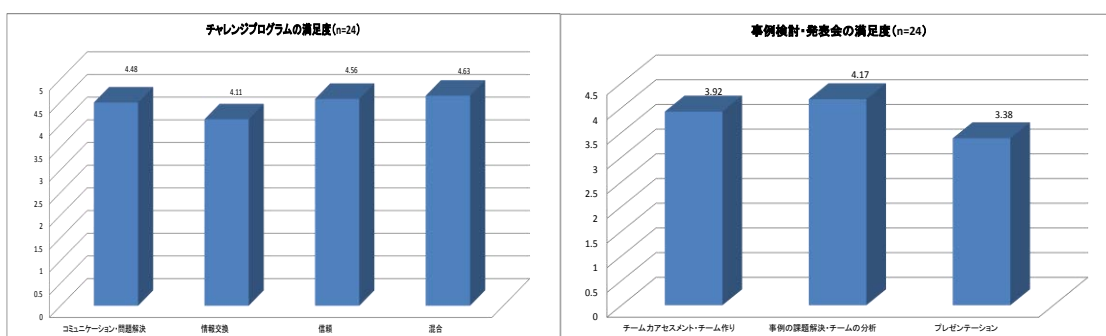
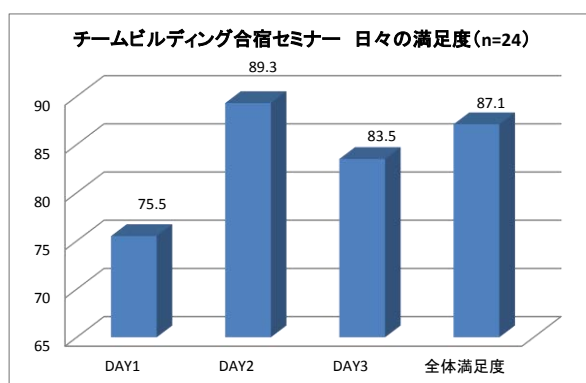
6. 最終年度の総括評価

- 1) 本科目の履修者は計48名で、看護学専攻、ウイメンズヘルス・助産学専攻両者で構成され、専攻領域は多岐にわたっており、学習ニーズが高い科目であった。
- 2) 講義(PCC、システムズアプローチ、チームの理論等)、宿泊演習(ミシガン大学チャレンジプログラムを取り入れたチームアプローチ宿泊演習)、見学実習(モデルチーム医療見学)、実習、課題研究による複合的に構成する本科目は、チームビルディング力を短期間で向上させ、チームのプロセスを向上する上で有効であると考えられた。
- 3) 臨床教員、第三者評価者による本事業への評価は肯定的であった。大学院修士課程においてチームビルディングの理論を学び、チームビルディング力を身につけることは、修了後の現場でのストレスフルな状況にあっても、チーム医療を牽引する上で必要である力を身につけられ、非常に有用であると評価された。

7. 資料データ

表2 履修者の専攻領域

上級実践専攻領域	性別	男性	女性
	ウイメンズヘルス・助産学専攻		-
看護学専攻			8名
内訳			
周麻酔期看護学		-	-
小児看護学		-	-
急性期看護学		2	1
在宅看護学		-	-
がん看護学		-	1
遺伝看護学		-	3
精神看護学		-	1
計			24名



投稿論文

亀井智子、飯岡由紀子、片岡弥恵子、宇都宮明美、山田雅子、萱間真美、菱沼典子. (2014). 大学院修士課程特別講義「チームビルディング」(2011年度～2013年度文部科学省大学改革推進等補助金 専門的看護師・薬剤師等医療人材養成事業)の総括評価、聖路加看護大学紀要、第40号、9-18.

掲載雑誌

- 亀井智子. (2014). 「WHO NEWS 聖路加看護大学大学院におけるチームビルディング力育成プログラム」、看護 66 (3)、79.
- 亀井智子. (2014). 「高度実践看護師に必要なチームビルディング力」、週刊医学界新聞、第3077号、4.

作成した website

<http://www.slcn.ac.jp/graduate/master/team-building.html>

(4)フューチャー・ナースファカルティ育成 プログラム(FNFP)

1. 役割・職務

- 1) 看護教育学上級実践課程 Clinical Nurse Educator(CNE)コース開設に係る準備
- 2) 25年度TAプログラムの実施と26年度計画の立案
- 3) 26年度研究活動メンタリングの計画の立案
- 4) FNFPに関する広報活動と評価活動
- 5) FNFPに関する学習設備の整備

2. 活動内容

- 1) ①看護教育学上級実践コース(CNE コース)のカリキュラムの構築
②26年度入学試験の実施と入学者5名の決定
- 2) ①各プログラムの構築
②教育学セミナーの開催 (3月11日、13日 10:00-16:30)
- 3) ①プログラムの構築
②研究活動メンタリングに関する学内現状調査
- 4) ①本学ホームページを用いた事業内容広報
②教職員・大学院生に対する説明会の開催
③大学院生に対する説明用ブックレットの作成
④2013年度 FNFP 事業報告による事業の周知を目的としたパンフレットの作成
⑤学内外の看護学教育に携わる者を対象としたオープンレクチャーの開催
⑥米国人看護教育学専門家クリス・タナー氏による、学内外からの看護学教育・研究に関するコンサルテーションの企画と実施
⑦外部評価者によるプログラム評価会の開催
- 5) ①Learning Support System [manaba] の選定と導入
②教員養成用実習室の整備

3. 課題

- 1) 看護系大学に対し、CNE コースのカリキュラム内容に対する理解を広める。
- 2) 大学院生に対するプログラムの周知を促進し、参加者を最大限に確保する。
- 3) 学内での研究活動支援の現状に適応したプログラム計画に改善する。
- 4) FaceBook などプロセスがみえる親しみのある媒

体を使用し、広報活動を活性化させる。

- 5) Learning Support System を FNFP 事業で活用する。

4. 資料・データ

- 資料1 本年度事業参加者人数
資料2 看護教育学上級実践コース(CNE コース)のカリキュラム
資料3 教育学セミナーアンケート集計結果
資料4 研究活動メンタリングに関する学内調査
資料5 大学院生に対する説明用ブックレット
資料6 外部評価会での指摘項目
資料7 Learning Support System の使用状況
資料8 教員養成用実習室整備状況

(5)私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

1. 役割・職務

文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業を受け、地域住民のヘルスリテラシー向上に寄与するアクティブ・ラーニング教材開発のため今年度は次の事業を実施した。(詳しくはHP参照:

<http://www.slcn.ac.jp/research/healthliteracy.html>)

- 1) ヘルスリテラシーに関する実態及びニーズ調査
- 2) 地域の公共図書館と連携を検討するための会合
- 3) ヘルスリテラシー学習拠点形成のための勉強会
- 4) ヘルスリテラシー情報を提供するための環境整備

2. 活動内容

- 1) ~3) については資料参照
- 4) ヘルスリテラシー情報を提供するための環境整備
図書館分室の利用者がヘルスリテラシーを身につけるための健康・医療情報を見つけやすいように本棚を追加し、資料の配置を変更した。

3. 課題

- 1) ヘルスリテラシーに関する実態及びニーズ調査の分析を基にした実態調査
- 2) ヘルスリテラシー関連図書などの情報整備
- 3) 地域の公共図書館と連携の継続

4. 資料

1) ヘルスリテラシーに関する実態及びニーズ調査

研究課題：住民のヘルスリテラシー調査	本学が市民に提供する健康相談を利用した者の相談用紙を対象にした住民のヘルスリテラシー調査を3か月間（1月～3月）実施した。
--------------------	---

2) 地域の公共図書館と連携を検討するための会合

開催日	会議の概要	会場	参加人数
2/4	本事業の趣旨説明、市民への医療情報サービスの現状、図書館連携の可能性、今後のすすめ方、中央区京橋図書館見学	中央区京橋図書館鑑賞室	7名
2/18	聖路加看護大学図書館分室見学、連携の具体案、情報交換方法	ぼるかルーム	10名

3) ヘルスリテラシー学習拠点形成のための勉強会

	開催日	勉強会概要	講師	会場	参加人数
1	11/25	「ヘルスリテラシーってな～に？」	中山和弘（聖路加看護大学教授）	ぼるかルーム	15名
2	3/12	市民が学ぶ場としての図書館づくり～伊万里市民図書館の実践から学ぶ～	犬塚まゆみ（元伊万里市民図書館館長）	ぼるかルーム	34名
3	3/27	「PBL(Project Based Learning)をPBLで学ぶ。」	日向野幹也（立教大学教授）	402 講義室	20名

3 図書館

(1)図書館

1. 役割・職務

「聖路加看護大学図書館規程」、「聖路加看護大学図書委員会細則」による。

2. 活動内容

以下、新たに実施したこと、変更があったことに関して記述した。通常の活動実績は「4 資料・データ」にまとめた。

- 1) 情報技術を用いたアクティブラーニングを支援する人材育成の仕組みづくり

【課題】eラーニング等の情報技術を用いたアクティブラーニングを支援する人材育成のための仕組みを検討する。保健医療領域において、学術情報の活用にかかわる図書館員が果たす役割は大きい、その育成が課題となっている。

【対応】前年度、情報技術を用いたアクティブラーニングによるモデル授業を実施、その支援の試行を通して、求められる人材のスキルを明確にすることを旨とした事業を計画した。今年度の図書委員会において計画の見直しがあり、改めて学生を対象とした学習支援サービスのアンケート調査を行うこととなった。フォーカスグループインタビュー（学生10名）による予備調査（8月2日）を経て質問紙調査（1月21日～3月17日）を行った。質問紙は学内イントラネットにアクセスする形式とし148件の回答を得た。次年度は、調査結果をもとに、求められる学習支援サービスを明確にし、適切な人材配置を検討する。

- 2) 電子的な情報源の積極的な収集と維持

【課題】eラーニング・システムとの連携、学外または社会人の学習活動を支援するために、電子リソースの積極的な収集と、費用を抑え安定した提供を維持することが求められる。

【対応】電子ジャーナル、文献データベースの契約に際し、蓄積したデータをもとに、各リソースのアクセス単価を算出し検討した。法人一体化に向けて、聖路加国際病院医学図書館と連携して交渉し、利用者のニーズが高いリソースについては、予算の範囲内で、どちらのエリアからもアクセスできるようにした。電子ブ

ックについては、情報収集を行い、蔵書として適切なものを選定した。全購入図書（1,001件）のうち電子ブックは82件（8.2%）を受け入れた。

- 3) 情報源の電子化に対応した書架の再編成

【課題】蔵書冊数は、すでに書架の収容冊数を越えている。構想段階の学習空間（施設・設備）の整備完了まで、増加分を収容するため、教育・研究に支障がない範囲で、冊子資料の除籍または移動を行う必要がある。

【対応】前年度購入した Lippincott Williams & Wilkins 社のアーカイブコレクションを中心に、電子ジャーナルによる永年の提供が保証された部分の冊子資料を廃棄（4,371冊）、資料の移動を行った（8月8日～9日）。

- 4) 法人一体化に向けた組織・サービスの統合

【課題】聖路加国際病院との法人一体化に向けて、規程類を整備し組織・サービスの統合を行う必要がある。契約・申請等、対外的に新法人として統合するための準備を行う。

【対応】規程類の整備として「聖路加看護大学図書館規程」「聖路加看護大学図書館利用細則」を含む10件の改廃を行い、「聖路加国際大学学術情報センター規程」ほか2件の新設を行った。国立情報学研究所（NACSIS-CAT, NACSIS-ILL 参加）への変更申請を行うとともに、電子リソース・業務委託等の契約を統合した。また図書館サービスの統合にあたり、課題であった看護大学エリアの24時間開館を可能にするために、セキュリティ強化（監視カメラの設置、警備員の巡回拡張）の準備をおこなった。次年度以降、図書館システムを統合し、業務の再編成を行う。さらに両館の施設を統合し、アクティブラーニングや臨床に即した研究を有効に支援するために図書館機能を拡張する。

3. 課題（重点目標）

- 1) アクティブラーニングを支援するサービスの明確化と適切な人材配置の検討
- 2) 図書館システム統合の計画
- 3) 図書館・アクティブラーニング施設の改修計画

4. 資料・データ

表1 開館日数と入館者数

開館日数 (日)	275
うち土曜開館	44
入館者数 (人)	112,227
1日平均入館者数	408
(夜間)1日平均入館者数	27

表2 館内複写件数

複写機	122,383
月平均	10,199
プリンター	261,973

表3 ノートPCの貸出 (件)

学部生	院生	教職員	その他	計
287	45	3	7	342

表4 資料別の貸出し数

	学部生	院生	教職員	その他	総計
図書 (冊)	7,001	3,098	921	1,569	12,589
雑誌 (冊)	1,235	584	182	339	2,340
視覚覚資料 (巻)	588	9	43	3	643

表5 利用者別貸出し総件数

1年生	2年生	3年生	4年生	修士	博士	教職員	
715	2,355	3,559	2,195	3,157	534	1,146	
科目等履修生	研究生	研修生	卒業生	聖路加国際病院職員	研究センター研修生	その他	総計
0	0	0	567	694	604	46	15,572

表6 分野別貸出し冊数ベスト5

(冊)

1位	2位	3位	4位	5位
WY(7,201)	W(561)	BF(470)	WB(461)	WA(414)

表7 電子ジャーナルのダウンロード数

(件)

利用ポータル	全文ダウンロード
EBSCOhost(CINAHL)	3,167
Journals Consult	1,711
Wiley Online Library	8,493
OVID SP	3,792
ProQuest	1,435
メディカルオンライン	20,573
CiNii	1,074

表8 カウンターにおけるレファレンス件数

	学生・院生	教職員	その他（学外者、研究生、 博士研究員など）	計
所在・所蔵調査	298	26	14	338
事項調査	33	5	2	40
利用指導	282	29	68	379
文献検索相談	35	1	0	36
その他	83	7	5	95
計	731	68	89	888

表9 オンライン相談件数

	学生・院生	教職員	その他（学外者、研究生、 博士研究員など）	計
所在・所蔵調査	0	0	0	0
事項調査	0	0	0	0
利用指導	5	0	0	5
その他	0	0	0	0
計	5	0	0	5

表10 来館した学外利用者数

	学生・院生	教職員	その他	総計
人 数	18	12	11	41
複写件数	115		10	125

表11 相互利用（文献複写）件数

当館から他館への申込件数		1,447	他館から当館における受付件数		1,056
申込者別 内訳※	学部生	233	受付館種別 内訳	大学・短期大学	849
	院 生	997		その他	143
	教職員	213	謝絶		64
	その他	4			
申込先館 種別内訳	大学・短期大学	1,088			
	NDL	25			
	聖路加国際病院	251			
	海外(BLDSC,NLM)	2			
	その他	81			

表12 蔵書点検結果（不明資料数）

	和	洋	合 計
図 書（冊）	39	6	45
雑 誌（冊）	16	20	36

表 13 図書館利用教育

オリエンテーション	対象： 学部、学士編入、大学院修士課程、博士課程、各新入生、新入教職員
授業との連携	授業名（対象学年）： 情報処理演習（学部1年、学士編入2年）、周産期看護学（学部3年）、看護研究Ⅰ（学部4年）、看護研究法（大学院修士、博士1年）
研究センターとの連携	授業名（対象課程）： 看護情報論（認定看護師ファーストレベル）、文献検索・文献講読（認定看護師教育課程）、文献検索～準備体操（ナーススキルアップ）
学生の要望による文献検索ガイダンス	希望する大学院生、学部生のグループに、希望する内容でガイダンスを実施

表 14 展示図書

授業名	展示期間	展示内容
おすすめ本	2013年4月1日～4月5日	教職員おすすめ本「るかこの棚」に掲載した図書
大学の勉強ってどうやってやるの展	2013年4月2日～4月20日	大学での学び方等の図書、形態機能学のノートコピー
周産期看護学（実践方法）	2013年4月8日～5月4日	指定図書、模型、パネル
形態機能学 図書フェア	2013年5月6日～6月5日	形態機能学に関連する図書、模型
認定看護師教育課程 レポートの書き方展	2013年6月7日～6月29日	レポートの書き方に関する図書
教員の著作展	2013年6月28日～29日、 8月2日～4日	オープンキャンパスに合わせて、 本学教員による図書を展示
形態機能学秋の図書フェア	2013年9月11日～10月31日	病理学、組織学、解剖・生理学の 図書、模型
周産期看護学（基礎）図書フェア	2013年9月27日～11月8日	関連図書、模型、パネル

表 15 社会的活動

	対象機関	派遣者
研修等の講師	東京都ナースプラザ（実習指導者研修）	松本直子
	日本看護図書館協会（第46回研究会）	〃
図書館団体活動	日本医学図書館協会 国際交流委員長	佐藤晋巨
	日本医学図書館協会 第20回医学図書館員基礎研修会実行委員長	松本直子
	日本図書館協会 健康情報委員会	佐藤晋巨

表 16 受入資料

		和	洋	合計	
図書 (冊)	購入	図書館	838	81	919
		研究室	26	16	42
		研究センター	253	20	273
		教育共通	1	-	1
		助成金等	-	-	-
		製本雑誌	30	-	30

	寄贈	図書館	347	13	360
		研究室	9	-	9
		研究センター	33	-	33
		助成金等	-	-	-
	合計	1,537	130	1,667	
視聴覚資料 (巻)	購入	図書館	38	-	38
		研究室	-	-	-
		研究センター	2	-	2
		教育共通	10	-	10
		助成金等	-	-	-
	寄贈	図書館	33	-	33
		研究室	1	-	1
		研究センター	-	-	-
		助成金等	2	-	2
	合計	86	-	86	
電子図書 (点)	購入	図書館	56	26	82
		研究センター	-	3	3
	合計	56	29	85	
逐次刊行物 (誌)	全タイトル		708	122	830
	新規		7	2	増減
	中止		3	-	6
購読電子ジャーナル (誌)			887	1,178	2,065
提供電子ジャーナル (誌)			13,842		

表17 見計らい選書会 実施状況

日時： 2013年11月12日(火) 13:00~14日(木) 12:00

(入場できる時間： 10:00~18:00)

場所： 本館 教室

入場者数： 32人 (教員：26人、学生：6人)

(12日：7人 13日：18人 14日：7人)

購入図書	352冊	1,948,352円
------	------	------------

表18 除籍資料 (大学全体)

	和	洋	合計(冊)
図書	491	60	551
製本雑誌	0	786	786
計	491	846	1,337

表19 所蔵資料総数 (大学全体)

2014年3月31日現在

	和	洋	合計
図書(冊)	59,329	11,162	70,491
製本雑誌(冊)	5,574	4,341	9,915
視聴覚資料(巻)	1,533	106	1,639
電子図書(点)	94	36	130
計	66,530	15,645	82,175

表 20 購読雑誌／電子ジャーナルの変更（2014年1月より）

新規に購読が決まったもの

タイトル	出版者	頻度	
医学哲学医学倫理	日本哲学医学倫理学会	年刊	冊子体
臨床死生学	日本臨床死生学会	年刊	冊子体
日本公衆衛生看護学会誌	日本公衆衛生看護学会	年2回	冊子体

購読の中止が決まったもの（廃刊、休刊）

タイトル	出版者	発行頻度	
総合看護	現代社	季刊	冊子体
臨床医学	へるす出版	月刊	冊子体

表 21 データベースの契約

	タイトル	ベンダー	同時アクセス数
1	CiNii	国立情報学研究所	無制限
2	医中誌 web	医学中央雑誌刊行会	8
3	間蔵	朝日新聞社	1
4	MAGAZINEPLUS	日外アソシエーツ	1
5	最新看護索引 web	凸版印刷	10
6	CINAHL Plus with Full text	EBSCO	4
7	PsycINFO	〃	無制限
8	SocINDEX	〃	無制限
9	MEDLINE	〃（特約）	無制限
10	The Cochrane Library	Wiley InterScience	無制限
11	Nursing Allied Healthcare Source	ProQuest	無制限
12	Clinical Evidence	BMJ	無制限
13	Maternity and Infant Care	OVID	1
14	Medline Nursing Database	〃	1

表 22 その他、リソース・アプリケーションの契約

	タイトル（機能）	ベンダー	同時アクセス数
1	AtoZ、LinkSource（リンクリゾルバー）	EBSCO	無制限
2	RefWorks（文献整理ソフト）	ProQuest	無制限

表 23 リポジトリへの登録

コンテンツの種類	一次情報 (件)	二次情報 (件)
学術雑誌論文	405	405
学位論文	3	738
紀要論文	555	555
研究報告書	129	129
その他	30	8,196
計	1,122	10,023

表 24 図書館資料 決算額

(円)

図 書	製本雑誌	視聴覚資料	電子図書	逐次刊行物	電子ジャーナル	データベース・リソース他
3,621,465	68,514	844,535	1,357,338	4,803,081	8,404,130	5,973,016

表 25 図書館委員会 議事内容

日 時	作業内容
4月9日(火)	蔵書点検報告、2012年度年報、2013年度図書館予定、2013年度委員会計画、出張報告、看護ネット報告
5月7日(火)	2012年度図書館活動報告、情報技術を用いたアクティブ・ラーニングを支援する人材育成の仕組みづくり、夜間における危機対応マニュアル(案)、大学史編纂・資料室の資料保管棚のブラウジングスペースへの設置について、出張報告
6月4日(火)	情報技術を用いたアクティブ・ラーニングを支援する人材育成の仕組みづくり、電子化に伴う書架の再編成：廃棄雑誌について、認定教育課程研修生の図書館夜間利用について、教職員向けLibrary Pocket Guide更新、図書館実習生受入、出張報告
7月2日(火)	電子化に伴う書架の再編成：廃棄雑誌について、情報技術を用いたアクティブ・ラーニングを支援する人材育成の仕組みづくり、資料費執行状況報告(4月～6月)、学生図書委員会、図書館実習生受入、出張報告、看護ネット報告
9月17日(火)	2014年度新規事業計画進捗状況、学習空間の利用、学習支援サービスへのニーズ調査インタビュー実施報告、出張報告、看護ネット報告
10月21日(月)	2014年度事業計画(案)、2014年新規購読雑誌検討、資料費執行状況・執行予定状況報告、図書館実習生受入報告、出張報告
11月5日(月)	2014年新規購読雑誌検討、2014年度図書館運営費予算案、2014年度事業計画提出、見計らい選書会の実施、看護ネット報告
12月10日(火)	見計らい選書会購入図書、「電子図書館システム登録申請書(学位論文)」の改訂、学生図書委員会からの要望への対応、図書館連絡会議 報告、看護ネット報告
1月14日(火)	学習支援サービス アンケート調査、「聖路加国際大学図書館利用細則」改定、見計らい選書会購入図書、24時間開館への取り組み、看護ネット報告
2月10日(火)	図書館サービスの一体化から再構築へ、学習支援サービス アンケート調査、看護ネット報告
3月18日(火)	学習支援サービス アンケート調査結果、統合後にアクセスできる電子リソース、24時間開館の実施について、法人一体化に伴う規程類の改廃、聖路加看護大学図書委員会細則(改定)、聖路加国際大学学術情報リポジトリワーキンググループ内規(新設)、聖路加国際病院医学図書館と聖路加看護大学図書館における協力細則(廃止)、年報

表 26 学生図書委員会

日 時	内 容
4月24日 (水)	委員紹介、委員会日程・司会（書記）担当の検討
5月15日 (水)	活動内容検討
6月19日 (水)	推薦図書アンケートについて・館内水分摂取について検討
7月10日 (水)	推薦図書アンケートの実施方法の検討、館内水分摂取希望調査報告
10月23日 (水)	推薦図書アンケートの公開方法・資料利用マナーの呼びかけについて検討
11月13日 (水)	推薦図書アンケート公開書式について検討
12月11日 (水)	推薦図書アンケート掲示・配信時期について検討、活動総括

(2)大学史編纂・資料室／委員会

1. 役割・職務

大学史編纂・資料室委員会規程より

- 1) 本学に関連した史資料の収集・整理・保管
- 2) 収集史資料の公開・展示
- 3) 調査・研究および成果の発表
- 4) 自校史教育及び学習への支援
- 5) その他（1）～（4）に必要な事項

2. 活動内容

1) 課題の取組

①他部署で管理されていた歴史的資料を確認し、30箱が移管されることとなった。緊急に保管場所を確保する必要が生じたため、暫定的措置として文書保管設備を2014年度に設置することとなった。地下一階アートルーム倉庫に保管されていた看護物品にラベルを付与し、資料として登録した。②史資料の開示に関する規程は病院アーカイブズとの組織統合を検討する過程で整備することとなり、2013年度は作成しないこととなった。③ブックレット2号「公衆衛生看護のパイオニアとしての聖路加（仮）」の制作が進行中であり、2014年度中の刊行を目指している。④100周年事業委員会に参加し、100周年史の制作費や臨時人員の確保、執筆・編集の方向性確認等を行った。編集担当については病院との組織統合を経て再検討される見通し。⑤外国人居留地研究会全国大会の運営を行った。病院と共同して聖路加としての展示パネル・プログラム掲載原稿を作成した。⑥卒業生への呼びかけとして、同窓会総会・クラス委員連絡会の場で資料収集の協力を依頼した。また

卒業生の訃報に際し、同窓会と連携して遺族に対する資料寄贈の依頼状送付の体制を整えた。高橋シュン先生のご遺族より、ナイチンゲール記章等の資料寄贈があった。⑦聖路加国際病院のアーカイブズと法人一体化のためのアーカイブズワーキンググループを組織し、2014年度以降の協力体制について検討を進めた。

2) 通常の活動（「4. 資料、データ」参照）

3. 課題

- 1) 病院と大学のアーカイブズ業務の統合
- 2) 移管文書の受入体制と保管場所について新法人内における体制整備
- 3) ブックレット2号の刊行
- 4) ブックレット「高橋シュンと聖路加(仮題)」の刊行
- 5) 創立100周年史の業者・執筆担当決定、年表作成、資料収集の継続
- 6) 史資料の開示に関する規程整備
- 7) 史資料の目録公開体制検討

4. 資料・データ

1) 資料目録件数

2013年度より写真の遡及登録作業を開始し、アルバムから剥離して散逸の危険が高いものから優先して整理を進めた。

表1 入手経緯別 資料目録件数

	寄贈	貸与	購入	移管	合計
2013年度登録	2,627	444	0	192	3,263

表2 分類別 資料目録件数

	2013 年度登録
大学刊行物	132
写真	2,614
図書・雑誌・新聞	87
冊子	114
その他印刷物	86
書簡・葉書	34
モノ	110
視聴覚資料	33
事務文書	49
地図・図面	1
その他	3
合計	3,263

2) 卒業生インタビューの収集

【グループ/個人インタビュー】

- 公衆衛生元教員：(12月2日)
- 短大専攻科1回生：(12月9日)
- 聖路加国際病院公衆衛生看護部元職員：(1月10日)

【資料収集・貸借に伴う聞き取り】

- 河合智恵子(1939年卒) (11月8日)

3) 展示室企画

【写真展示】

- 「清里における農村実習」 5月14日～9月19日 (小野)
- 「Super Ladies in St.Luke's」 9月21日～1月1日 (山田、直井)
- 「Class of 2014 & 学士15回生 (学生展示)」 1月18日～2013年度まで展示中

【ケース展示】

- 「校章」 5月31日～10月2日 (佐居)
- 「看護に生きた人、高橋シュン先生をしのんで」 10月3日～2014年度まで展示中 (小黑、新沼)

4) 調査・研究および成果の発表

- 「聖路加看護大学のあゆみ改訂版」 刊行 (12月20日)
- 第27回日本看護歴史学会理事会セッション「戦争と看護」 (8月31日 渡部)
- 第27回日本看護歴史学会ポスター発表：「聖路加女子専門学校創成期の看護教育」 (8月31日 大

橋)

- 資料室 HP 「Lukapedia」 継続
 - Global Health Seminar パネル展示 (本学創成期 外国人教員の紹介) (5月18日)
 - 外国人居留地研究会 パネル展示、プログラム掲載「聖路加国際病院と聖路加看護大学のはじまり」
 - 聖路加国際病院 田環講座「占領期、米国陸軍病院となった聖ルカ」 (12月12日 渡部)
 - 国文学研究資料館 紀要アーカイブズ 研究篇10号「大学アーカイブズにおけるオーラルヒストリー 収集手法－聖路加看護大学の事例からの考察－」 (3月 新沼)
- 5) 自校史教育及び学習・研究への支援
- 教育支援
 - (1) ブックレット1号「聖路加看護大学のあゆみ」を新入生へ配布
 - (2) 「自校学習」 開講 (2013年4月、1年生前期 選択)
 - (3) 学園祭参加 (「歴史展示室クイズ」 「歴史パネル展示」、同窓会共同)
 - (4) Nishida Kathleen 氏 調査相談
- 6) その他
- 他組織機関との連携
 - (1) 全国大学史資料協議会における情報共有
 - (2) 外国人居留地研究会 全国大会開催に協力 (11月2, 3日)
 - (3) 東日本地区日本聖公会資料保管に関する協議会参加 ※会場提供 (12月15日)
 - (4) 聖公会刊行冊子への原稿提供
 - 広報等学内との協力
 - (1) 高橋シュン先生の追悼式典における配布冊子、スライドショー制作。
 - (2) 広報誌「Lu・Bre」 Vol.1へ寄稿「ミッションスクール発祥の地 明石町」
 - (3) 「学園ニュース」 No.303～305へコラム掲載
 - (4) 大学案内への掲載写真提供
 - (5) ブックレット「高橋シュンと聖路加(仮題)」制作を請け負い (2014年7月刊行予定)
 - (6) 神奈川県聖路加同窓会 講演「聖路加看護大学のあゆみ」 (9月7日 渡部)

4 看護実践開発研究センター

(1)センター運営委員会

1. 役割・職務（規程がある場合はその規程の名称を入れる。4月に配付した委員会の一覧表を参照）

看護実践開発研究センター運営委員会規定第3条に基づき、センター運営の基本方針に関する事、事業計画に関する事など、センター運営に関して審議した。

2. 活動内容（上記1に沿って記述）

11回の運営委員会を開催した。今年度研究センター運営上の論点は以下の通りであった。

- 1) 研究センター10周年記念講演会は、大学創立記念行事の中で開催した。また、10周年記念報告書は、2014年5月に発刊予定とした。
- 2) センター構成員として、「特別研究員」を新たに設けた。（聖路加看護大学看護実践開発研究センター構成員内規第5条）

3) 2号館（3, 4階のロッカー、研究室）の管理規則、利用規則についての検討を行った。

4) 聖路加国際病院との一体化における病院の国際部、研究管理部、教育研修部との組織改組の検討を行った。

5) 一体化に伴う組織改編により、福島県災害支援プロジェクトの運営について検討を行った。今後は、総務課が担当部署となることが決定した。

6) 平成25年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「地域住民のヘルス・リテラシー向上に寄与するアクティブ・ラーニング教材の開発」（研究代表者 菱沼典子）が採択されセンターを中心に研究を開始した。

3. 課題

- 1) 改組による新たな組織づくり。
- 2) WHO コラボレーティングセンターの再委嘱の準備。

4. 資料・データ

表1 看護実践開発研究センター運営委員会各回の主な議題

回数	開催日	議 題
第1回	4月9日	2013年度の組織と会議スケジュールの検討 研究センター10周年記念行事について 研究センター運営に係る検討事項について 2014年度以降の研究センター事業について 研究センター専任教員の業務について 2013年度センター事業 事業主について 客員研究員・博士研究員・学生の実習受け入れ等の承認
第2回	5月9日	特別研究員について 施設管理について 2013年度研究センター重点目標について 客員研究員の承認 センター10周年記念誌について ぼるかルームの椅子購入についての再検討
第3回	6月11日	研究センター内規における特別研究員の要件等の検討について認定看護師教育課程研修生の2Fメディアルームの利用時間延長について 専任研究員の部屋のカギの管理について 4階3階の棚等の使用に関するルールについて 客員研究員の承認 研究員申請書新フォーマット案について るかなびマイレージの使用ルールの確認
第4回	7月9日	研究センター開設10周年記念講演企画書(案) について 特別研究員の件 「るかなびマイレージ」について 3F4Fロッカー及びキャビネット等の管理規則、利用についての各事業主の意見 4F研究オフィス管理規則(案) について

第5回	9月10日	研究センター開設10周年記念講演企画書(案) について センター事業来訪者、受講者対応に関する情報共有について 3. 特別研究員について 客員研究員申請について 防災訓練(10/3)について 大学基準協会自己評価について 整理係: 3F交流ラウンジ・4F講義室1・4F研究オフィス1の利用ルール案について 博士・客員研究員のPCの入れ替えについて
第6回	10月15日	2014年度研究センター事業の申請について 整理係: 3F交流ラウンジ・4F講義室1・4F研究オフィス1の利用ルール案について 聖路加市民アカデミーの当日の役割について センター10周年記念行事について
第7回	11月12日	2014年度研究センター事業の申請について 研究センター10周年記念講演会プログラムについて 研究センター10周年記念報告書について 病院との一体化に向けた確認事項 2014年度研究センター事業申請の修正点について(市民アカデミー等) 広報について(センター催し物案内の取扱いについて等)
第8回	12月10日	前回継続審議とされた2014年度研究センター事業の申請について 提出期限後の2014年度研究センター事業申請について 各WG(国際、研究管理、教育研修)の報告と調整について
第9回	1月28日	なし(報告事項のみ)
第10回	2月25日	なし(報告事項のみ)
第11回	3月11日	各種規程の改正について 研修(実習・研究)受け入れに関する申請の承認について

表2-1 専任・兼任研究員および研究テーマ一覧(文部科学省科学研究費助成事業)

氏名	代表・分担	研究テーマ	研究種目
柳井 晴夫	代表	臨地実習適正化のための看護系大学共用試験CBTの実用化と教育カリキュラムへの導入	基盤研究(A)(一般)
飯岡由紀子	代表	女性生殖器系がんサバイバーのためのテーラーメイドケアの開発と評価	基盤研究(B)(一般)
小野 智美	代表	日帰り手術に向けての幼児の自律性を支援する看護介入プログラムについての効果研究	基盤研究(B)(一般)
梶井 文子	代表	在宅認知症高齢者のための学際的チームの連携強化を支援する評価システムの開発と検証	基盤研究(B)(一般)
大森 純子	代表	新興住宅地の向老期世代を対象とした“地域への愛着”を育む健康増進プログラムの開発	基盤研究(B)(一般)
中山 和弘	代表	ヘルスリテラシー不足の患者・家族・市民を発見・支援する看護学習コンテンツの開発	基盤研究(B)(一般)
堀内 成子	代表	晩産化妊婦の心と身体を充電するプログラムの産後うつ病重症化への予防効果	基盤研究(B)(一般)
及川 郁子	代表	小児看護における外来看護師育成支援プログラムの開発	基盤研究(B)(一般)
麻原きよみ	代表	「公衆衛生看護の倫理」教育のモデル構築と検証:カリキュラム・教育方法・教材の開発	基盤研究(B)(一般)
田代 順子	代表	高度実践看護師の臨床判断力強化支援のためのウェブアシスト学習プログラム開発・評価	基盤研究(B)(一般)
有森 直子	代表	女性のリプロダクション健康課題に対する意思決定支援の評価研究	基盤研究(B)(一般)
大久保暢子	代表	脳卒中背面開放座位ケアプログラムの定着を促す看護師支援ツールの開発と評価	基盤研究(C)(一般)
長松 康子	代表	困難が重積する中皮腫に関する看護職向け教育プログラムの開発と評価	基盤研究(C)(一般)
蛭田 明子	代表	周産期喪失後の危機的状況を夫婦で歩み新たな家族をつくる物語	基盤研究(C)(一般)
佐居 由美	代表	看護実践における「安楽」の理論家～ミックスメソッドデザインによる検証～	基盤研究(C)(一般)

菱沼 典子	代表	看護技術の構成要素と効果－看護技術の確立に向けて	基盤研究(C)(一般)
小野若菜子	代表	訪問看護師を対象としたグループケア教育プログラムの開発	基盤研究(C)(一般)
吉田 千文	代表	地域包括的視点に基づく看護管理学の創出に向けたアクションリサーチ	基盤研究(C)(一般)
堀内 成子	代表	タンザニアでの持続的な若手助産研究者教育課程の開発と評価	挑戦的萌芽研究
高橋 恵子	代表	看護師の「市民目線に立ったケア」を育むリフレクションプログラムの開発	挑戦的萌芽研究
片岡弥恵子	代表	乳がん合併妊産婦の看護ケアスタンダードの構築	挑戦的萌芽研究
亀井 智子	代表	地域高齢者のための包括的転倒予防 SAFETY on!プログラムの開発と効果の検証	挑戦的萌芽研究
萱間 真美	代表	認知症の周辺症状(BPSD)による精神病床入院から地域移行への看護ケアモデル開発	挑戦的萌芽研究
小林 真朝	代表	生活習慣特性を活用したコミュニティ支援プログラムの開発と評価	若手研究(B)
大橋久美子	代表	看護師の行うモーニングケアの実態調査:術後回復を促すモーニングケアの導入にむけて	若手研究(B)
角田 秋	代表	訪問看護師による精神疾患を有する人への電話相談の効果評価	若手研究(B)
鶴若 麻理	代表	看護学士課程における体系的な新しい生命倫理教育の創出:アジア比較研究	若手研究(B)
伊東美奈子	代表	既卒採用看護師の職場適応促進策-日本版メンターシッププログラムの構築に向けて-	若手研究(B)
木戸 芳史	代表	精神疾患の未受診者や受療中断者等へのアウトリーチ支援が多職種チームに与える影響	若手研究(B)
新福 洋子	代表	汎用性のある紙芝居教材を用いたタンザニア農村部の妊娠期教育プログラム開発と評価	研究活動サポート支援
飯田真理子	代表	多言語による簡易版“女性を中心としたケア-妊娠期尺度”の開発	研究活動サポート支援
千吉良綾子	代表	早期認知機能低下高齢者の包括的意思決定支援システムに関する基礎的調査研究	研究活動サポート支援
三森 寧子	代表	現代の多様な子ども達に向き合う養護教諭の養成教育とカリキュラムに関する認識調査	研究活動サポート支援
松谷美和子	代表	看護学士課程におけるアクティブラーニング・プログラムによる看護実践能力の開発	基盤研究(B)(一般)
林 直子	代表	女性がん患者のリプロダクティブヘルスに関する選択を支える看護教育プログラムの開発	基盤研究(B)(一般)
片岡弥恵子	代表	妊娠期DVの育児期に及ぼす影響の探索と構造化:前向きコホート研究	基盤研究(B)(一般)
亀井 智子	代表	慢性疾患在宅患者の主体的療養を支援するテレナーシング方法と看護プロトコルの開発	基盤研究(B)(一般)
森 明子	代表	月経異常の理解とセルフケアを促進する青年期女子教育プログラムの開発	基盤研究(C)(一般)
五十嵐ゆかり	代表	多文化共生の感受性を育む周産期看護者育成プログラムの実施と評価	基盤研究(C)(一般)
平林 優子	代表	医療的ケアを必要とする子どもの療養行動獲得支援の評価と普及に向けた研究	基盤研究(C)(一般)
中山 和弘	代表	患者がエビデンスとナラティブをつないで意思決定できるディジジョン・エイドの開発	挑戦的萌芽研究
飯岡由紀子	代表	ホルモン治療中の乳がん女性のためのセルフトリートメント支援システムの評価	挑戦的萌芽研究
高田 幸江	代表	生体腎移植ドナーの継続的看護支援システム構築にむけた研究	挑戦的萌芽研究
田代 順子	代表	インドネシア農村部での予防・健康増進転換への協働的看護活動モデル開発	挑戦的萌芽研究
倉岡有美子	代表	胃瘻造設を検討する患者の家族の意思決定支援ガイドの普及と評価	若手研究(B)
三浦友理子	代表	看護系大学学生の自律的学習力の開発に向けた基盤的研究	研究活動サポート支援
加藤木真史	代表	術後の早期離床を実現する看護介入プログラム開発に向けた基礎的研究	研究活動サポート支援
吉田 千文	分担	ケアマネージャーの経験するモラルディストレスの解明と支援プログラムの開発	基盤研究(C)(一般)

平林 優子	分担	特定看護師へのクラウド型 Advanced フィジカルアセスメント教育ツールの開発	基盤研究 (B) (一般)
保坂 隆	分担	麻酔科医のメンタルヘルスの包括的改善策の検討	基盤研究 (C) (一般)
佐居 由美	分担	気持ちよさをもたらす看護ケア理論の創成	基盤研究 (B) (一般)
大橋久美子	分担	気持ちよさをもたらす看護ケア理論の創成	基盤研究 (B) (一般)
角田 秋	分担	児童・思春期精神科病棟における看護実践能力向上のための学習システムの構築	基盤研究 (C) (一般)
及川 郁子	分担	子どものヘルスプロモーションのための予防接種介入プログラム・ガイドラインの作成	基盤研究 (B) (一般)
中山 和弘	分担	長期療養施設における慢性通ケアの質向上のための教育プログラム開発	基盤研究 (B) (一般)
草川 功	分担	被災者の記憶に残る地域の伝統的生活文化の認識と再生・継承に関する研究	基盤研究 (C) (一般)
大久保暢子	分担	特定看護師へのクラウド型 Advanced フィジカルアセスメント教育ツールの開発	基盤研究 (C) (一般)
小野 智美	分担	プレパレーションの普及ーモバイル e ラーニングを応用した実践と評価	基盤研究 (B) (一般)
山田 雅子	分担	「独り暮らし」高齢者の在宅死を可能にする終末期看護モデルの構築	基盤研究 (B) (一般)
鶴若 麻理	分担	高齢者による医療の選択と意思決定を支える体制の構築に関する研究	基盤研究 (B) (一般)
中山 和弘	分担	全国代表サンプルによるストレス対処力 SOC を規定する社会的要因に関する実証研究	基盤研究 (B) (一般)
林 直子	分担	オンライン学習と電子メール相談による子宮頸がんに対するリスクコントロールの促進	基盤研究 (B) (一般)

表 2-2 専任・兼任研究員および研究テーマ一覧 (厚生労働科学研究費補助金)

氏名	代表・分担	研究テーマ	事業名
萱間 真美	代表	アウトリーチ (訪問支援) に関する研究	障害者対策総合研究事業
萱間 真美	分担	精神障害者の重症度判定及び重症患者の治療体制等に関する研究	障害者対策総合研究事業
萱間 真美	分担	精神疾患の医療計画と効果的な医療連携体制構築の推進に関する研究	障害者対策総合研究事業
山田 雅子	代表	診療報酬の適正評価のための看護ケア技術体系化に向けた研究	政策科学推進研究事業
井部 俊子	代表	社会保障と税の一体改革に向けた新たな看護職員確保対策に関する研究	厚生労働特別研究事業
亀井 智子	分担	認知機能低下高齢者への自立支援機器を用いた地域包括的システムの開発と評価	認知症対策総合研究事業
亀井 智子	分担	高齢者在宅医療に関する多職種協働の阻害要因を克服する克服する教育システムの構築に関する研究	長寿科学総合研究事業
及川 郁子	分担	慢性疾患に罹患している児の社会生活支援ならびに療養生活支援に関する実態調査およびそれら施策の充実にに関する研究	成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業
堀内 成子	分担	母子保健に関する国際的動向及び情報発信に関する研究	成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業

表2-3 専任・兼任研究員および研究テーマ一覧（その他の研究課題）

氏名	代表・分担	研究テーマ	研究種目
麻原きよみ	代表	保健師による実地的な放射線防護文化のモデル開発・普及と検証：放射線防護専門家との協働によるアクションリサーチ	環境省 平成25年度原子力災害影響調査等事業「放射線の健康影響に係る研究調査事業」
及川 郁子	代表	中央区ママとベビーの安心サポートシステム訪問等委託	東京都中央区委託事業
堀内 成子	代表	働く女性のためのプレママ教室	東京都中央区委託事業
堀内 成子	代表	タンザニアの母子保健改善に貢献する持続的な若手研究者の育成	アジア・アフリカ学術基盤形成事業
菱沼 典子	代表	地域住民のヘルス・リテラシー向上に寄与するアクティブ・ラーニング教材の開発	私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

(2) People-Centered Care (PCC) 実践開発室

1. 役割

PCC 実践開発部門では看護実践開発研究センターの一部門として、People-centered health care にもとづく新たな看護サービスモデルの研究的開発、および看護モデルの実践提供を通じて、市民主導型看護ケア（PCC）のあり方を探求する。

- 専任・兼任研究員が事業主となり、さまざまな世代にある人々の多様な健康課題に焦点をあて、ナースクリニックの場において、広く市民に PCC 看護実践を提供するとともに、研究成果を蓄積し、根拠のある PCC を開発・創生する。
- 各事業主が学部生、大学院生、専門職、他大学の教員等を対象として、看護の実践開発を理解する等の目的で教育の機会、および場として各事業を提供する。

2. 活動内容

1) 事業の推進

看護ケア部門の各事業は、年度当初の計画のもとに計画的に事業を実施した。

開催回数、参加者数は表1の通り、年間4,787人の市民を対象に事業が展開された。

2) PCC 実践開発室事業主ミーティング

本部門に属する研究事業全体の内容や課題、および対象者に安全に事業を実施するための方法を話し合うため、事業主によるミーティングを年間3回開催

した。

3) Quality control

本部門に属する事業の質を維持・向上するために「構造－実践過程－成果」の各要因から事業の質評価を行っている。各事業に参加した市民によるプログラム参加満足度を0～10の VAS (visual analog scale) により評価した。表に示したように、どの事業も参加者の満足度は高かった。また、安全に看護実践を提供するために、事業開始時に各事業ごとに安全対策指針を策定し、それにもとづく安全対策を実施して各事業を展開した。事業開催中のインシデントの報告はなかった。

3. 課題

今年度も市民との協働により PCC 実践開発室の事業を推進することができた。PCC を研究開発する上で、市民と研究者相互のコミュニケーションを促進すること、また参加者の安全管理を行うことは重要である。今年度はインシデントを生じることなく事業を実施できた。

2003年度に採択された文部科学省21世紀 COE プログラムのスタートと同時に開設された研究センターも10周年を迎え、多くの事業はこれまで継続的に企画・運営されてきた。ポスト COE 以降の本事業を支え続けていただいた聖路加-テルモ共同事業は今年度で終了することとなった。今後は各事業の採算性も検討して運営し、事業間の情報交換等を通じた PCC の理論化を推進していきたい。

4. 資料・データ

表1 PCC 実践開発部門が実施した事業のまとめ

事業名	事業主	構造要因 会場場所	プロセス要因			アウトカム		
			事業主以外の 学内従事者	学外従事者	プログラム	開催 回数	年 間 参加者数	参加者 満足度 ^a
赤ちゃんがやってくる	片岡弥恵子	聖路加産科クリニック	堀内成子	土屋麻由美	・新しく子どもが生まれる家族、特に兄姉になる子どもたちに対して、「出産とはどのようなものか?」、「あかちゃんとは?」などについて学習し、新しく家族を迎えることへの準備を行う。 ・兄姉になる子どもたちが、新しい生命の誕生を通じて、自分の生・性を大切にすることができるよう働きかける。 ・母親・父親、新しく兄姉になる子どもたちに、今後性に関する話ができるように支援する。	8回	248名 85家族	9.6
ルカ子母乳育児相談室	堀内成子	聖路加産科クリニック内 母乳相談室/自宅訪問	永森久美子	小林紀子	個別の母乳育児相談	来所： 月16件 訪問： 76件	90組 180名	10
天使の保護者ルカの会；グリーンファウンセリング	堀内成子	2号館5階ミーティングルーム1	—	堀内祥子 石井慶子	① 流産・死産・新生児期のあらゆる理由で児を亡くした母親・父親・夫婦・家族を対象にカウンセリングを通して精神的ケアを行う。グループから個人カウンセリングへの速やかな連携・継続的対応により、体験者の心理的不安を軽減する。 ② 周産期の死別に立ち会う看護職のためのグリーンサポートを行い、周産期のケアの心理的負担を軽減する。 方法：グリーンファウンセリング面接	21件	26名	9.2
天使の保護者ルカの会	蛭田明子	聖路加看護大学 2号館 3階交流ラウンジ	堀内成子	太田尚子 石井慶子 北園真希 勝又里織 星野浩一 堀内祥子 今村美代子	体験者同士のお話会 8回 手作りの会 2回（フラワーアレンジメント、エンジェルキルトを各1回）	10回	77名	9.0
乳がん女性のためのサポートプログラム	細田志衣	2号館/本館	大坂和可子、川端愛（大学院） 高橋恵子 大橋久美子 学部生	金井久子（聖路加国際病院） 矢ヶ崎香、小松浩子（慶應義塾大学）	乳がんを体験した女性同士が集い自由に話し合う場としてサポートグループを7回、乳がんに関する学習会を2回（乳がんサバイバーのためのリラクゼーション&ストレッチヨガ）を開催した。	10回	226名	8.6
リンパ浮腫ケアステーション	前田邦枝	2号館3階相談室	細田志衣	矢形寛 井上貴久美 中曽根朋子 金井久子 芳賀千織 細川恵子 大畑美里（聖路加国際病院） 佐藤佳代子 米原恵理子 恒藤靖子 加藤由佳（後藤	・がん看護を専門とする看護師、あん摩マッサージ指圧師、乳がん専門医がチームを組織し、がん体験者へのリンパ浮腫の予防、早期発見に関する教育、ケアの提供、悪化予防のための専門医への連携とコンサルテーションなど、統合的なケアを実施する。 ・医療職種対象の勉強会開催を通じ、現在リンパ浮腫ケアステーションで行われている活動	・研修会1回 ・グループ指導10回 ・個人施術30回	140名	9.5

				学園)	内容を公示するとともに、受講生のリンパ浮腫ケアについての基礎知識習得と臨床現場でのリンパ浮腫に対してのケア環境向上や看護スキルの活性化を目指す。			
聖路加健康ナビスポット： るかなび	有森直子	2号館1階 ぼるかるルーム	菱沼典子 山田雅子 高橋恵子 佐藤晋巨 高木裕也 瀬戸山陽子 牛山真佐子 藤田淳子 るかなびボランティア 47名(専門職ボランティア21名 市民ボランティア26名)	テルモ株式会社 チラシ掲載協力施設：聖路加国際病院、中央区役所、中央区立図書館、中央区桜川敬老館、中央区近隣住民・施設(商店街、銀行、図書館等)	1) 一般市民向け ・健康相談、健康測定(骨密度、体脂肪、身長・体重、血圧など) ・情報閲覧サービス提供 ・ランチタイムミニ講座&ミニコンサート ・CHADO(ティーサロン) ・中央区健康福祉祭りへの参加 ・白楊祭への参加 2) 市民・専門職ボランティア向け ・ボランティアミーティング ・ボランティア全体会 ・ボランティア勉強会 ・ブックリストミーティング	1) 市民向け活動：総計231回 2) ボランティア向け活動：総計23回	1) 計1276名 ・健康相談利用者計693名 ・ランチタイムミニ健康講座&ミニコンサート参加者計433名 ・CHADO150名	9.1
ダウン症候群のよりよい養育環境検討会—中央区—「ポルカの会」	有森直子	聖路加看護大学2号館 看護実践開発研究センター	有森直子 有田美和 大浜あつ子 聖路加看護大学大学院生 聖路加看護大学学部生	(聖路加国際病院看護師モンテッソーリ北尾クラス)北尾都先生 安藤麻衣子 山崎智子(音楽家) 川島広江(助産師) 高山恭子(美術講師) 末崎陽子(フットケア)	4月「体操」 5月「音楽」 6月「フットケア」 7月「動作法」 9月「美術」 10月「性教育講演会」 11月「音楽」 1月「モンテッソーリ教育」 2月「音楽」	9回	71家族 142名・スタッフ(ボランティア含む) 48名	9.6
子どもの健康、知ろう、考えよう～子どもの健康を家族と考える学習・交流会	及川郁子	聖路加看護大学2号館 交流ラウンジ 多目的ホール 聖路加看護大学本館 601・602教室	平林優子 小野智美 眞鍋裕紀子 三森寧子	西野理英 福本久美子 緒方綾乃 田村朱里 常山由美子 一之瀬くに子 藤澤真菜美 石川知恵子 合田直子	6月：虫歯予防は、ここまでのできる 7月：子どもの事故と応急処置・心肺蘇生法 10月：学校・保育園での食物アレルギー 11月：予防接種で防げる病気 1月：気になる子どもへの支援	5回	199名	8.2
「自分のからだを知ろう」おはなし会	菱沼典子	2号館 世田谷古民家 mamas 杉並区中央図書館	岩辺京子 白木和夫 大久保暢子 三森寧子 松谷美和子 佐居由美	村松純子 後藤桂子 中山久子 瀬戸山陽子 世良喜子 北沢克己 石井祐子	1シリーズ3回とし、以下の紙芝居を各20分×2本実施。 紙芝居のあと、その時の絵本を配布。 1回目 消化器系、筋骨格系 2回目 循環器系、生殖器系 3回目 泌尿器系、神経系 または、絵本からだドックブックの読み聞かせ。	6回	125名	9.3 (一部)
高齢者と家族へオンリーワンの「思い出帳(メモリーブック)」作りプロジェクト	千吉良綾子	2号館5階 ミーティングルーム、および対象者宅	山本由子(大学院) 亀井智子 梶井文子		幼少期、青春時代など毎回のテーマに沿った写真を持参してもらい人生を振り返る。セッションで語られた言葉や写真を用い、メモリーブックを作成する。	5回	10名	9.0

認知症の人の ご家族のため のリフレッシュ・プログラム	梶井文子	2号館ぼる かルーム	亀井智子 千吉良綾子	渡邊純子(看護師) NPO アロマテ ラピーボラン ティア協会 久松朋子(フラ ワーアレンジ メント)	認知症高齢者の介護者家族のため の認知症の理解や接し方の方法 等の教育的内容と、介護者間の 情報交換や心身の気分転換を 促すためのアクティビティ内容 を提供した。	8回	70名	9.6
多世代交流型 デイプログラム 聖路加和みの 会	亀井智子	2号館ぼる 地域散策ほ か	山本由子(大 学院) 渡邊麗子(大 学院) 糸井和佳(帝 京科学大学)	地域在住のボ ランティア 中央区書道連 盟 岡村大 NPO アロマセ ラピーサポー トセンター 大 場奈緒	都市部在住の小中学生と高齢者 の世代間交流を促進する。高齢 者世代から子ども世代への知恵 と文化の伝承、子ども世代の高 齢者理解を促進する。互惠の二 ーズを充足し、ヘルスプロモー ション、およびソーシャルキャ ピタルをめざす看護ケアの提 供。	30回	614名	高齢者 9.3 小学生 8.0
転倒骨折予防 実践講座 SAFETY on !	亀井智子	聖路加看護 大学地下ア ーツルーム	梶井文子 千吉良綾子 山本由子(大 学院) 渡邊麗子(大 学院) 糸井和佳(帝 京科学大学)	新野直明(桜美 林大学大学院) 入江由香子(高 崎商科大学短 大部) 杉本知子(千葉 県立保健科学 大学)	地域在住高齢者の転倒、および それに伴うけがの予防のため に、心身機能の測定、各種ミニ 講義、運動プログラム、転倒予 防啓発教材を使用した多因子介 入プログラムを提供。	6回	270名	9.2
在宅酸素療法 を行う方への テレナーシング	亀井智子	利用者宅	蝶名林直彦 (聖路加国 際病院)	-	慢性閉塞性肺疾患で在宅酸素療 法を行う方を対象として、ネッ ト端末を貸与して心身の状態を 遠隔モニタリング、およびトリ アージし、テレメンタリング、 および看護・保健指導を行い、 急性増悪を防いで安定療養に資 する。	-	-	-
はじめの一歩 の会	山田雅子	2号館5階ミ ーティング ルーム	麻原きよみ	篠原良子 勝田高之 木村紀子 他	ケアマネジャーからの紹介を受 け、在宅療養者ヘインフォー マルな生活支援サービスを届ける 活動を実施、家で死ぬるまじづ くりについて「語る会」を年1回 開催	11回	170名	8.6
ルカ子・サロ ン	森明子	ポルカルー ム	川元美里、 崎山貴代(大 学院)	不定期で不妊 症看護認定看 護師が従事(本 年は1名のみ)	当事者間のおしゃべり会を看護 職がサポートするもの。ミニ講 座を開催することもある。なか なか人に言えない不妊(妊娠) などリプロダクティブ・ヘルス の悩みを仲間と分かち合って精 神的負担を軽減する場と機会を 提供すること、正しい医学的知 識、医療・看護情報を提供す ることを目的とする。	10回	106名	回答者 全員が 「満足」 「ほぼ 満足」 と回答。
心臓リハビリ テーションヨ ガクラス	宇都宮明 美	聖路加国際 病院 トイ スラーホー ル	鈴木陽子	西裕太郎 笠井愛 岡村大介(聖路 加国際病院)	聖路加国際病院に外来通院中の 心臓リハビリテーションを終了 した心疾患患者を対象としたヨ ガクラス	51回	321名	9.2
聖路加市民ア カデミー	高橋恵子	本学本館ア リスC. メ モリアルホ ール	本学看護実 践開発研究 センター教 職員、 るかなび運 営メンバー、 るかなびボ ランティア、 本学学部生	テルモ株式会 社、 中央区近隣施 設	聖路加市民アカデミー 「自分 らしく生きるための選択」 特 別メッセージ日野原重明、講 演：木村利人(早稲田大学名誉 教授)、ミニコンサート：洪田 紀子、芦川侑美、高橋よしの	1回	318名	9.2

聖路加・テルモ共同研究事業 新健康カレッジ	高橋恵子	本学2号館	本学看護実践開発研究センター教職員、るかなび運営メンバー、るかなびボランティア、本学学部生	テルモ株式会社、中央区近隣施設	カレッジセミナー（全3回シリーズ）「知って学ぶ 自分のからだ」講師：上村昭博（聖路加メディカルセンター）、菱沼典子（本学基礎看護学教授）、西裕太郎（聖路加メディカルセンター）	3回	138名	9.1
聖路加看護大学 中央区連携講座 中央区区民カレッジ	高橋恵子	1. 聖路加看護大学2号館 2. 中央区築地教育会館	川元美里 有森直子 看護実践開発研究センター職員	中央区職員、梅田恵（緩和ケアパートナーズ）	1. 学びのコース 前期：「自分の体を知って、健康に！」 後期：「自分のからだを知って、健康な生活を！」 講師：島内憲夫、大久保菜穂子、大木麻梨子、花村睦 2. シニアコース 「今から考えよう 自分の最期の過ごし方」 講師：梅田恵（緩和ケアパートナーズ）、山田雅子（本学）、桑田美代子（青梅慶友病院）、吉田千晴（中央区京橋おとしより相談センター）、宇都宮明美・八重ゆかり・高橋恵子・佐藤直子（本学）	1. 10回 2. 10回	計83 53名 30名	5段階 満足度 4.2

a: 参加者満足度は0～10のVASによる平均値

(3)キャリア開発支援室

1. 役割・職務

- 1) 少子高齢社会で生じている健康問題や社会の動向をグローバルに捉え、看護の視点からいち早く取り組み、科学的根拠を集積し、市民とのパートナーシップを取りながら、看護を提供する方法を開発研究することを目的とする。

4. 資料・データ

表1 キャリア開発支援室：ナーススキルアップ講座

講座名	開催数	受講者数
看護管理コンサルテーション	随時(予約制)	1
緩和ケアコンサルテーション	随時(予約制)	0
在宅看護コンサルテーション	随時(予約制)	1
退院調整看護師養成プログラムと活動支援	1コース/年	49
精神看護事例検討会	4回/年	81
がん看護事例検討会	2回/年	2
英文献を読もう！パートI～基礎編～	2コース/年	8
英文献を読もう！パートII～構文理解強化コース～	1コース/年	4

2. 活動内容

- 1) 研究センターの目的を果たすために、主に看護職を対象にその知識・能力・態度の習得を目指した各種教育プログラムを企画・運営する。

*具体的プログラムの種類等については、資料に記す。

3. 課題

- 1) 認定看護師教育課程ががん化学療法看護コースの受験者数が減少している。今後の在り方について検討を要する。

不妊症看護認定看護師ポストコース	1回/年	68
がん化学療法看護認定看護師スキルアップセミナー	1回/年	99
訪問看護スキルアップセミナー	4回/年	49
聖路加看護大学・パラマウントベッド株式会社看護教育共同事業 クリティカルケア・シミュレーション教育プログラム SCC セミナー	9回/年	88
【新規】看護管理塾	10回/年	620
ELNEC-J 聖路加 ～すべてのナースのためのエンド・オブ・ライフ・ケア～	2クール/年	47
臨床疫学研究入門	5回/年	54
文献検索～準備体操～	3回/年	25
【新規】日野原重明先生指導下 ナースのための高級診察術	17回/年	1,145
合計		2,339

表2 キャリア開発支援室：認定看護管理者講習、認定看護師教育課程

教育課程	開講期間	受験者数	合格者数	受講者数	修了者数
ファーストレベル講習	8/19-9/20	94	94	89	89
不妊症看護コース	6/1-2/28	13	13	14 (1)	14
がん化学療法看護コース	6/1-2/28	22	21	21 (1)	21
訪問看護コース	6/1-2/28	25	25	26 (2)	26
計		60	59	61	59
合計		154	153	150	148

() 内は修了延期者の内数

(4)研究活動支援室

1. 役割・職務

- 1) 研究助成金情報の提供
- 2) 科研費の申請経理手続き
- 3) 研究コンサルテーション
- 4) 研究助成に関する選考

2. 活動内容

- 1) 上記の活動内容実績は表1参照
- 2) 上記 3)に関して、聖ルカ・ライフサイエンス研究所臨床疫学センターとの協働体制を実現した。

3. 課題

- 1) 科研費申請経理業務の効率化。
- 2) 研究コンサルテーションの役割を明確化するとともに、研究計画書の作成支援体制の構築を検討する。

4. 資料・データ

表1 研究支援部門活動実績

活動内容	件数	活動方法・手段等
(1) 研究助成金情報の提供	27件	学内メールによる通知
(2) 科研費の申請経理手続き	80件*	科研事務の諸ルールに基づく
(3) 研究コンサルテーション	86件	対面相談
(4) 研究助成に関する選考	0件	研究助成に関する選考委員会規定に基づく

* 文部科研：本年度交付47件+24年度繰越8件+他機関分担16件=71件

(採択率：新規・継続96%、新規88%)

厚労科研：9件

(5)WHO PHC 看護開発協力センター

(WHO Collaborating Center for Nursing in Development in PHC)

1. 聖路加看護大学 WHO PHC 看護開発協力センターは、本学、看護実践開発研究センターに再委嘱され、第6期2年目の活動を開始した。

1) センター目標(Terms of Reference)

(1) People-Centered Health Care (WPROのグローバルポリシーフレームワーク)の看護モデルをPHCの価値に基づいて、評価し改善をしてゆき、ミレニアム開発目標の達成と、少子高齢社会での健康生成に貢献する。

(2) People-Centered Care における看護のリーダーシップを発揮することにより、協働する保健人材の力を最大限の活用と能力開発、および学際的上級実践者の教育と、実際のサービス提供によりWHOの目標の達成に貢献する。

(3) PHCにおける看護・助産教育と上級実践の推進のための研究とシステムの改善によりWHOの活動を支援する。

(4) グローバルな地区を超えて、グローバルパートナーとの協働により、ミレニアム開発目標の中の母子保健のさらなる改善に貢献する。

上記、看護開発協力センターの目標達成にむけ、(1)看護実践開発研究センターの活動(PCC開発研究)の情報を統括し、(2)WHOとの連携活動を行う。

2. 事務局活動内容

1) 2013年度研究活動: WHO WPRO への報告: 2012年度本看護実践開発センターでの市民主導型ケア開発研究を WPRO、WHO 本部へ年次報告書提出し、Web で公開準備中。

2) 2013年5月20日に、第25回 ICN 4年毎大会がオーストラリア・メルボルンで開催された。各センターの活動報告、事務局選挙についての経過報告がなされた。

3) 7月に次期事務局の電子選挙が実施され、8月にオーストラリアのシドニー工科大学と決定した。

1年間は、ブラジル・サンパウロ大学と一緒に事務局を務める。

4) 国内広報として日本看護協会出版会「看護」

WHONEWSに隔月に連載。Webで公開(備考1)。

5) 看護助産強化への教育を通しての国際保健への貢献:

① アジア・アフリカ 助産研究センター;

タンザニア、ムヒンビリ健康科学大学の助産修士課程(研究者育成コース)の設立協力は継続中である。大学内のコンセンサスを取り、ステークホルダーと調整をしたところ、タンザニア大学協議会(TCU)から教員不足について指摘があったため、本学助産学教員を客員教員として登録することで大学側と合意し、そのプロセスを踏んでいる。加えて、課程開始後の臨床指導者となるムヒンビリ国立病院の3名の助産師を招聘し、日本の教育・実践を学ぶ機会を提供した。代わりに、本学大学院生7名を派遣し、医療機関を視察、プレゼンテーションを行い、交流した。うち3名は修士論文/課題研究のテーマをタンザニアで選び、共同研究を遂行してまとめ、Webで公開(備考2)している。

② インドネシア、看護助産強化への協力:

・イスラム大学からの博士課程院生は、昨年度3月で2名が博士号を取得し、帰国、所属機関の教員として活動している。

・インドネシアにおける看護助産強化策として、地区のプログラム開発の不足の課題を受けて、今年度から、地域でのNCDsの予防・健康増進プログラムの開発のための、基礎的調査を、インドネシア、西ジャワ州で共同研究を壮年期の高血圧予防、学童の肥満予防を焦点に開始した。

3. 課題

1) 2014年度からの聖路加国際大学と組織改編後のWHO PHC 看護開発協力センターとしての活動システムの構築

2) グローバルヘルス特に、WHO・西太平洋地区(WPRO)での本センターの看護の貢献の仕方の開発 WPRO 看護・助産領域の新任アドバイザー、Dr. Gulin との関係の再構築

4. 資料データ

備考 1) 「看護」(日本看護協会出版会)

WHO NEWS 連載及び Web にて公開中

<http://www.slcn.ac.jp/who/whonews/>

	執筆者	テーマ	「看護」
2014年03月	亀井 智子	聖路加看護大学大学院におけるチームビルディング育成プログラム	第66巻 3号
2014年01月	梶井 文子	認知症の人の加須港介護者のためのリフレッシュ・プログラム	第66巻 1号
2013年11月	有森 直子	遺伝学的課題をもつ人々のためのコミュニティの創生	第65巻 13号
2013年09月	田代 順子	「WHO看護開発協力センター・グローバルネットワーク総会」報告	第65巻 11号
2013年07月	亀井 智子	都市部在住高齢者と子どもの世代間交流プログラム：世代間継承からソーシャルキャピタルへ	第65巻 9号
2013年05月	大畑 美里	乳がん医療を受ける女性が主人公となるために	第65巻 6号

(6) るかなび運営会議

1. 役割・職務

- 1) るかなび活動の計画を立案する。
- 2) るかなび運営に必要な企画・手段等を検討し、問題があれば改善策を講ずる。
- 3) 看護実践開発研究センターの機関事業として機能するよう、活動を推進する。

2. 活動内容

- 1) 毎月の運営会議また、協働するボランティアとのミーティング、全体会を開催し、るかなび運営に関する諸事を「実践活動(市民への健康支援サービス)」

「地域連携」「教育活動」「研究活動」の側面から検討し、その活動を推進した。

- 2) るかなび活動の継続に必要な資金確保として研究費を新たに獲得した。

3. 課題

- 1) 市民のヘルスリテラシー向上に寄与する研究的な取り組み
- 2) 市民のための図書館機能を持つ健康情報サービスの充実
- 3) People-Centered Care の学習の場としての発展

4. 資料・データ

2013 年度 るかなび活動の実績

るかなび事業	実施概要	人数など
実践活動(健康支援サーピス)		
健康相談・健康測定(骨密度・体脂肪・血圧)	207日/年	利用者総数 693名(うち骨密度測定者 515名)
ランチャタイムミニ講座・ミニコンサート	10回/年	参加総数433名
CHADO	11回/年	参加人数150名
ボランティアミーティング	7回/年	参加人数99名
るかなび全体会	1回/年	参加人数24名
ボランティア勉強会	8回/年	参加人数103名
闘病記ブックリストミーティング	7回/年	参加人数56名
教育活動		
PCC概論:コミュニケーション実習	1回/年	1名(学部1年生)
PCC概論:自分の生活と健康の調査(骨密度・身体計)	3回/年	98名(学部1年生/学士17回生)
認定看護師教育課程:演習	1回/年	26名(認定看護師教育課程(訪問看護コース)受講生)
認定看護師教育課程:実習	健康相談 (1回/年)	3名(認定看護師教育課程(訪問看護コース)受講生)
るかなび闘病記文庫利用		計313冊(学部生 153、院生 4、教職員 7、るかなびボランティア 149)
CNSである看護教員に実践活動の場を提供した		精神看護専門看護師、がん看護専門看護師、地域看護専門看護師、在宅看護専門看護師
地域連携・広報活動		
市民ボランティア	登録者総数	46名(市民ボランティア26名、専門職ボランティア20名)
中央区健康福祉祭への参加(10月27日):活動紹介展示、血	1回/年	血圧測定者85名 アンケート回収105
白楊祭への参加(11月9~10日):活動紹介展示、血圧測定な	2回/年	来訪者64名
中央区におけるるかなびポスターの掲示	掲示協力施設数	47施設(本年度新規 6施設)
研究活動		
私立大学戦略研究基盤形成支援事業「地域住民のヘルスリテラシー向上に寄与するアクティブ・ラーニング教材の開発」	研究代表者	菱沼典子
<活動報告>		
研究発表:年代による特徴を反映させた市民向け骨粗鬆症予防のための教材における活用評価(第1報)一骨密度測定後の健康相談を利用した市民を対象に一研究発表:年代による特徴を反映させた市民向け骨粗鬆症予防のための教材における活用評価(第2報)一相談対応時に教材を活用した専門職を対象に一短報:るかなびが市民に提供しているランチャタイムミニ講座&ミニコンサートの活動評価一初回参加者のアンケート調査から一	菱沼典子、高橋恵子他(2013) 高橋恵子、菱沼典子他(2015) 佐藤直子、高橋恵子、有森直子他(2014)	第18回聖路加看護学会学術大会、 第18回聖路加看護学会学術大会、 聖路加看護大学紀要, 40, 118-121

(7) 聖路加・テルモ共同研究事業

聖路加市民アカデミー・新健康カレッジセミナー

1. 役割

テルモ株式会社からの寄付金をもとに、社会貢献事業として一般市民向けの健康支援セミナーとして「聖路加・テルモ共同研究事業 新健康カレッジ」を開催し、自分自身の身体を理解し主体的に健康を維持して自分らしくより良く生きることを目指して、市民に学びの場を提供している。

2. 活動内容

1) 聖路加市民アカデミー2013

〔開催日：2013年10月24日（木） 13：30－16：00〕

「自分らしく生きるための選択」をメインテーマとし、少子高齢社会が進む時代に、私たちが自分らしくよりよく生きるためにどのような選択や準備をしたらよいのか、バイオエシックスの提唱者である講師の先生方と共に、参加者と一緒に考えていく機会を提供した。

講演テーマと講師は、〔特別講演〕生き方上手：日野原重明氏（聖路加国際メディカルセンター理事長 聖路加看護学園理事長）、〔講演〕自分らしくよりよく生きること：木村利人先生（早稲田大学名誉教授）であった。講演後には、渋谷紀子氏、芦川侑美氏、高橋よしの氏による心癒される弦楽三重奏で幕を閉じた。会場には318名もの参加者が集まった。

2) 新健康カレッジセミナー2011

〔開催日：〔講座Ⅰ〕2013年9月7日、〔講座Ⅱ〕2013年11月9日、〔講座Ⅲ〕2013年1月11日 いずれも土曜日14：00－15：30〕

「知って学ぶ 自分のからだ」全3回シリーズで、〔講座Ⅰ〕なぜ脳出血が起こるの？－その予防と最新治療－：上村昭博先生（聖路加国際病院 神経血管内治療科医員）、〔講座Ⅱ〕なぜ骨粗鬆症になるの？－骨のしくみと骨粗鬆症－：菱沼典子先生（聖路加看護大学 基礎看護学教授）、〔講座Ⅲ〕なぜ高血圧は怖い？－狭心症と最新治療－：西祐太郎先生（聖路加国際病院 循環器内科医長）が開催された。参加者は、〔講座Ⅰ〕55名〔講座Ⅱ〕45名〔講座Ⅲ〕38名であった。

3. 課題

今年度で、聖路加・テルモ共同研究事業は終了する。しかし、市民のニーズが高い事業であるため、新たな体制における運営の継続を検討したい。

(8) 福島県災害支援プロジェクト

1. 役割・職務

NPO 法人日本臨床研究支援ユニット（理事長 大橋靖雄 東京大学教授）による「きぼうときずなプロジェクト」に賛同・協力する形で、本学は2011年4月から福島県災害支援プロジェクトを立ち上げ、東日本大震災被災地の中でも福島県に特化した支援を継続し、本学に縁のある看護師、保健師の派遣や行政保健師との共同研究等とおして、被災者の健康増進に寄与する活動を行った。

2. 活動内容（上記1に沿って記述）

今年度の主な活動は以下の4つである。

- 1) 富岡町保健師からの依頼に基づき、被災住民の生活活動度調査のための調査票案を作成、提供した。
- 2) 「東日本大震災後の福島県被災住民（いわき市）の健康調査（研究代表者：山田雅子、公益財団法人大和証券ヘルス財団平成24年度調査研究助成金による）」として、いわき市保健所が実施した健康調査データの分析を行った。
- 3) 富岡町の骨粗鬆症・子宮頸がん検診に参加する女性を対象としたロコモティブシンドロームに関する説明と、ビデオを併用した体操指導講座を2013年12月17日に開催した。本学の認定看護師教育課程訪問看護コースの受講生23名が講師および健康相談員として活躍した。
- 4) 富岡町おたがいさまセンター主導による料理もてなし隊・健康もてなし隊プロジェクトへの健康相談員を派遣した。本活動は2014年2月～3月に4回開催され、福島県在住の認定看護師教育課程訪問看護コース受講生1名と本学教員または、るかなび専門職ボランティア1名がペアとなり、各回2名が健康相談員として参加した。詳細については表1参照。

3. 課題

NPO 法人による「きぼうときずなプロジェクト」活動も4年目に入り、被災地や被災者の変化に伴い支援

活動の内容・形態も変化していくことが予想され、本学による活動協力体制も柔軟に対応することが求められる。

4. 資料・データ

表1 「きぼうときずな」料理もてなし隊・健康もてなし隊活動の詳細

日程	開催場所	対象者 (各回 20-30 人予定)	備考
2014. 2. 18 (火)	おたがいさまセンター	・郡山富田仮設住民 ・元気でなんでもできる人	・シェフ指導による料理教室と食事会と健康相談
2014. 2. 27 (木)	川内村集会所	・郡山南一丁目仮設住民 ・元気でなんでもできる人	同上
2014. 3. 4 (火)	おたがいさまセンター	・郡山緑ヶ丘仮設住民 ・元気でなんでもできる人	・シェフ指導による料理教室と食事会 ・健康相談 ・郡山市役所のバスで、緑ヶ丘仮設と富田仮設の間を送迎
2014. 3. 18 (火)	おたがいさまセンター	・郡山富田仮設住民 ・おたがいさまセンターに来たことがない人	・料理は前3回の参加者が担当 ・健康相談

IV 学生支援組織

1 教務部（教務課）

1. 役割・職務

本学の学生が本学の教育理念のもと、教育課程に従い単位を履修し、卒業または修了することが出来るよう支援し、その学籍を保管する役割を担う。

具体的には以下の職務を行う。

- 1) 学籍に関すること
- 2) 成績に関すること
- 3) 教育課程の編成、授業の実施に関すること
- 4) 国家試験に関すること
- 5) 入学試験に関すること
- 6) 国際交流に関すること

2. 活動内容

上記の例年の業務に加え、今年度は以下のことを行った。

- 1) e-ポートフォリオ（manaba course 2）の導入において、中心的な役割を担い、導入への合意を得、次年度からの運用に向けて、教職員を対象とした研修会の実施等を行った。
- 2) 2013年度入学生より、GPAによる評価を学生への通知表に記載し、学生による成績の自己管理を促すとともに、成績認定会議に表示し評価を行った。
- 3) 修士課程看護教育学上級実践コースの新規開講にともない、聖路加国際病院看護師を対象とした特別入試を実施し、5名の入学予定者を決定した。病院内に学部実習担当者を育成し、実習体制の強化をはかっていく。
- 4) 2014年度および2015年度の公衆衛生看護学実習について、新たな実習施設の開拓を行った。遠隔地における実習については宿の確保を行った。2月に実習のオリエンテーションを実施し、総合実習、公衆衛生看護学実習、養護実習の希望をとり、実習場の振り分けを行った。
- 5) 最終年度となった「専門的看護師・薬剤師等医療人材養成事業」によるチームビルディング力育成合宿セミナーが、昨年と同様に2泊3日でミシガン大学から講師を招聘して実施され、その事務処理を行った。

6) 多様な学生の学びに関するプロジェクトのメンバーの中心的な役割を担い、後期半年間にわたる看護学実習の支援を行った。

7) 実習科目の充実と質の向上、および学士編入学制度の短縮を目的としたカリキュラム改正への取り組みを開始した。

3. 課題

- 1) 今後、アクティブラーニング型の授業が増えていく中で、大学全体の部屋の割り振りや使い方、教室の仕様を継続して検討していく必要がある。
- 2) 書類や物品の整理や保管が最優先の課題であったが、日々の業務に追われ、手がついていない状況である。電子化を含め、今後も、教務課全体で検討していく必要がある。
- 3) 公衆衛生看護学実習が2014年度実施され、特に遠方での実習が入ってくるため、円滑に実施できるよう事務処理を遺漏なく実施していく必要がある。
- 4) 学部学生および大学院学生の主体的な学習活動を支援するためのe-ポートフォリオが導入された。今後は、本学の教育の中に無理なく導入していけるよう、環境を整え、支援していく必要がある。
- 5) 実習科目の充実と質の向上、および学士編入学制度の短縮を目的としたカリキュラム改正案について、2015年度より実施できるように進めていく必要がある。

(1)カリキュラム運用委員会

1. 役割・職務（カリキュラム運用委員会規程）

本学の教育理念のもと、現行の看護学部教育課程の運用および編成に係る事項について所用の審議を行い、必要あれば教授会に上程する。具体的には、以下のことを審議する。

1. 教育課程の編成に関すること
2. 授業科目および実習の実施に関すること
3. 時間割の編成に関すること
4. 前各号に係る評価に関すること
5. 単位の認定に関すること
6. 非常勤講師、臨時助教の採用に関すること

7. 学生の履修状況に関すること
8. その他教育課程に関すること

2. 活動内容

定例会議11回の委員会を開催し、例年の上記審議事項の他に、以下について審議を行った。

- 1) 現在利用している体育館が2年後に閉鎖となることから、保健師国家試験受験資格や養護教諭1種免許に必修となる「体育」科目2単位の履修方法について検討が行われ、理論を中心とした「体育Ⅲ」2単位を新たに開講することを教授会に上程し、2014年度入学生より「体育Ⅲ」を開講することになった。
- 2) 保健医療福祉行政論演習の担当者および授業方法について検討が行われ、担当教員が確保できれば今まで通りPBLの手法により継続して行うことを決定した。
- 3) 看護提供システムⅡで実施していた災害看護について、カリキュラム2011では、看護ゼミナールで災害看護を新たに開講することを決定した。
- 4) 2011年度および2012年度入学生に限り、保健国家試験受験資格取得希望者は全員が公衆衛生看護学実習を履修出来ることとしたため、公衆衛生看護学実習の実習場の開拓、実習環境整備の方法、学生の振り分けの方法等について、公衆衛生看護学実習プロジェクトからの提案をもとに決定した。
- 5) シラバスの第3者チェックを実施していくことが決まり、シラバス検討小委員会を編成することを決定した。
- 6) カリキュラム評価委員会を編成し、卒業生のカリキュラム評価を実施していくことを決定した。
- 7) 学部カリキュラムについて、2015年度より卒業所要単位数をスリム化し、実習の選択科目を増やすカリキュラムの検討を開始した。また、学士編入学制度を2年間に短縮するカリキュラムの検討を開始した。

3. 課題

- 1) 保健師国家試験受験資格選択者の新たな実習先を開拓し、実習先の振り分けを行ったが、実習がスムーズに実施できるよう引き続き対応を検討する必要がある。
- 2) 科目等履修生の養護実習1単位の開講について検討課題であったが、未だ検討されていない。科目等

履修生の開講の在り方とともに引き続き検討が必要である。

- 3) 2011年度からのカリキュラムへの移行期であること、さらに、新たなカリキュラムの移行を検討しているため、引き続き円滑な運用が出来るようにすることが課題である。

①実習単位認定者会議

1. 役割・職務

各実習レベルの実習単位認定者による学生指導を円滑に進めるための連絡会議

2. 活動内容

1) 実習の積み重ねの支援実習

実習レベルⅠからⅢの学生の実習状況について情報共有を行った。実習レベル目標達成度自己記入用紙を活用し、学生個々の課題を次のレベルの実習や次の領域実習に活かせるよう、継続して支援した。

2) 学生個々のニーズの支援

多様な学生の学びを支援するために、実習の支援体制や実習状況、実習施設との調整方法等について、実習レベル間・実習領域間で意見交換と情報共有を行った。また、実習レベルⅡの前に実施したアンケートから、学生の実習に向けての心配や不安等を把握し、健康管理室と連携して実習環境を整えて支援した。さらに、実習中に発生した要支援の学生に関しても情報共有を行った。

3) 実習中の安全確保

実習中に起きたインシデント・ハラスメントについて情報共有し、対応や予防策について意見交換を行った。インシデントに関しては、実習施設と大学側の実習内容の認識のずれから生じたと考えられる事案もあった。

3. 課題

- 1) 学生が各実習レベルの目標を達成できるよう、引き続き実習レベル間・実習領域間での情報共有と意見交換を行う。
- 2) 学生個々のニーズに対応できるよう、学生が相談しやすい環境や効果的な支援方法を検討する。要支援の学生の対応については、大学全体として統一した判断ができるような体制を検討する。

- 3) 学生と対象者の安全確保ができるよう、実習施設と実習内容の確認を継続的に行う。

②臨地実習Ⅱ担当者会議

1. 役割・職務

実習レベルⅡにおける学生指導を円滑に進めるための連絡協議

2. 活動内容

2013年4月9日と6月4日に構成員で会議を開催し、臨地実習に向けた準備と指導体制について検討した。

1) 実習オリエンテーションの実施内容の検討

カリキュラム変更に伴い、臨地実習オリエンテーションを1回のみ実施することとなったため、日程調整およびオリエンテーション内容の検討を協議した。

(1) 臨地実習オリエンテーション日時

2013年7月23日の12:40~15:20に実施した。

(2) 臨地実習オリエンテーションの内容

オリエンテーションの内容は以下とした。

- ①教務からのオリエンテーション
- ②全体オリエンテーション
- ③聖路加国際病院 Smile for の使い方
- ④安全に実習を行うために:感染管理
- ⑤安全に実習を行うために:ハラスメントへの対応
- ⑥健康管理
- ⑦各領域のオリエンテーション (各5分程度)

*具体的なオリエンテーションは各領域の実習初日または講義時間内で実施した。

*事前アンケートは、例年通り行い、そのインフォメーションもオリエンテーションのなかで実施した。

(3) 技術チェックおよび実習前自己学習

学生全員の实習前技術チェックは行わず、各領域で場所等を調節し、従来のように各領域からの分担教員は設定せずに自己学習期間を設けた。周産期看護学、小児看護学、老年看護学が自己学習内容を提示した。自己学習準備日として8月23日(金)13~15時、自己学習期間は8月24(土)、26(月)~29日(木)9~17時とした。

2) 実習指導体制について

聴覚障害を持つ学生の実習指導と、伴走者(手話通訳者)の調整について、情報共有と調整を行った。多様な学生の学びプロジェクトとも協働し、指導・支援体制を整えた。

3. 課題

- ・実習期間中に学生の学習上の課題等があった際に、教員間で効果的な指導方法について実習中でもシェアまたは伝達できるような場が期待されていたため、今後の課題とする。
- ・学生より自己学習の時期や期間について、より時間がほしいという声があった。学生が安心かつ安全に実習に臨めるように自己学習について再検討する必要がある。

(2)実習室委員会

1. 役割・職務

聖路加看護大学の学生が必要な看護技術を修得するために実習室の環境を整える。

- 1) 地下および6階実習室と教材が、学生の学習環境として整うように管理・運営する。
- 2) 実習室自己学習支援員を配置し、学生の自己学習支援を行えるように依頼・調整する。

2. 活動内容 (表1・2参照)

3. 課題

- 1) 実習室備品(ベッド、オーバーベッドテーブル、モデル類など)の老朽化が進んでいるため、今後、計画的に買い替えを行う必要がある。
- 2) 学部は新カリキュラム移行4年目となり新演習科目が開講し、大学院ではCNEコースが開始され、実習室利用状況がこれまでと異なる可能性がある。各種研究会等にも多く利用されているため、学生の自己学習環境の確保および整備が課題である。
- 3) 今年度は実習室支援員が継続的に確保でき、学生に有効な学習環境が提供できた。来年度以降も人材に努力していく。

4. 資料

表1:2013 年度実習室委員会活動内容

活動項目	活動内容
実習室支援員の確保・支援業務依頼・日程調整・勤務管理・学内周知	原則週2回、各1名の支援員が在室できるように調整した。勤務時間は学生の空き時間を考慮し、午前中からの在室日も設けた。掲示とメールで学内に周知した。
地下、6階の実習室インベントリ	3月12日(水) 10:00~17:00、教員(10:00-12:00) 学生アルバイト(10:00-15:00)、実習室委員(9:30-17:00) 計51名で実施。登録備品確認、不要物品の整理、修理依頼を行った。アーカイブ物品の登録を行った。アーカイブ物品は歴史編纂資料室管理として登録し、物品にアーカイブラベルを貼付した。
医療機器・教材の点検	①臨床工学士による医療機器の点検を依頼(7月、3月)、②蘇生・シミュレーター人形の点検を業者に依頼(2月)、③機器の充電、通電・作動点検を毎月確認(自己学習支援員による)。
物品の修理・破損物の処理	年間を通じて実習室物品・設備の修理や破損物処理の窓口となった。用紙を改善し修理・破損物報告方法の簡便化をはかった。
物品の貸し出し・実習室使用の調整	学内教員の教材・物品貸し出し表により貸し出しを把握。学生への貸出票(教務課保管)による管理。白楊祭や病院の研修等の貸出しの相談・調整・準備・返却確認を行った。
業者による清掃依頼・インベントリ一時の棚・物品の清掃	業者への清掃依頼(8月、2月):倉庫内ワックスかけ(2月)、ベット、床頭台、棚扉や枠等の清掃。インベントリ時(3月)は全棚内・教材物品類の清掃
全ベッドのリネンの洗濯・交換	8月、3月(2回)実施した。
実習室必要物品の購入・予算計上	実習室予算による物品の購入を行った。各領域からの要望聞き予算を計上した。
実習室環境整備	日々の演習室環境および倉庫の整備を行った。実習室マニュアルの見直し、修正を行った。6階アールームをFNF育成のための実習室として整備した。学習環境改善のために、他校の実習室状況についての情報収集、老朽化した実習室備品買い換えのための費用算出を行った。
実習室使用に関するアナウンス	①自己学習室マップの掲示とアナウンス、②実習室使用上のマナーの呼びかけ(掲示等)、③実習室に関連する情報のアナウンス
災害対策環境の整備	震災時に使用が予測される物品のマップ、懐中電灯の確認を行った。

表2:2013年度実習室自己学習支援員による自己学習支援件数(2013.4.1~2014.3.4) (延べ人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1年生	0	70	0	0	0	0	92	32	39	55	0	0	288
2年生	0	233	206	100	0	15	207	123	53	15	109	0	1,061
3年生	4	0	3	6	0	1	0	14	7	0	4	0	39
4年生	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18
大学院	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	6
計	4	303	227	106	0	16	299	175	99	70	113	0	1,412

(3)体育デー委員会

1. 役割・職務

- 1) 他の学年の人たちや教職員との親睦を深める。
- 2) 身体を動かし、気持ちの良い汗を流し、楽しむ。
- 3) 学生体育デー委員が主体となって体育デーの企画・運営を行い、教職員・顧問は学生委員のサポートを行う。

2. 活動内容

- 1) 4月に新入生委員の勧誘を行い、前年度の引き継ぎが行われた。
- 2) 企画・準備のため週1~2回昼休みに開催され、役割分担・種目・ルール決定、必要物品の準備、各参加者出場種目の決定、体育デーパンフレットの作成と配布などを行った。
- 3) 教員は毎回委員会に出席し、学生の自主的な活動

に向けたアドバイスや支援、教職員の出場種目の調整などを行った。

- 2013年度の体育デーは5月25日(土)中央区立総合スポーツセンターにおいて開催され、競技種目は、バレーボール、ドッジボール、台風の目、玉入れ、障害物競走、綱引き、チーム対抗リレーであった。
- 競技の結果は、1位：1年生と3年生(同点)、3位：2年生と4年生(同点)で、1位と3位の差は20点という僅差であった。

3. 課題

- ケガや事故などを防ぐための競技内容やルールなどについての検討。
- チーム対応リレーなど競技によっては参加する教職員が少ないので、教職員の参加者を増やす方策の検討。
- 学年間に参加者数の差がみられる。すべての学年の学生が参加したいと感じるようなプログラムづくりに協力していきたい。

(4)オリエンテーション・セミナー委員会

1. 役割・職務

新入生オリエンテーション・セミナーの企画、実施

2. 活動内容

1) 新入生オリエンテーション・セミナーの開催

本学学部入学生を対象として、本学の理念およびカリキュラムへの理解、上級生や教職員との交流、さらに、新入生相互の交流などの促進を目的に、2013年度新入生オリエンテーション・セミナーを、財団法人キープ協会清泉寮において開催した。企画・実施に当たっては上級生のオリゼミ委員と共同で実施し、またセミナー当日は教職員の協力を得た。

日 時：2013年4月5日(金)～6日(土) 1泊2日

場 所：財団法人キープ協会清泉寮(山梨県北杜市高根町清里3545)

参加者：新入生98名、上級生23名、教員19名

プログラム：

4月5日(金)

9:00 大学出発(バスで清里まで移動)
昼食後

13:30-16:45 グループワーク「聖路加看護大学入学のきっかけ」

17:00-17:30 タベの祈り(ケビン・シーバー司祭)

17:30-19:00 夕食(新館レストラン)

19:00-20:30 上級生企画・交流

4月6日(土)

9:45 朝の森の散策・礼拝(ケビン・シーバー司祭)

7:30-9:00 朝食

9:00-9:30 リングウォルト先生のお話

9:30-10:30 グループワーク発表会

10:45-11:50 フィールドワーク/昼食

12:00 清泉寮 出発

(バスで大学まで移動)

※悪天候に伴い、フィールドワークの時間を短縮して早めに清泉寮を出発した

2) オリエンテーション・セミナーレポート

新入生オリエンテーション・セミナーに参加した新入生の感想を冊子にして配布した。

3) アンケート結果

新入生アンケートでは、5点満点のうち「このセミナーに参加して満足でしたか」の問いの平均は4.6点であり、「このセミナーは必要だと思いますか」の問いの平均は4.8点であった。

3. 課題

1) 悪天候に伴い、フィールドワークの時間を短縮して実施し、清泉寮の出発を早めた。スケジュールの変更および帰校時間の決定が遅れたこと、およびフィールドワークを短縮した場合のルートや内容の変更を考えていなかったために、ルートの変更に手間取り、グループによってはフィールドワークから戻る時間が遅くなるなど混乱した。スケジュールを天候に合わせたいくつかのパターンで計画する必要がある、どのスケジュールで実施するかは、オリゼミ1日目の早い段階で決定する必要がある。

2) オリゼミ実施期間中に新入生の一人が体調を崩した。保護者が遠方である場合も考えられるため、体調不良者に対応できるようレンタカーを準備するなど対応が必要である。

3) 本年度はオリゼミを早退する新入生が2名いた。いつ早退するか早めに把握する必要がある。

(5) I R 室

1. 役割・職務

- 1) 学修時間・教育の成果等に関する情報の収集・分析
- 2) 入試に関する情報の収集・分析
- 3) その他大学の運営に関する情報の収集・分析

2. 活動内容

- 1) 2014年9月2日～9月30日の間で学部生全員に対し学生生活活動調査アンケート(無記名式)を行い、42名からの回答を得た。
- 2) 表1にあるデータを収集しグラフ化できるものはグラフ化した。収集したデータを共有フォルダに保存し、関係部署に公開を行った。
- 3) 保健師資格取得教育の調査を学内1年生～3年生、特別区保健師責任者、看護系大学14大学(3年生)への調査協力を依頼した。学内の学部生から217名の回答、特別区保健師責任者12名の回答、看護系大学に関しては5大学より調査協力承諾の連絡があり3年生向けに計377通のアンケートハガキを送付し、193通の

4. 資料・データ

表1

データ	データ内容
受験者数	2009年度から年度ごとの学部生、院生(修士・博士)の受験者数
合格者	2009年度から年度ごとの学部生、院生(修士・博士)の合格者数
入学者数	2009年度から年度ごとの学部生、院生(修士・博士)の入学者数
大学院入学状況詳細	2008年度から年度ごとの大学院志願者詳細、入学者詳細
卒業生数	2009年度から年度ごとの学部生、院生(修士・博士)の卒業生数
創立からの卒業生数	創立からの学部、修士、博士の卒業・修了生数
在学生数	2009年度から年度ごとの学部生、院生(修士・博士)の在学生数 学部に関しては内訳に男子在学者数もあり
国家試験	2009年度から年度ごとの看護師・保健師・助産師国家試験の受験者数、合格者数、 本学合格率、全国平均の新卒合格率
留年・退学者・卒業延期者数	2009年度から年度ごとの学部生、院生(修士・博士)の留年・退学者数 学部は卒業延期者数もあり
卒業後の進路先	2007年度から年度ごとの看護師・保健師・助産師・養護教諭等の進路先名
卒業生・修了生の動向	2009年度から年度ごとの学部生、院生(修士・博士)の動向
学生生活活動調査	2013年度9月に行った学部生への学生生活活動調査
博士論文題目一覧	1991年からの博士論文題目詳細、学位授与までの年数

回答をもらった。

- 4) 2013年、1年生～4年生の前期履修科目の科目平均点、標準偏差、CGP(平均点の分布グラフ有)、2013年卒業生の4年間分の全科目平均点、標準偏差、CGPを作成した。その他に文科省からの調査、日本看護系大学協議会の調査へ回答し、回答内容のデータを収集し共有フォルダに保存した。

3. 課題

- 1) 学生生活活動調査を夏休み期間に行ったため有効回答数が少なくなってしまった。この調査時期を見直す必要がある。また、Web アンケート等を活用して学生が容易に回答出来るように工夫する必要がある。
- 2) 散在しているデータの正確な数値を持っている部署を把握し、対象部署に対してデータを素早く提出してもらえるようにする体制が必要である。
- 3) 収集したデータをデータベース化して情報の検索を容易にする方法を検討する。

平成 24 年度大学院活動状況調査	2012 年度大学院活動状況調査データ
認定事業	2009 年度から年度ごとの認定看護管理者ファーストレベル・セカンドレベル・認定看護師教育課程(不妊症看護、がん化学療法看護、訪問看護)の応募人数、受講者数
オープンキャンパス数値	2013 年度オープンキャンパスの来場者数等詳細
日本看護系大学協議会 看護系大学の教育等に関する実態調査	2009 年度から年度ごとのアンケートの回答内容詳細
大学データ	大学に関するデータ及び各アンケートで重複する内容等を随時追加していくデータ
外部アンケート調査	「大学経営効率化」に関するアンケート調査 大学・高専等の社会・地域貢献活動に関する調査(文科省) 私学版ポートレート(仮称)に関するアンケート調査表 その他広報室が回答したアンケート
保健師資格取得教育の調査	学内 1、2、3 年生 14 大学の内協力大学 5 大学：計 377 通発送、193 通返信 特別区 23 区中 12 通返信
自己評価委員会用データ	2013 年、1 年生～4 年生の前期履修科目の科目平均点、標準偏差、CGP (平均点の分布グラフ有) 2013 年卒業生の 4 年間分の全科目平均点、標準偏差、CGP

2. 学生部 (学生課)

1. 役割・職務

- 1) 学生自治会、課外活動支援、2) チャペル関係、
- 3) 進学・就職、4) 奨学金、5) ホームページ、大学案内、6) 福利施設の利用案内

2. 活動内容

1) 学生自治会、課外活動支援：

- ・毎月 1 回の学生自治会とのミーティング、学生自治会定期総会の開催支援、学事行事、課外活動等への支援を行った。学生自治会長は、9 月まで山下奈緒子が務め、10 月より岩佐未来に交代した。今年度の総会では、自治会費の減額について検討された。
- ・自治会主催の白楊祭(学園祭)は、「雅～古こそが光端なり～」をテーマとして11月9日、10日に開催した。来場者は、1,058名(前年比-53名)であり、日野原重明前理事長、大久保暢子先生による講演会が開催された。
- ・本年度も、学生マナー委員会は、体育デーなどの学事行事等でマナーの改善を呼びかけるなどの活動を実施した。

2) チャペル委員会のページ参照

3) 進学・就職支援：

- ・就職ガイダンス2013～2014の実施：2013年4月(4年生3回目)、2013年12月・2014年2月(3年生2回)にガイダンスを実施した。就職・進学ガイドブックについては2013年版の見直しを行い、2014年版を作成、該当学生に配布した。就職ガイダンスでは、就職活動のポイントとして、就職・進学先の選定、就職試験の対策、内定を受けた後の辞退の仕方等の説明を行うとともに、卒業生の体験談を語ってもらう機会を設け、就職ならびに卒業後の進路を具体的にイメージできるように工夫した。また、適宜、個別相談に応じる機会も設けた。
- ・就職情報：卒業生による「就職・進学体験記」をイントラネットの「なでしこ」に掲載した。医療機関、行政機関等からの就職案内は、学生にわかりやすいように学生部室に整理するとともに、メールを通じて学生に情報を一斉配信するなど、学生への周知を図った。
- ・聖路加国際病院への就職については、昨年に引き続き病院関係者と話し合いを行い、病院主催の就職説明会のサポートを行った。
- ・学生の進路届時に、就職先選択理由について調査し進路相談に活用する予定である。

- 4) 奨学金：聖路加看護学園貸与奨学金や日本学生支援機構奨学金など学内外の奨学金制度に関する学生への説明、募集、選考手続、貸与または給付、返還

手続等を行った。また、来年度の大学院の授業料の変更に伴い、未来の助産師基金奨学金の採用人数及び給付金額について見直しを行い、来年度からの規程の変更を決定した。

- 5) ホームページ、大学案内：学生が快適で安心した学生生活を送ることができるよう、学業以外の支援（クラブサークル活動、学園祭、福利厚生、奨学金等）に関する情報等をホームページや大学掲示板で案内するとともに、ルカレター（学生への一斉メール）にて、適宜情報発信をしている。
- 6) 福利施設の利用案内：学生食堂、鎌倉アリスの家、ふじみ野大井テニスコート、同ターゲットバードゴルフ場、スポーツクラブオアシスの利用申込受付、日本看護学校協議会共済会共済制度 WILL の手続、アパート・学生会館の案内等の学生支援を行った。特に学生食堂については、初めて全学生・教職員を対象にアンケートを行い、その結果を今後の学食運

営の参考とした。

3. 課題

- 1) 学生自治会は本来学生主体の活動であるが、学生間の伝達がうまく機能せず、学生部からの支援を必要とした。次年度に向け、先輩から後輩への記録引き継ぎがスムーズに行われるように支援していく。
- 2) 就職・進学状況の変化や学生からの要望にタイムリーに応じるために就職・進学ガイダンスの内容を随時改変することが求められている。来年度以降も、イントラネット内の「就職・進学体験記」の充実を図り、就職・進学情報を系統的に検索できるように進めていく。また、障がいのある学生の就職支援についても検討をしていく。
- 3) 奨学生の受給状況は例年とほぼ同じようであるが、引き続き奨学金の資金獲得等を検討していく。

4. 資料データ

奨学金制度

表1 主な奨学金

名 称	対 象	貸 与 月 額	
		第一種／定額型	第二種／選択型
日本学生支援機構	学部	30,000円または、 自宅外 64,000円 自 宅 54,000円	30,000円、50,000円、80,000円、 100,000円、120,000円から選択
	大学院（修士）	50,000円または 88,000円	50,000円、80,000円、100,000円、 130,000円、150,000円から選択
	大学院（博士）	80,000円または 122,000円	
東京都看護師等修学資金	学部	第一種 36,000円	第二種 25,000円
	大学院（修士）	第一種 83,000円	第二種 25,000円
聖路加看護学園貸与奨学金 *緊急採用奨学金（学納金の額を限度とする）	学部	30,000円	
	大学院（修士）	50,000円	
	大学院（博士）	100,000円（1998年度より貸与月額改定）	
小澤道子記念奨学金	学部生	60,000円（月額、当該年度のみ）	

表2 2013年度奨学生採用状況

	奨学金の種類	配布	申請	採用
1	高島君子記念看護奨学基金	4	2	2
2	朝鮮奨学会	掲示のみ	自己申請	0
3	岡村育英会	26	10	10
4	茂木本家教育基金	5	2	2
5	守谷育英会	13	1	0
6	丸和育英会 休止中	—	—	—
7	山口県人づくり財団奨学生	0	—	—
8	石川県奨学生	0	—	—
9	東京都看護師等修学資金(学部)第1種	3	1	1
	東京都看護師等修学資金(修)第1種	9	4	4
10	日本学生支援機構(1年)第1種<予約>	—	—	2
	日本学生支援機構(1年)第2種<予約>	—	—	5
	日本学生支援機構(1年)第1種	説明会	25	7
	日本学生支援機構(1年)第2種	説明会		9
	日本学生支援機構(1年)第2種【追加】	説明会		1
	日本学生支援機構(2年以上)第1種	説明会		0
	日本学生支援機構(2年以上)第1種【追加】	説明会		1
	日本学生支援機構(2年以上)第2種	説明会		5
	日本学生支援機構(修1年)第1種	15		6
	日本学生支援機構(修1年)第2種		2	2
	日本学生支援機構(修2年)第1種		0	0
	日本学生支援機構(博1年)第1種		3	3
	日本学生支援機構(博2年)第1種		1	1
	あしなが育英会	0	—	—
川崎市大学奨学生	0	—	—	
11	聖路加看護学園貸与奨学金(学部)	8	5	5
12	聖路加看護学園貸与奨学金(院)	8	3	3
13	小澤道子記念奨学金(学部)	5	4	4
	聖路加同窓会奨学金(学部、院)	9	6	1
14	青木奨学金(修)	5	3	3
15	ウバウバ奨学金	6	2	2
16	小倉一春記念国際看護奨学基金(院)	—	自己申請	4
17	有馬育英会助産師育成支援制度(修)休止中	—	—	—
18	未来の助産師基金	4	4	2
19	財団法人中島記念国際交流財団	学生部室保管	自己申請	—
20	財団法人平和中島財団	学生部室保管	自己申請	—
21	交通遺児育英会	掲示のみ	自己申請	0
22	青峰奨学財団奨学生	掲示のみ	自己申請	0

新規採用数合計 85

表3 奨学生内訳表

学生総数 505名 (学部学生 370名・大学院生 135名)

(単位：延人数)

学年	日本学生支援機構			東京都看護師 等修学資金	聖路加看護学 園貸与奨学金	その他奨学金	計
	一種	二種	小計				
4	9※1	15	24	1	1	5	31
学編4	4	3	7	2	3	6	18
3	10※1	13	23	3	0	3	29
学編3	2	1	3	0	1	1	5
2	5※1	13※1	18	0	3	6	27
学編2	0	3※1	3	0	2	0	5
1	9	15	24	1	—	3	28
小計	39	63	102	7	10	24	143
	10%	17%	28%	2%	3%	6%	39%
博3	0	0	0	—	1	1	2
博2	5	0	5	—	3	1	9
博1	3	0	3	—	1	2	6
修3	0	1	1	0	0	0	1
修2	5	3※2	8	2	5	14※3	29
修1	7	2	9	3	1	4	17
小計	20	6	26	5	11	22	64
	15%	4%	19%	4%	8%	16%	47%
総計	59	69	128	12	21	46	207
	12%	14%	25%	2%	4%	9%	41%

※1 緊急, 応急採用

※2 期中辞退1名

※3 期中辞退2名

表4 奨学生受給状況

奨学金の 種類 年度	日本学生 支援機構	東京都看護師 等修学資金	聖路加看護学 園貸与奨学金	その他 奨学金	受給総数 全学生数	受給率 (%)
2005(H17)	※1 101	※2 7	34	25	167/455	37
2006(H18)	※3 112	※4 10	41	26	189/476	40
2007(H19)	※5 111	13	40	29	193/480	40
2008(H20)	※2 115	19	44	33	211/477	44
2009(H21)	※1 138	20	※2 43	36	237/497	48
2010(H22)	134	19	※2 33	46	232/510	46
2011(H23)	※6 141	17	19	49	226/510	44
2012(H24)	139	21	13	45	218/510	43
2013(H25)	※1 128	12	21	※1 46	207/505	41

※1 期中辞退2名

※2 期中辞退1名

※3 予約採用5名、追加採用4名、緊急貸与1名、期中辞退者3名

※4 2口貸与1名

※5 期中辞退5名

※6 期中辞退1名、緊急貸与1名

(1)チャペルアワー委員会

1. 役割・職務

- 1) チャペルアワーの企画・運営
- 2) 「クリスマスの集い」礼拝の準備・担当
- 3) 聖路加国際病院礼拝堂のクリスマス・イブ礼拝でのプロセッション参加学生との連絡調整並びに準備
- 4) クリスマスツリーの飾り付け

2. 活動内容

- 1) 毎週水曜日（12時30分～13時）に聖路加国際病院礼拝堂で実施されるチャペルアワー（礼拝、及び聖路加国際病院関係者や教員から話を聞く月1回の「お話し会」等）を、学生委員が中心となり企画・運営した。今年度は延336名が参加した。
- 2) チャプレンを中心に、チャペルアワーの運営手順等を整備した。
- 3) 「クリスマスの集い」礼拝で、学生委員が司会や開会の祈り、聖書朗読を担当した。
- 4) プロセッションの参加者を募り、事前練習・当日準備の調整を行った。今年度のクリスマス・イブ礼拝のプロセッションには、表1の通り23名の学生が

4. 資料

表1 クリスマス・イブ礼拝プロセッション参加人数

	1年生	2年生	3年生	4年生	合計
第1回目	1名	7名	0名	2名	10名
第2回目	0名	6名	0名	7名	13名

(2)奨学生選考委員会

1. 役割・職務

聖路加看護大学奨学生選考委員会規程より選考委員会は下記について審議する。

- 1) 学校法人聖路加看護学園貸与奨学金の奨学生の選考および貸与奨学金の運用
- 2) 独立行政法人日本学生支援機構の奨学生の選考
- 3) 独立行政法人日本学生支援機構大学院第一種学資金返還免除候補者の選考
- 4) その他の奨学生の選考
(奨学生選考委員会規程第3条)

参加した。

- 5) 大学及びチャペルのクリスマスツリーの飾り付けを、学生委員が中心となり有志を募って行った。

3. 課題

この数年、チャペルアワーの参加者が少ない状態が続いており、チャペルアワーの存在を学生・教職員に認識してもらう試みを続けている。今年度はその試みの一環として、お話し会のスピーカーの希望を募り、チャペルアワーの企画に多くの学生が参加できるようにした。また、チャペルアワーをどのように開催すれば人が集まるのか、学生にアンケート調査をした。

結果的に、今年度はお話し会への参加者数は増えたが、聖書や賛美歌に親しむ本来のチャペルアワーの参加者数増加にはつながらなかった。アンケート調査からは、お昼休みというチャペルアワーの時間帯が参加を阻害する要因となっているわけではないことが伺えたが、それ以上のことは分からなかった。チャペルアワーへの参加者数を増やすことを目的とするだけでなく、キリスト教の大学として、チャペルアワーの意義を教職員・学生が考えることを促す取組みが必要であり、次年度はその取組みを具体的に検討していくことが課題であると考えている。

2. 活動内容

- ・ 計7回の委員会を開催し、提出された各奨学生申請書について選考した（資料参照）。地方自治体奨学金の内、学内の推薦が必要な制度についても選考委員会にて協議した。また、これ以外に、聖路加看護学園貸与奨学金緊急採用について臨時会議を1回開催した。
- ・ 未来の助産師基金、ウパウパ奨学金について、来年度からの規程の変更を決定した。

3. 課題

病院との法人一体化に向け、既存の学内奨学金の規程の見直しや、さらなる資金確保の必要があると思われる。

4. 資料

表

	開催日	選考奨学金名	申請人数	推薦決定人数
1	4/23	茂木本家教育基金	3	2
		高島君子記念看護奨学基金	2	2
		岡村育英会	18	10
		守谷育英会	3	1
2	5/14	東京都看護師等修学資金	5	5
		日本学生支援機構学部定期採用	27	20
3	6/4	日本学生支援機構大学院定期採用	12	12
4	7/2	小澤道子記念奨学金	4	4
		聖路加同窓会奨学金	6	1
		聖路加看護学園貸与奨学金	8	8
5	7/16	青木奨学金	3	3
		ウパウバ奨学金	2	2
6	11/5	未来の助産師基金	4	2
		聖路加看護学園貸与奨学金緊急採用	1	0
7	3/18	日本学生支援機構 特に優れた業績による返還免除候補者	2	2

(3)健康管理室

1. 役割・職務

学生・教職員がより健康で充実した大学生を送れるよう健康管理、感染管理、応急対応・健康相談、健康増進のための支援をする。今年度の重点目標は、学生健康管理データの電子化と効率的な運用、B型肝炎の免疫獲得の必須化の継続とした。

2. 主な活動内容（表1参照）

1) 健康管理

- ① 新入生へ健康管理オリエンテーション、健康手帳の発行、保健面接
- ② 学生定期健康診断の準備・実施と有所見者のフォローアップ
- ③ 教職員定期健康診断の手配、私学共済補助金申請・労働基準監督署への結果報告
- ④ 実習オリエンテーション（感染予防と心身の健康管理）
- ⑤ 健康状態調査の実施と調査結果に伴う対応（メール、面談、医療機関紹介）
- ⑥ 体調不良の学生への支援（面談、受診手配）

⑦ 学生基礎情報・健康診断結果・診断書・免疫状況等の電子化と運用

⑧ 次年度健康診断準備

2) 感染管理

- ① 入学時、麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎の罹患・予防接種歴調査票回収と把握
- ② 入学時4種抗体検査結果の個別通知、免疫未獲得学生の実習前ワクチン接種の確認
- ③ 新入生及び前年度陰性の学生へのツベルクリン反応検査（2段階法）実施
- ④ 定期健康診断B型肝炎抗体検査結果の一斉個別返却、免疫未獲得学生・保護者へ安全と健康のための年度内ワクチン接種を通知、接種機関の紹介、接種確認
- ⑤ 実習で結核に曝露した学生への対応
- ⑥ インフルエンザ等感染症罹患学生への対応と感染拡大防止のための対応
- ⑦ インフルエンザ予防接種の実施
- ⑧ 海外渡航における予防接種の情報提供
- ⑨ 認定看護師教育課程の健康診断結果と免疫獲得状況把握と管理

3) 応急対応・健康相談

-
- ① 学生及び教職員のケガ・体調不良などの身体的健康問題に関する応急対応
 - ② 学生の実習などのストレスによる精神的問題に関する対応
 - ③ 校医・近医の紹介と連携
 - ④ 学内カウンセリングへの紹介、カウンセラーとの連携
 - ⑤ 入学試験・学内行事の救護待機
 - ⑥ 防災対策（救護用備蓄品整備、救護訓練実施）
- 4) 健康増進のための支援
- ① 感染症（インフルエンザ・感染性胃腸炎等）に関する情報提供
 - ② 学生保健委員会の開催（クラスへの保健情報伝達）

- 5) 就職活動・インターンシップ参加等の支援
 - ① 健康診断書、抗体検査結果・ワクチン接種履歴確認書の発行
 - ② 就職・インターンシップ先提出書類（保健関係）に関する相談への対応

3. 課題

- ① 電子化データの安全・効率的な運用
- ② 健康管理に関する個人情報の扱い方の検討
- ③ 大学行事としての定期健診時間の確保
- ④ 精神面で問題を抱える学生の対応強化
- ⑤ 2013年度新設の衛生委員会の有効な運用

4. 資料・データ

表1 2013年度 健康管理 活動内容

活動内容	分類	年間主要業務																									
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月														
(1) 健康管理	① 新入生健康管理オリエンテーション・健康手帳・健康状態調査票配布		↑																								
	① 新入生の保健面接		↑																								
	② 定期健康診断 (於: 予防医療センター 血液検査・胸部X線) の実施			↑																							
	② 尿検査・血圧・体重・身長測定 (於: 健康管理室)			↑																							
	② 校医による内科健診				↑																						
	② 定期健康診断・内科健診結果の有所見者フォロー																										
	③ 35歳未満教職員健康診断 (於: 予防医療センター 学生定期健診内)																										
	③ 35歳以上教職員健康診断 (於: 予防医療センター 半日人間ドック) 対応																										
	④ 実習オリエンテーション																										
	⑤ 健康状態調査の実施と調査結果に伴う対応																										
(2) 感染管理	⑥ 体調不良の学生への支援																										
	⑦ 全学生健康管理データの電子化と運用																										
	⑧ 次年度健康診断準備																										
	⑧ 健康手帳の改訂・発行準備、雇用時健診対応																										
	① 入学時抗体検査結果個別通知、水痘の罹患・予防接種履歴回収と把握																										
	② 入学時抗体検査結果個別通知、免疫未獲得学生のワクチン接種確認																										
	③ HAV抗体検査 (2段階法)																										
	④ B型肝炎抗体検査結果の一斉個別通知																										
	④ B型肝炎抗体検査結果の提供、接種確認																										
	④ B型肝炎ワクチン接種 (於: 高尾クリニック) 予約調整・予診対応																										
(3) 健康相談・成急対応	⑤ 結核に暴露した学生への対応																										
	⑥ 感染症 (インフルエンザ他) 罹患者への対応																										
	⑦ インフルエンザ予防接種 (於: 高尾クリニック) 予約調整・予診対応																										
	⑧ 海外渡航における予防接種、HPVワクチンの情報提供と相談																										
	⑨ 認定看護師の健康診断結果と免疫獲得状況の把握と管理																										
	①② ケガ・体調不良・精神的健康問題に関する成急対応																										
	③ 校医・近医の受診紹介と連携																										
	④ 学内カウンセリングへの紹介、予約																										
	⑤ 入学試験・学内行事の救護、待機																										
	⑥ 防災対策 (救護用備蓄品、救護訓練)																										
(4) 健康増進の為の支援	① インフルエンザ・感染性胃腸炎などの感染症に関する情報提供																										
	② 学生保健委員会の開催																										
(5) 就職活動の支援	① 健康診断書、抗体検査結果・ワクチン接種履歴確認書の発行																										
	② 就職先提出書類 (保健関係) に関する相談への対応																										

表2 健康管理室 対応一覧

(人)

月	体調不良・けが等身体的理由	相談			報告	健診・予防接種関連	カウンセリング予約・変更等	その他	教職員	認定	卒業生等	Bワク予約	Bワク問診	インフル予約	インフル問診	合計
		身体的	心理的	その他												
4	30	17	7	10	9	40	4	9	7	0	1	2	2	0	0	138
5	54	3	3	2	7	34	3	22	7	2	0	7	7	0	0	151
6	45	10	7	10	12	9	1	10	3	1	2	51	51	0	0	212
7	50	10	10	5	12	1	2	14	3	0	0	52	52	0	0	211
8	2	1	2	4	5	0	0	5	3	1	0	0	0	0	0	23
9	18	5	5	4	6	0	1	13	10	4	0	3	3	0	0	72
10	22	10	2	6	7	3	0	17	6	0	0	3	3	202	202	483
11	29	8	7	4	6	4	0	18	8	0	2	0	0	29	29	144
12	21	2	3	7	4	0	0	20	3	0	0	17	17	0	0	94
1	14	2	1	9	10	2	0	9	5	0	0	15	15	0	0	82
2	3	2	4	7	8	1	0	13	8	0	0	7	7	0	0	60
3	5	1	1	11	4	1	0	17	3	0	0	7	7	0	0	57
合計	293	71	52	79	90	95	11	167	66	8	5	164	164	231	231	1,727

表3 麻疹・風疹・流行性耳下腺炎・水痘 ワクチン接種対象者

(2013年4月入学時健診結果)

(人)

学年	在籍	麻疹		風疹		流行性耳下腺炎		水痘	
		抗体(-)	ワクチン接種	抗体(-)	ワクチン接種	抗体(-)	ワクチン接種	抗体(-)	ワクチン接種
1年	80	32	5	9	4	24	23	8	8
学士2年	19	13	9	1	1	4	4	1	1
合計	99	45	14	10	5	28	27	9	9

※抗体(-)でワクチン接種歴2回未満の者を接種対象とした

表4 B型肝炎ワクチン接種対象者

(2013年4~5月定期健診結果)

(人)

学年	在籍	HB抗体(-)	ワクチン接種開始
1年	80	72	72
学士17回生	19	17	17
2年	76	4	3
3年	72	13	5
学士16回生	20	2	2
4年	85	17	5
学士15回生	21	6	1
合計	373	131	105

表5 ツベルクリン反応検査結果 (2013年5~6月 検査実施)

(人)

	学生数	検査対象者	1回目検査実施			2回目検査			来年度検査
			実施者	陽性	陰性	実施者	陽性	陰性	
1年生	80	80	80	60	20	20	15	5	5
学士17回生	19	19	19	13	6	6	2	4	4
修士1年生	37	37	30	24	6	6	2	4	4
博士1年生	13	12	12	9	3	1	0	1	3
昨年度陰性	17	17	16	4	12	5	2	4	11
前年度未検査	1	1	0	0	0	0	0	0	0
計	167	166	157	110	47	38	21	18	27

表6 学生定期健康診断

(人)

学年	学生数	予防医療センター受診(2013.4~5)			他院受診	休学
		受診者数	血液検査	胸部X線		
1年生	80	80	80	80	0	0
2年生	76	75	75	75	0	1
学士17回生	19	19	19	19	0	0
3年生	72	72	72	72	0	0
学士16回生	20	20	20	19	0	0
4年生	85	84	84	83	0	1
学士15回生	21	21	21	21	0	0
修士1年	37	28	28	27	2	
修士2年	40	33	33	33	4	
修士3年	7	1	1	1	1	
博士1年	13	6	6	6		
博士2年	12	6	6	6	1	
博士3年	25	3	3	3	1	
計	507	448	448	445	9	2

表7 教職員定期健康診断

(人)

年度	35歳未満	35~40歳未満	40歳~75歳未満(特定健診)*1		
			私学共済加入	受診	受診率
2012年度	8	11	61	59*2	96.7%
2013年度	7	14	62	57*3	91.9%

*1：予防医療センター半日ドック利用者

*2：他院受診者2名を含む

*3：他院受診者(結果未提出のため)含まず

表8 カウンセリング

(件)

月	利用数
4	7
5	5
6	7
7	6
8	休み
9	3
10	1
11	6
12	4
1	4
2	2
3	2
合計	47

表9 学内メール

kenkou 対応 (件)

月	学生・教職員へ 返信・送信
4	159
5	278
6	59
7	15
8	32
9	99
10	69
11	39
12	24
1	27
2	27
3	48
合計	876

表10 健康診断書等発行件数

(件)

月	健康診断書	抗体検査結 果等確認書
4	0	0
5	114	0
6	28	0
7	6	0
8	2	0
9	2	1
10	0	0
11	0	1
12	1	1
1	2	4
2	0	15
3	6	0
合計	161	22

V 大学事務局

1. 役割・職務

「聖路加看護大学事務組織及び事務分掌規程」に定められている。

2. 活動内容

- 4月に教職員証をリニューアルした。また、総務課職員2名の退職（稲田昇三・天岡幸）に伴い、9月に1名採用（佐藤英明）し、10月に派遣職員を採用（青木ひとみ）した。また、衛生委員会の定期開催等の人事機能強化をはじめ、大学基準評価受審準備など、業務改善に取り組んだ。
- 私立大学等改革総合支援事業補助金を獲得すべく、財務経理課を中心に作業を行い、タイプ1・タイプ2に選定された。
- 情報システムの全面リニューアルを行い、IT化の充実を図った。
- 昨年度に続き、広報機能の強化を図り、新しい広報媒体として「ル・ブレ」の創刊や、facebook、LINEなどのSNSを用いた広報を展開した。また法人一体化を踏まえ、12月27日付朝日新聞に大学名称変更の一面広告を行った。
- 9月1日付で教務課内にIR室を設置し、専任職員を配置（秋山敦司）した。アンケート調査や学内各種データの収集分析など、IR機能の強化を図った。
- 10月1日の人事異動により、①正職員への登用（小林邦男・田畑まどか・槇ひとみ・中山令子）、②聖路加国際病院からの出向受入（建川萌）を行った。また、2014年1月1日付で聖路加国際病院からの業務応援の形で瓜生田真理、中澤仁成の受け入れを行った。これらの人事異動は、すべて法人一体化に向けたものである。

3. 課題

- 法人一体化に向けた組織再編及び業務分掌の再検討
- 法人一体化後の2014年度事業計画及び予算編成

1 秘書室（法人事務局兼務）

1. 役割

- 1) 理事長、学長、学部長の秘書業務
- 2) 企画・調査に関すること
- 3) 学内の連絡調整に関すること

2. 活動内容

今年度の特記事項としては、2013年7月17日に逝去された本学名誉教授・元理事の高橋シュン先生を偲ぶ会の開催があげられる。詳細は下記のとおり。

名称：看護に生きた高橋シュン先生の在りし日を偲び感謝する会

日時：2013年10月6日（日）13：30～15：30

場所：聖路加国際病院聖ルカ礼拝堂およびレストランエスペランス

主催：聖路加看護大学・聖路加同窓会

出席者：約300名

プログラム：

○逝去者記念の式

礼拝

主催者挨拶 日野原重明（聖路加看護学園名誉理事長）（代読）

井部 俊子（聖路加看護大学学長）

高橋シュン先生を偲んで

柳沢 啓一（ケアホーム新生の園園長）

川嶋 みどり（東京看護教育模範学院卒業生として）

岩井 郁子（元聖路加看護大学教授）

ご遺族挨拶

○お茶の会

高橋シュン先生との思い出

松本 満郎（聖ルカ礼拝堂信徒）

蝦名 美智子（class of 1969）

終わりの挨拶

松谷 美和子（聖路加同窓会長）

準備委員会メンバー：

【聖路加看護大学より】井部・菱沼・渡部・島田・高橋・松本・進藤・畠山

【聖路加同窓会より】松谷・有森・吉川・牛山・岩間・渡部・作田・三雲

【聖路加礼拝堂より】シーバー・松本・中根

【以上敬称略】

3. 課題

聖路加国際病院との法人一体化により秘書室は計4名となった。規模の拡大にともない、学内の連絡調整がこれまで以上に必要になると思われる。混乱のないようにしたい。

2 総務課（学生課）

1. 役割・職務

(1) 申請・届出 (2) 文書受領、作成 (3) 学内刊行物編集・配付 (4) 証明書発行、学内届出書受付 (5) 学生部・学生課業務 (6) 委託業務管理 (7) 学内施設利用受付 (8) 窓口受付業務 (9) 庶務 (10) 委員会事務局

2. 活動内容

- 1) 東京都・文部科学省「学則変更承認申請-教育課程、実習施設の変更申請」（2013年10月）
- 2) 郵便物・宅配便受領・仕分け、公文受領・回覧、諸資料配付、返信作成、諸官公庁申請書・調査票回答・送付
- 3) 速報編集・発信（No. 1857～No. 1899、43号）、年報2012年度編集（自己評価委員会）
- 4) 学生証・職員証の発行・回収、ルカード発行管理、Will・e-kango（看護学生・看護専門職者のための傷害・賠償責任保険・共済）加入手続・事故処理受付・

4. データ

WILL 手続の記録

	発生件数	補償済件数	事例
WILL 傷害事故	6	3	学内での傷害事故

仲介、在職（勤務）証明書作成、重点目標・達成度評価の実施、ミセスセントジョン記念教育基金受付・採用手続・報告書受領管理

- 5) 奨学金業務（設計、説明会開催・募集・応募受付・選考・送金・返金管理・返金催促・返金免除者選考、…）、学生部対応事務、学生リスト作成、学生食堂運営管理、学生ロッカー・ロッカーキー管理、拾得物管理、学生アパート紹介
- 6) 警備員・清掃員管理（施錠・開錠時刻管理、派遣会社員管理）
- 7) 講堂・教室・会議室利用申込受付・警備員配置・外部利用者に対する会場事前案内、アリスの家施設管理・利用受付、東急スポーツ・オアシス利用手続、ふじみ野グラウンド整備・管理、ふじみ野市とテニス・コートおよびクラブハウス（トイレ）利用契約、ターゲットバードゴルフ場管理
- 8) 学割証発行、コピーカード販売、駐車許可証、自転車駐輪許可証
- 9) 教職員出・欠勤管理、式典祝品準備、慶弔、贈答品手配
- 10) 自己評価委員会、学生部ミーティング、奨学生選考委員会、人権委員会、2号館ミーティング、創立100周年事業検討委員会

3. 課題

- 1) 職員の入退職、人事異動により課員の構成が大きく変更となった。あらゆる業務を定式化して容易に対応できるようにすることが課題である。
- 2) 聖路加国際メディカルセンターとの一体化に伴い、総務課と学生課の組織を切り分けることになった。病院の総務課業務を含めて業務プロセスを見直すことが必要である。

ミセスセントジョン記念教育基金受付・実施記録

申請者	所属	期間	目的地	費用 (円)
大久保 暢子	基礎	2012/8/26～8/28	台湾	289,844
大久保 暢子	基礎	2012/10/22～10/28	米国フェニックス	156,200
松本 直子	図書館	2013/2/27～3/4	米国サンディエゴ	258,211
及川 郁子	小児	2013/7/31～8/4	招聘	451,670
佐藤 直子	研究センター	2013/9/28～10/6	フランスパリ、ナンシー	231,356
有森 直子	研究センター	2013/10/6～10/11	米国ベセスタ	279,887
五十嵐 ゆかり	母性・助産	2014/3/4～3/9	米国フォートワース	319,191
片岡 弥恵子	母性・助産	2014/3/19～3/27	招聘	310,935
合 計				2,297,294

奨学金の貸与・給付の状況

学生部IV-2を参照

講堂・教室等施設外部貸与記録

	件	金額 (千円)
講 堂	39	3,387
教室他	69	2,892
合計	108	6,279

鎌倉アリスの家利用実績

宿泊者数 (人)			日帰り利用 者数(人)	利用者数 合計(人)	利用金額 (千円)
学生	一般	3歳～12歳			
258	164	12	46	480	1,095

東急スポーツ・OASIS 利用実績

学生・教職員の別

学生	教職員	計 (人)
378	46	424

利用店舗別

聖路加ガーデン店	その他	計 (人)
348	76	424

3 財務経理課

1. 役割・職務

財務経理課では現在次のような業務を行っている。

- 1) 予算関係業務 (教育予算・大学全体予算・補助事業予算)

- 2) 決算関係業務

- 3) 補助金関係業務 (文部科学省、日本私立学校振興・共済事業団)

- 4) 給与事務 (月次給与・賞与・年末調整等)

- 5) 社会保険事務 (私学共済、労災・雇用保険、私立大学退職金財団)

- 6) 福利厚生 (積立貯金・グループ保険・財形貯蓄)

- 7) 学納金徴収事務
- 8) 現金出納業務
- 9) 固定資産管理
- 10) その他の補助金関連業務
- 11) 教育費の執行および管理
- 12) 教員研究費の配付・管理
- 13) 現物寄付受入・管理
- 14) 公認会計士・税理士監査立会い
- 15) 公衆電話・FAX・コピーカード管理
- 16) 理事会・評議員会資料作成
- 17) 契約業務
- 18) 損害保険に関すること
- 19) 資産運用に関すること
- 20) 借入金の管理

2. 活動内容

2013年度も教育予算の申請時から予算作成に関わり、大学全体予算も含め、その執行や管理まで一連の流れを滞りなく果たすことができた。

補助金関係業務については、今年度も経常費補助金の配分基準が大幅に変更され、補助率が全体的に減少され、「私立大学等改革総合支援事業」の当期状況によって配分額が調整されることとなった。本学では、「私立大学等改革総合支援事業」について申請できるものは可能な限り申請し、結果的に予算を大きく上回る補助金を獲得できた。

また、文部科学省看護系大学教員養成機能強化事業「フューチャー・ナースファカルティ育成プログラム」(補助金額18,000千円)が採択され、プログラムの運営、会計、公文書・契約書・提出書類の作成等の事業全般を行った。

3. 課題と取組

- 1) 財務経理課の役割・職務内容は広範囲に及んでおり、しかも専門性が高い。そんな中で2013年度は課員全員が専門的知識を習得するために研修会や勉強会に積極的に参加した。
- 2) 2014年度から大学と病院との法人一体化が実現し、業務内容やスタッフ構成が変更となる。2015年度からの学校法人会計基準の改正に合わせて、新会計システム導入や業務の見直しが喫緊の課題である。

4 管財課

1. 役割・職務

- 1) 施設設備運用管理業務
- 2) 発注検収業務
- 3) 整備・修繕業務
- 4) 学内行事等の設営業務

2. 活動内容

1) 施設設備運用管理業務

受変電設備管理：電気室内キュービクル点検、法定点検(毎月1回、総合点検1回：3月)

空調設備管理：冷暖房配管切替作業(年2回)、中央監視盤スケジュール設定(随時)

消防設備管理：消防設備法定点検(年2回)

電話設備管理：交換機保守点検(毎月)、電話番号管理、他

水槽設備管理：汚水槽清掃点検(年3回、2号館は年2回)、上水槽清掃点検(年2回)、中水槽清掃点検(本館のみ年1回)、飲料水水質検査、他

昇降機設備管理：エレベータ保守点検(毎月：本館1基、2号館2基)、図書館ダムウォーター保守点検(2ヵ月毎)

講堂運用管理：設備保守点検(年2回)、設営業務、空調設定、他

照明設備管理：学内共有スペースの蛍光灯管理

放送設備管理：下校時放送スケジュール設定、非常放送設備点検(消防設備保守点検)

電子ゲート管理：電子ゲート・スケジュール設定、ログチェックおよび点検作業(週1)、入退出システム機器保守点検(年1回)

館内清掃管理：日常清掃管理、ガラス清掃管理、ワックス掛け清掃管理、粗大ごみ処理

校舎建物管理：光熱水関係使用量管理(月末メーター点検)、害虫生息調査(毎月)、空気環境測定(2ヵ月毎)

印刷機器管理：コピー機運用管理(消耗品在庫管理、コピーカード入力作業含む)、リソ

運用管理(消耗品在庫管理含む)、
 丁合機運用管理、
 什器類管理 : 教室内机・椅子管理(棚卸作業含む)、
 研究室等の棚管理
 鍵管理 : 教室・研究室等のドアキー貸出業
 務、本館研究室キャビネット鍵貸
 出
 業務、大学鍵台帳更新業務
 情報機器管理 : 学生プリンタ管理(トナー発注含
 む)、コンピュータ管理(修理対応)、
 サーバ機器管理(SE および委託業
 者との調整業務)、ネットワーク機
 器管理(保守業者との調整業務)、
 保守点検調整作業
 ソフトウェア管理 : ライセンス管理及び継続契約
 手続き等(学術教育用ソフトウェ
 ア、サーバ系ライセンス、ウィル
 ス系ソフトウェア)
 アカウント管理 : ユーザ登録抹消作業(学生利用者、
 教職員利用者など)
 携帯電話管理 : 実習用携帯電話の貸出業務、契約
 更新作業
 大判印刷機管理 : 大判印刷機の貸出、消耗品在庫
 管理、入金処理

2) 発注検収業務

大学教育予算関係(実習物品全般、各科目予算に
 による消耗品・機器備品、教員個人研究費による機器
 備品など)、日用品関係消耗品全般(清掃用具類、衛
 生用品、蛍光管、コピー用紙など)、文部科学省科学
 研究費(消耗備品、機器備品、印刷物)、その他競争
 的資金(がんプロ、厚生労働科学研究費など)、その

他事務管理物品全般

3) 整備・修繕業務(建物設備関係全般)

4) 学内行事等の設営業務

入学式、卒業式、入学試験、アリスホールイベン
 ト全般、その他学内諸行事全般

5) その他の活動

①LED照明の導入

本館および2号館の教室を中心に蛍光灯照明
 (約1,000本)をLED照明に交換した。次年度も
 引き続きLED化への取り組みを計画している。

②天井吊り下げモニタの交換

地震による落下防止対策として402教室の天井
 吊り下げモニタの補強工事を実施した。

③遮熱飛散防止フィルムの導入

節電と地震発生時のガラス飛散防止対策として
 昨年度より取り組んできたが、今年度で全ての教
 室に対して貼付が完了した。

3. 課題

次年度からの病院との一体化に伴い、従来、管財課が
 担当してきた業務は施設課、物品管理課、総務(庶務)、
 人事、情報システムセンターなど多くの部署に引き継が
 れることとなった。

キャンパスのエコ化の取り組みが3年目となる今年度
 はLED照明と遮熱フィルムを導入したことで、大きな節
 電効果が得られたと思われる。引き続き計画していた太
 陽光発電・LED照明・節水器具の導入については、施設
 課を中心に取り組む予定である。

4. 資料

■固定電話利用実績

単位：円

	2011年度	2012年度	2013年度	前年度比	備考
本館	2,001,985	1,949,171	1,977,506	101.5%	
2号館	747,178	692,634	693,818	100.2%	
鎌倉	68,117	67,400	68,080	101.0%	
その他	96,007	52,735	0	0.0%	ADSL回線費等
合計	2,913,287	2,761,940	2,739,404	94.8%	

※2009年5月24日より一部回線契約変更

■光熱水関係年間使用量実績 (※毎月末のメーター検針による使用量合計)

電気使用量

単位：kWh

	2011年度	2012年度	2013年度	前年度比	備考
本館	528,618	526,044	512,706	97.5%	
2号館	219,594	207,456	205,115	98.9%	
合計	748,212	733,500	717,821	97.9%	

水道使用量

単位：m³

	2011年度	2012年度	2013年度	前年度比	備考
本館	3,891	3,902	4,007	102.7%	
2号館	1,021	974	950	97.5%	
合計	4,912	4,876	4,957	101.7%	

ガス使用量 ※本館のみ

単位：m³

	2011年度	2012年度	2013年度	前年度比	備考
都市ガス	336.2	337.2	309.3	91.7%	

地域冷暖房(DHC)使用量 ※本館のみ

単位：GJ

	2011年度	2012年度	2013年度	前年度比	備考(運転期間)
冷水	568.6	638.2	701.5	109.9%	5月初旬～10月下旬
蒸気	731.8	708.8	743.1	104.8%	11月初旬～4月下旬

■大判印刷機利用実績

単位：件

	2011年度	2012年度	2013年度	前年度比
貸出数件数	54	59	80	135.6%
(有料件数)	39	40	64	160.0%
使用料(円)	25,050	25,250	27,000	106.9%

■携帯電話関係実績

携帯電話使用料金実績(年間)

単位：円

	2011年度	2012年度	2013年度	前年度比
年間合計使用料金	142,462	103,524	98,983	95.6%

■コピー機利用実績

設置場所別・利用料金実績

単位：円

設置場所(機種)		2011年度	2012年度	2013年度	前年度比
本館	1F 事務室	833,178	788,218	1,085,801	137.8%
	1F 秘書室	340,734	267,420	551,020	206.1%
	2F 図書館(783434)	159,191	132,100	100,750	76.3%
	2F 図書館(883080)	146,364	138,858	90,522	65.2%
	2F 図書館事務室	143,299	123,918	142,733	115.2%
	3F 図書館	261,595	118,688	21,589	18.2%
	3F 廊下	109,661	52,713	0	0.0%
	4F 廊下	298,547	124,467	103,903	83.5%
	5F 廊下	277,063	177,515	113,726	64.1%
	6F 廊下	198,152	164,001	164,185	100.1%
2号館	1F 受付	224,038	131,562	103,908	79.0%
	4F 廊下	164,263	114,440	88,841	77.6%
	5F 研究支援室	431,744	453,251	763,365	168.4%
	5F 廊下	223,754	162,296	213,670	131.7%
	7F 博士ラウンジ	121,860	82,957	28,298	34.1%
	8F 廊下	201,832	149,669	35,386	23.6%
合計		4,135,275	3,182,073	3,607,697	113.4%

※2012年7月,11月に現行機種の契約内容変更

設置場所別・印刷枚数実績

単位：枚

設置場所(機種)		2011年度	2012年度	2013年度	前年度比
本館	1F 事務室	258,338	328,421	392,322	119.5%
	1F 秘書室	117,990	127,729	242,653	190.0%
	2F 図書館(783434)	74,317	65,414	52,160	79.7%
	2F 図書館(883080)	67,838	69,738	47,073	67.5%
	2F 図書館事務室	63,729	68,948	65,727	95.3%
	3F 図書館	44,041	41,078	30,550	74.4%
	3F 廊下	19,377	9,314	0	0.0%
	4F 廊下	56,559	48,408	49,133	101.5%
	5F 廊下	108,487	110,368	114,039	103.3%
	6F 廊下	85,631	73,966	76,034	102.8%
2号館	1F 受付	40,296	24,943	25,454	102.0%
	4F 廊下	75,475	57,036	36,135	63.4%
	5F 研究支援室	115,238	177,153	189,546	107.0%
	5F 廊下	97,362	81,084	86,206	106.3%
	7F 博士ラウンジ	54,006	39,341	14,945	38.0%
	8F 廊下	94,602	73,740	21,955	29.8%
合計		1,373,286	1,396,681	1,443,932	103.4%

※2009年9月より秘書室専用を教務部・非常勤講師室・秘書室等の共用スペースに変更

■消耗品関係発注実績（管財課管理に限定）

コピー用紙発注実績

単位：枚

		2011年度	2012年度	2013年度	前年度比
本館	A4用紙	1,595,000	1,325,000	1,960,000	147.9%
	A3用紙	144,250	66,250	148,750	224.5%
	B5用紙	37,500	27,500	27,500	100.0%
	B4用紙	52,500	15,000	52,500	350.0%
2号館	A4用紙	760,000	650,000	715,000	110.0%
	A3用紙	28,500	16,250	33,750	207.7%
	B5用紙	7,500	0	2,500	-
	B4用紙	10,000	10,000	5,000	50.0%
年間発注金額（円）		¥1,494,883	¥1,413,097	¥1,632,630	115.5%

その他日用品発注実績

		2011年度	2012年度	2013年度	前年度比	備考
蛍光灯		134,840	106,845	82,670	77.4%	標準蛍光灯FLR40の発注個数のみ記載
		(450)	(475)	(350)	73.7%	
ペーパータオル		248,856	228,118	269,594	118.2%	()内は発注個数(束)
		(3,000)	(2,750)	(3,250)	118.2%	
トイレットペーパー		434,280	355,320	434,280	122.2%	()内は発注個数 (ロール)
		(6,600)	(5,400)	(6,600)	122.2%	
RISO	インク	296,100	245,700	277,200	112.8%	()内は発注個数
		(94)	(78)	(88)	112.8%	
	マスタ	418,950	352,800	367,500	104.2%	"
		(60)	(48)	(50)	104.2%	

上段：金額（円） 下段（ ）内：発注個数

■文部科学省科学研究費関係発注・検収実績

費目別・発注検収実績件数

単位：件

費目	2011年度	2012年度	2013年度	備考
消耗備品	412	413	430	10万円未満備品
機器備品(※)	15	7	12	10万円以上備品
印刷物(※)	1	5	0	10万円以上
合計	428	425	442	

※10万円以上の備品購入および印刷発注時は管財課による3社以上の入札制となる。

■施設設備修繕件数

	2011年度	2012年度	2013年度
10万円以上	14	19	23
10万円未満	40	29	48
合計件数	54	48	71
合計金額（円）	6,529,527	9,843,662	32,346,539

5 研究センター事務課

1. 役割・職務

- 1) 文部科学省科学研究費助成事業事務
- 2) 厚生労働省科学研究費補助金事務
- 3) 環境省委託事業事務
- 4) 中央区委託事業事務
- 5) がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン事務
- 6) アジア・アフリカ学術基盤形成事業事務
- 7) 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業事務
- 8) 研究センター事業運営サポート・会計事務
- 9) 聖路加・テルモ共同研究事業運営サポート・会計事務
- 10) 認定看護師教育課程事務
- 11) 認定看護師管理者講習事務

2. 活動内容

1)～7)教員からの各相談対応、支払業務、文部科学省・厚生労働省他提出書類のとりまとめ

8)・9)事業申請処理、催し物案内・三つ折パンフレット等広報物作成、センターHP(ココログブログ)管理・運営、報告書作成、教室予約調整、会場設営・片付け等運営サポート、支払・入金・予算管理等会計業務、運用ルール[センター利用のしおり]の管理・更新

10)教員会・入試委員会手配・調整・資料作成、募集要項・研修生便覧・シラバス作成、入試広報業務、学納金管理、入学準備(オリエンテーション、研修生証作成他)、学籍・成績管理、講師依頼・公文書作成、時間割作成、フォローアップ研修、入学式・修了式等行事関係、講義運営サポート、資料印刷、教科書販売手配、科目評価集計、教具管理、支払・入金・予算管理等会計業務、助成金申請・処理・報告書作成(日本財団他)、日本看護協会申請・更新・審査業務、HP(ココログブログ)管理・運営、実習関係業務、窓口業務(各種証明書、レポート)

11)運営委員会手配・調整・資料作成、募集要項作成、募集広報、募集審査、学納金管理、学籍管理、講師依頼、公文書作成、時間割作成、教室予約・調整、開講式・修了式等行事関係、講義運営サポート、資料印刷、教科書販売手配、科目評価集計、教具管理、支払・入金・予算管理等会計業務、日本看護協会申請・更新・審査業務、HP(ココログブログ)管理・運営

3. 課題

- 1) 文部科研・厚労科研等の競争的資金管理体制の強化
- 2) 研究センター事務課業務の教育センター、研究センターへの切り分け後の運営管理
- 3) 2号館共用スペース・物品の管理

6 危機管理室

1. 役割・職務

大学に発生するおそれのある、または発生した危機に対し、迅速かつ的確に対処し、構成員と近隣住民の安全確保を図り、本学の社会的責任を果たす。

2. 活動内容

- 1) 危機管理委員会の運営・準備
- 2) 災害時の防災マニュアルの検討、改訂
- 3) 消防計画、防災訓練の企画立案、実行
- 4) 安否確認システムの管理・登録推進
- 5) 災害対策各班との連絡調整

3. 課題

- 1) BCPの策定
- 2) 災害以外のリスク(海外渡航研修など)の検討
- 3) 聖公会関係学校との連携
- 4) 中央区帰宅困難者支援施設運営協議会との協働

7 広報室

1. 役割・職務

聖路加看護大学事務組織及び事務分掌規程第14条に基づく。

- 1) 学内外における広報活動の企画立案及び実施に関すること
- 2) 広報に関する課題の調査と分析に関すること。
- 3) 入試広報誌紙の編集、発行、配布に関すること。
- 4) オープンキャンパスの企画立案および実施に関すること。
- 5) 進学相談会、受験生等の学校見学に関すること
- 6) ホームページの管理運営に関すること。
- 7) その他広報活動に関すること。

2. 活動内容

1) 学内外における広報活動の企画立案及び実施に関すること

①企業とのコラボレーション

- ・株式会社資生堂：広報誌「Lu-Bre」で紙面コラボを実施
- ・株式会社JTB：JTB社で取り扱う修学旅行の見学先に参画
- ・サントリーパブリシティサービス株式会社：オープンキャンパス GreenDAKARA 提供
- ・日本航空株式会社：「カナダ・マギル大学：看護師のための2週間集中医療英語研修」航空券ディスプレイ
- ・株式会社カンドゥージャパン：カンドゥー幕張新都心「新生児ベニュー」プログラム参画
- ・吉本興業株式会社：よしもと興業主催「SUMMER SMILE SCHOOL!」参画
- ・銀座クレストンホテル：聖歌隊 in クリスマスキャロル参画

②計画・立案

- ・2014年度広報室事業計画作成

2) 広報に関する課題の調査と分析に関すること。

- ・2013年度の入試結果分析
- ・他大学オープンキャンパス調査
- ・ホームページアクセス解析
- ・SNS アクセス解析

3) 入試広報誌紙の編集、発行、配布に関すること。

- ・受験生向けマガジン「Lu-Bre」創刊

4) オープンキャンパスの企画立案および実施に関すること。

- ・オープンキャンパス（6/29・8/3・8/4）の企画・立案・実施（広報委員会と協働）

5) 進学相談会、受験生等の学校見学に関すること

- ・外部入試相談会参加（詳細は別表参照）
- ・土曜日の学校見学対応開始（11/16・12/7・12/21・12/24・12/26・1/11・1/13・1/18・2/15・3/8）

6) ホームページの管理運営に関すること。

- ・大学公式ホームページの管理・運営
- ・Facebook：2014. 4. 1 現在「いいね！」574件（363件増・Facebook 大学別ファン数ランキング100位）
- ・Twitter：2014. 4. 1 現在「フォロー」321件（134件増）
- ・LINE 公式アカウント運用開始

7) その他広報活動に関すること。

- ・法人一体化・広報WGで下記を実施

- ①広報関連業務の見直し・業務分掌デザイン
- ②新ロゴマーク案作成
- ③商標登録新法人移行手続及び新ロゴマーク新規登録手続
- ④新法人HP制作（2014. 4. 1 公開）
- ⑤名刺デザインリニューアル（新ロゴマーク使用）
- ⑥校名変更プレスリリース作成・文部科学省記者会へリリース
- ⑦寄付行為変更プレスリリース作成・法人HP公開（2014. 4. 1）
- ⑧朝日新聞校名変更広告（2013. 12. 26東京版朝刊）
- ⑨病院・大学広報誌の整理（「学園ニュース」タイトルを「聖路加ニュース」に変更）
- ⑩校名変更時のマスコミ対応プラン作成・実施（想定問答・フローチャート他）
- ⑪封筒デザイン作成

2013年度外部入試相談会参加実績

日程	主催	場所	担当者	相談人数
4/12 (金)	さんぼう	郡山	松崎	3名
4/20 (金)	さんぼう	原宿	福田	13名
6/17 (月)	さんぼう	仙台	福田	0名
6/23 (日)	さんぼう	大宮	松崎	21名
7/11 (木)	新宿セミナー	大宮	福田	4名
7/12 (金)	新宿セミナー	立川	松崎	14名
7/13 (土)	新宿セミナー	新宿	池口・福田	39名
7/13 (土)	東京アカデミー	新宿	加藤木・松崎	15名
7/16 (火)	新宿セミナー	千葉	松崎	11名
7/19 (金)	新宿セミナー	横浜	片岡・松崎	25名
7/22 (月)	新宿セミナー	柏	福田	15名
11/30 (土)	新宿セミナー	国立	福田	5名
12/13 (金)	新宿セミナー	柏	福田	6名
12/13 (金)	新宿セミナー	横浜	松崎	9名
12/14 (土)	新宿セミナー	新宿	福田・吉田	32名
12/16 (月)	新宿セミナー	千葉	吉田	7名
合計				219名

VI 学長諮問委員会

1 学事協議会

1. 役割・職務

「聖路加看護大学学事協議会規程」に定められている。

2. 活動内容

2013年度の学事協議会は20回開催された。

主な協議事項

- 1) 学則の変更
- 2) 規程の変更
- 3) 聖路加国際病院との法人一体化
- 4) 2014年度事業計画・予算・学事暦・委員会・プロジェクトの立案・策定
- 5) 教職員人事
 - ・教員の担当およびグループの枠、教員組織の再検討
 - ・特別研究員の新設の検討
- 6) 施設・システムの整備計画の検討
 - ・学生証・教職員証の切り替え
 - ・メディアルームや図書館などの認定看護コース学生や大学院生の施設利用時間
 - ・図書館24時間開館の検討
- 7) 各種イベントの企画検討
 - ・入学式、卒業式、修了式
 - ・日本看護系大学協議会「大学で看護を学ぼう！」キャンペーン
 - ・日瑞音楽プロジェクト2013
 - ・創立記念行事／看護実践開発研究センター10周年記念行事
- 8) 学生部関係
 - ・学生の健康状況や履修状況、休退学、学納金等納付の把握と対応の検討
 - ・食堂委託会社変更への対応の検討
 - ・「成人の日」休講要望への対応の検討
 - ・国家試験受験や就職説明会の検討
 - ・卒業生・修了生の状況の把握
- 9) 奨学金
 - ・ゾンネンシャイン財団奨学金
 - ・ミセスセントジョン記念教育基金
- 10) 教務部関係

- ・アクティブラーニング検討
 - ・GPA 導入検討
 - ・Numbering 導入検討
 - ・e-ポートフォリオ導入検討
 - ・授業・実習状況の把握
 - ・立教大学との学部間交流による教科新設の検討(体育など)
 - ・学士3年次編入制の検討
 - ・多様な学生の学びプロジェクト運用状況の把握
 - ・看護教育学上級実践コースの開設の検討
 - ・海外の大学との交換留学研修プログラムや語学研修プログラムの検討
 - ・2014年度公衆衛生看護学実習の準備状況の把握
 - ・立教全学共通カリキュラム履修科目と本学科目とのGPA換算方法の検討
 - ・学修時間・生活行動調査の施行
- 11) 看護実践開発研究センター関係
 - ・福島災害支援「きぼうときずな」プロジェクト活動状況の把握
 - ・競争的資金取得状況の把握
 - ・「特別研究員」制度新設の検討
 - ・中央区との連携活動の把握
 - 12) 文部科学省選定事業や各種補助事業への応募計画・運用の検討
 - 13) 「教育ボランティア」制度の検討
 - 14) 各種実習生受け入れの検討
 - 15) 高橋シュン先生を偲ぶ会の運用検討
 - 16) 柳井晴夫先生を偲ぶ会の運用検討

3. 課題

聖路加国際病院との一体化を受けた新しい教育カリキュラムや学事行事の企画・実施

2 自己評価委員会

1. 役割・職務

聖路加看護大学自己点検・評価に関する規程において、自己評価委員会の設置が定められ、その職務は

- 1) 自己評価委員会は定期的に自己点検・評価を行い、記録を作成し、学長に報告する(第4条)。

2) 自己評価委員会は評価項目を選定し、各校務分掌に対して自己点検・評価の実施ならびに改善案の作成を委託する(第6条)。

2. 活動内容

11回の会議を開催し以下の内容に取り組んだ。

1) 2014年度の大学基準協会への認証評価申請に向けて、自己点検評価を実施し、自己点検・評価報告書を作成した。2014年1月に認証評価申請の草案を提出し、2014年4月1日の本提出の準備を行った。

2) ①本学では年報を作成することで、毎年自己点検・評価をし、課題を明確化している。同時に年報は、大学基準協会での認証評価の際のデータとなる。本年度は2012年度の年報を発行し(2013年5月)、2013年度の年報の作成を準備した。

②自己点検評価の一環として、教職員の目標設定とその達成度評価を実施した(資料)。

③昨年度実施した将来構想の整理を行い、2014年度から2019年度の中期ビジョン案を策定した。

④重点活動計画の達成度を四半期ごとに確認し、次年度へ向けた見直しを行った。

⑤本学の建学の精神からカリキュラムまでのつながりをわかりやすく説明した。

⑥聖路加国際病院との一体化に関連し、自己評価委員会規程の見直しや、委員会の改編を行った。

3) 2013年度の年報について、評価項目は年報の項目を再検討して決定し、また、規則・規程に定める組織の役割職務に基づいて、点検・評価にすることに修正した。

3. 課題

1) 教職員の重点目標・達成度評価を、人事評価へと連動させることが課題である。

4. 資料

教職員の目標設定とその達成度評価のスケジュール表

[教員]

評価者		1次評価者	2次評価者	提出先	本人に返却
教授		学部長	—	学長	
領域の長がいる准教授・助教		領域の長	学部長		
領域の長がいない准教授・助教		学部長	—		
提出期限	年度初めの目標設定	5/31	6/12	6/21	次年度目標設定までに
	年度半ばの報告	9/20	(学部長保管)		
	年度末の評価	2014/3/7	3/20	3/24	

[職員]

評価者		1次評価者	2次評価者	報告	本人に返却
課長、係長(課長不在の部署)		事務局長	—	学長	
係長・一般職員		課長	事務局長		
提出期限	年度初めの目標設定	5/31	6/12	6/21	次年度目標設定時
	中間期の報告	9/20	(事務局長保管)	—	
	年度末の評価	2014/3/7	3/20	3/24	

3 研究倫理審査委員会

1. 役割・職務

聖路加看護大学研究倫理審査委員会規則に則り、聖路加看護大学研究倫理審査委員会内規ならびに研究倫理審査委員会小委員会運用細則の第一条（目的）を達成すべく、研究計画の倫理審査を行う

2. 活動内容

今年度は研究倫理審査委員会を予定した日程に従い11回開催し、提出された研究計画書について審査を行った（表1、表2参照）。

昨年度末に研究科委員会に申し入れ承認された、大学院博士前期課程（修士論文）研究計画書に対する、研究科委員会のメンバーによる審査担当制の導入により、計画書の審議がより慎重に行われたことも奏功し、5月の修士論文研究計画書の倫理審査を例年になく迅速に行うことができた。また昨年度より倫理審査委員による審査担当制を導入したが、本年度はさらに担当者が作成した審査書を会議に先立ち教務事務で集約し、会議資料として配布したことで、審査の一層の迅速化と審査終了後の議

事録および結果通知書発行の効率化が図れた。

4月10日には例年通り研究倫理セミナーを開催した。研究倫理セミナーについては、学外の倫理審査を受けた本学大学院生が、倫理セミナーを受講したか否かの確認を求められる事案があったことから、今年度より出席カードを配布し、出席者を記録するようにした。

年度末には、倫理審査申請時の添付資料である「チェックリスト」を2か所修正し、研究倫理セミナー受講の有無と、修士論文ならびに博士論文本調査の計画書については、研究計画書の審査を受けたか否かを確認する項目を追加した。また、次年度の法人一体化に伴い、委員会の位置づけと役割について病院の倫理委員会との合同会議を開催し、役割と作業内容を検討した。

3. 課題

法人一体化に伴う組織作りが次年度の大きな課題である。また本年度本学大学院生が本学の倫理審査で承認を得ないまま、他の施設での承認に基づき研究を実施した事例があったが、本学教職員、大学院生の研究は当委員会の承認を得たうえで行うよう周知徹底する必要がある。

表1 審査件数

	開催月日	出席委員数	新規申請			期間延長・一部修正等	審査件数 (新規のみ) 計
			通常審査	簡易審査	予備審査		
1	4月16日	9名	7件	0件	0件	0件	7件
2	5月21日	9	6	0	0	1	6
3	5月28日	8	5	0	0	0	5
4	6月18日	8	9	0	1	1	10
5	7月16日	8	13	4	0	1	17
6	9月17日	9	15	3	1	0	19
7	10月15日	6	7	0	0	1	7
8	11月19日	7	2	3	0	0	5
9	12月17日	7	8	0	0	0	8
10	1月21日	9	10	0	1	1	11
11	2月19日*	メール会議	0	1	0	1	1
12	3月18日	9	5	0	0	1	5
計							101

表2 審査結果

審査結果	承認	条件付き承認	保留	不承認	非該当
通常審査	48	31	6	1	0
簡易審査	10	1	0	0	0
予備審査	2	1	0	0	0
計	60	33	6	1	0

4 人権委員会

1. 役割（規程）

人権委員会規程第2条

- 1) 本学におけるセクシュアル・ハラスメントやアカデミック・ハラスメント及びその他学習・研究・労働に関連して教職員、学生および研究者等に生じる権利・利益に関する諸問題に関する事項を審議すること
- 2) 本学における学内人権事項に関する苦情を受け付け、対応すること
- 3) 本学における学内人権事項に関する必要な措置を学長に具申すること
- 4) その他、本学における学内人権事項の解決のために必要な事項を実施すること

2. 活動内容

今年度は申し立てがなく、下記のとおり委員会を1度開催した。

日時 2013年7月30日（火）18時から19時10分

場所 聖路加看護大学会議室

新任委員1名（伊藤和弘委員）紹介した。

検討内容

- (1) 「ストップ・ハラスメント」パンフレットの改定について

委員への連絡方法について検討を行った。相談者は大学の代表電話番号に対しては、掛けにくいし、気になる場合がある。学内教員の委員へは研究室直通の電話番号がよい。ファクスはあまり使われないと思われる。

実習中に患者の不快感などの侵襲を受ける例がある。本人の訴えがない限り問題が表面化することがない。そのため、実習前にハラスメントについて具体的にオリエンテーションを行っている。もし病院での問題なら委員長からシーバー・チャプレン間で話もできる。

パンフレットには、ハラスメントが起こる場所（学内のみならず実習施設等の教育の場や Web 上で）、人権委員会規程第8条（委員会・委員の人権への配慮を規定）を記載すること、さらに「ハラスメントとはなにか」を追記することとなった。

また、パンフレットをいつでも閲覧できるようにイントラに掲載を検討する。

3. 課題

上記のようなハラスメントの他に、立場上、上に立つ者が攻撃される場合もある（逆パワハラ）。

また、相談を受けた者は相談者の肩を持ってしまう傾向がある。相談者が加害者である場合もあり、双方の意見を公平に聞く必要がある。

5 発明委員会

1. 役割・職務（聖路加看護大学発明規程）

教員等が行った発明等の取扱その他知的財産権に関する事項を審議する。

2. 活動内容

発明等の届け出があれば速やかに委員会を開催し、知的財産権継承の可否および出願手続き可否の審議を行う。出願が決定したものは委員会担当者が弁理士に出願依頼の連絡および請求書受取や支払依頼等の会計処理を行い、発明者は出願に必要な書類を弁理士と相談して準備提出
今年度は、5月29日に委員会を開催した。

- 1) 特許庁より拒絶理由通知が届いていた特願2007-182020「遠隔看護システムおよび遠隔看護の方法」に対して、天城国際特許事務所より特許庁へ意見書を提出。5月14日に特許査定通知が届いた。
- 2) 現在大学で保有している特許の整理確認をした。

3. 課題

今回特許査定がなされたため、今後の運用、利用できるテレナースの育成、発表・広報の体制整備が必要である。

また特許の仕組みを購入、システムを作成実施してくれるライセンサーを探していきたい。

6 危機管理委員会

1. 役割・職務

- 1) 危機情報の収集とその分析
- 2) 想定される危機の洗い出し、評価と優先順位付け
- 3) 順位付けされた危機への対応策の検討、立案、実施
- 4) 危機管理マニュアルの作成、見直し、学内周知
- 5) 教職員、学生への防災教育・訓練の実施
- 6) 大学を取り巻く危機動向の把握や報告

- 7) 緊急時の災害対策本部の組織体制、活動内容、意思決定
- 8) 緊急時の情報伝達システムの整備
- 9) 災害対策本部を設置する場合の場所の確保、備品、通信機器の準備

2. 活動内容

1) 講演会の開催

4月23日 海外渡航保険に関する講演会を開催した。

2) 防災訓練、聖路加国際病院との災害対策訓練などの実施

6月24日 本部立上げ訓練・安否確認システム訓練を実施した。

9月1日 中央区総合防災訓練に模擬患者役の学生7名が参加した。

10月3日 聖路加国際病院との防災訓練を実施した。

1月16日 災害時本部立上げ訓練・トランシーバーテスト訓練を実施した。

3) 危機管理規定の制定・災害時の行動マニュアルおよび災害対策訓練の再検討

防災各班会議でマニュアルおよび災害対策訓練の再検討を行った。

4) 災害用備蓄品の補充・管理

防災各班会議と連携し、必要な備蓄品の検討補充を行った。

会議室に災害時に報告事項などを記入するためのホワイトボードを設置した。

5) 危機管理室との安否確認システム運営連携、未登録者への登録推進など

安否確認システムの登録推進を行った。また、災害対策訓練時に安否確認システムを稼働し、学生・教職員等の安否確認システムへの意識付けを推進した。

6) オリジナル防災マニュアルポケット版の作成

従来学生便覧に掲載されていた防災マニュアル学生版に災害時の避難場所や緊急連絡先などを記載したコンパクトで便利な防災マニュアルポケット版を作成した。

3. 課題

- 1) 災害対策各班会議との連携緊密化、効果的な防災

訓練の実施

- 2) 聖公会関係学校との協力・情報交換、災害時の相互連携の検討
- 3) 中央区との災害時の連携
- 4) 大雪などの災害に対する対応の検討
- 5) より実効性のある危機管理・対策の検討と実現

7 創立100周年事業検討委員会

1. 役割・職務

聖路加看護大学創立100周年事業検討委員会規程第4条に基づく。

- 1) 創立100周年事業の計画立案に関すること。
- 2) 創立100周年事業の予算措置に関すること。
- 3) その他創立100周年事業に関すること。

2. 活動内容

審議事項は資料「2013年度100周年事業検討委員会討議内容一覧」を参照

1) 創立100周年事業の計画立案

2020年の創立100周年に向けた事業のコンセプトおよびアクションプランについて検討した。コンセプトについては、法人一体化の進捗もあり、周年事業も聖路加国際病院と一体となり行うことを見据え、「St. Luke's100&120」というコンセプトを策定した。「100&120」とは、2020年が本学の創立100周年、2022年が聖路加国際病院創立120周年にあたるのを受け、2020年から2022年の3年間を記念期間（Anniversary）と捉え、この3年間は病院と大学が一体となった周年事業を展開する構想に基づく。

アクションプランは検討を重ね、大分類として「モデルタウン事業」「教育事業」「周年特別事業」「寄付事業」の4項目で事業を分類し、計画・展開する構想をまとめた（4項目の詳細は資料『「St. Luke's 100&120」構想』参照）。特に進行中である中央区との包括連携の中で、2020年東京オリンピックの、選手村等の跡地に関する有効利用のプランを検討し、中央区に対し積極的に働きかけていくことを次年度以降活動の中に盛り込んでいく。

2) 創立100周年事業の予算措置に関すること。

100周年事業検討委員会として、10月に事業計画書および予算書を上申した。事業計画書および予算書に基づき2014年度の活動を行っていく（具体的内容

は課題に記載する)。

3. 課題

- 1) 聖路加国際メディカルセンターとの法人一体化により、学校法人聖路加国際大学全体の記念事業として、病院の代表を委員に含めた、全体的な視点による計画立案および実行を行う。
- 2) 本事業の要でもあり土台となる、ファンドの設立を早急に行う。
- 3) 中央区との包括連携協定の一環としてより中央区との協議を積極的に行う。
- 4) 100周年記念誌の製作について、2015年度の事業計画に盛り込む。

2013年度100周年事業検討委員会 討議内容一覧

回数	日程	検討事項	報告事項
第1回	2013年5月28日(火)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 規程の確認 2. 90周年の振り返り 3. 他大学の周年事業の例 4. 本学の100周年事業の企画 5. 2020年へ向けてのロードマップ 	
第2回	2013年6月25日(火)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 聖路加看護学園と聖路加国際メディカルセンターの法人一体化について 2. コンセプトフレーズの検討 3. アクションプランの検討 	
第3回	2013年7月23日(火)	<ol style="list-style-type: none"> 1. コンセプトフレーズの検討 2. アクションプランの検討 	
第4回	2013年9月24日(火)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 法人一体化について <ul style="list-style-type: none"> ・病院との法人一体化の進捗状況 ・一体化後の100周年事業・病院との合同プロジェクトについて 2. ファンドについて 3. その他：2020年東京オリンピック・パラリンピック 	
第5回	2013年10月22日(火)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学の中期計画の検討 2. 本委員会の2014年度事業計画について 	
第6回	2014年1月28日(火)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「St. Luke's 100&120」2014年度アクションプランの検討 2. 100周年記念誌の作成について 	
第7回	2014年2月18日(火)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「St. Luke's 100&120」2014年度アクションプランの検討 	1. 法人一体化について
第8回	2014年3月18日(火)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「St. Luke's 100&120」2014年度アクションプランの検討 2. 年報原稿について 3. その他 	1. 中央区副区長との面談

大項目	中項目	小項目	備考	
モテルタウン事業	中央区との包括連携	ディゲアセンター	<ul style="list-style-type: none"> 聖路加が立地するこの区画自体の構想としてはどうか、ここに来ると建屋になるというイメージ。 どうしたら聖路加が中央区民にとって大事なものになるのか、そういうアイデアを盛り込む。 高齢化社会モテルタウン→中央区との包括連携協定の中でやっていけるか。 月島のあたりはモテルタウン→中央区との包括連携協定で中央区と連携してやっていけるか。 ユニークなモテル作りができるか、そういうプランを中央区に持っているか、海手町の跡地などの活用で中央区と連携してやっていけるか。 介護施設に学生が通じて暮らす、そういう交流ができる施設はユニークでいい。 中央区から災害協定を結びたい旨打診があるので、災害に強い街づくりという視点でプランを提案するのよ、ビル緑地化や、農業など。 	
		運動設備 (学生の体育館、転倒予防教室会場等一般開放施設)		
		高齢者と若者の買世代共同利用複合施設		
		シェアハウス		
		介護施設	<ul style="list-style-type: none"> ※モテルタウン事業については、2020年東京オリンピック跡地の有効活用計画とも合わせて中央区とともに検討するとよい。 ※公設民営施設で地域貢献ができるよう検討していく。 ※緑地中継地の利用等、包括連携の一環として中央区へ積極的にプランを提案していく。 	
教育事業	2号館の改築・立て替え		<ul style="list-style-type: none"> ・2号館を建て替えるプランも検討してはどうか、2号館は現在築30年建てている。建費は50年程度で建て替えるが、100周年事業としてはよいのではないか。 ・1階に地域の店舗などを入れている人が集まる施設にするプランがよい、複合テナントビル化する。 ・2号館周辺の土地取得も含めて検討する。 	
		同窓会館	<ul style="list-style-type: none"> ・同窓生が集まれる器 (場所) ・卒業20年等、区切りの年代があつまるところ 	
	教育施設新設・改築	図書館、体育館、ゲストハウス、サテライトキャンパス等	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館サービスの提供→総合大学は開校を広く広げている (明治大学等)、図書館関係者連携など行っているか。 ・体育館については、中央区との包括連携の一環で、施設を作って区民に開放するという形にして協力してもらおうのか。 	
		チャプレン室 (大校舎内)		
			アクティブラーニング実践施設	
	教育プログラム展開		2015年にカリキュラム変更→2019年3月に4年制卒業 (カリキュラム完成)	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の人に教育サポーターという制度を作って、医療職の教育に協力してくれる人を募るのかどうか、自分たちが学生を育てる一員だと思ってもらえる。聖路加国際大学教育サポーター、そういうことをやる場所を作るということもプランを考えていく。
			2014年からCNEコース開設	
			学生購入の2年コースを2017年開設、2019年3月に卒業	
	周年特別事業	アーカイブ	記念誌作成	<ul style="list-style-type: none"> ・新刊集めと記念誌もリンクさせ、製作費を削減するとよい。
			聖路加オリジナル撮影器	
イベント		地ビール (一粒の麦から)		
		実習服のデザインコンペ	<ul style="list-style-type: none"> ・シンボリックなものを作る、探えるというのは周年事業ならだけでは企画である 	
寄付事業		「100&120」募金	<ul style="list-style-type: none"> 2号館建て替え費用 (約25億円：概算)、記念誌作成等他の企画に必要な経費を含めて、募金目標を30億円とする。 	

VII 常設委員会

1 教育予算委員会

1. 職務・役割

教育予算委員会の検討方針：「大学予算に関する検討会」及び「大学運営会議」からの要請を受け、教育予算申請書の内容を検討した。その際、教育の質の担保に留意し、申請内容の妥当性を検討し、無駄を省き、今後の課題を明らかにして提言をまとめた。

なお、昨年度課題として提示されていた、教育予算と教育予算外の分類、特別講師の申請方法及びその可否、上級実践実習謝金の周知、TA・臨時助教に対する謝金の申請方法については、課題を検討の上で予算申請や資料の提出がされるよう周知をはかった。

2. 活動内容

1) 教育予算委員会開催

委員会の日程調整、予算申請方法・配布資料の確認、予算申請書の審査、修正予算の確認のため、計4回の委員会を開催した。

2) 予算申請に関する説明会の実施

2013年10月11日に予算関連の資料をイントラにアップし、2013年10月15日全教職員を対象に、「2014年度の教育予算の概算要求の方法について」「予算申請用紙」についての説明会を行い、2014年度教育予算総額は45,000千円以内を目標とすることを伝えた。

3) 予算調整過程

第一次予算申請総額は49,372千円(2013年度予算第1次申請額より5,469千円減)であり、4,372千円の削減が必要であった。委員会では、申請された教育予算について以下の5点を中心に確認・検討を行った。

- (1) 授業に関する科目予算および教務予算については、申請基準に照らし、①申請根拠、②優先度、③単位数および教育内容・方法の3点をもとに、教育予算として適切であるか否かを検討した。
- (2) 委員会活動予算については、委員会活動の内容と照合し適切であるか否かを検討した。
- (3) 全ての科目において申請予算の内容が教育予算として妥当かを書類、理由書、申請資料にて検討した。
- (4) 必要時予算担当者にヒアリングを行い、実質的に必要な予算のみを計上することを徹底した。

- (5) 2014年度実習費等(実習謝金、実習打合せ費用、非常勤講師、特別講師、TA、臨時助教)に関する予算について、申請基準に照らし検討した。

3. 2014年度教育予算調整結果

- 1) 申請された教育予算に対し最大限の検討を行った結果、最終予算は47,939千円となった。上限より2,939千円超過しているが、申請内容を見る限り必要最低限の申請であり、これ以上の削減は難しい。
- 2) 申請のあったDVD(6件249千円分)については今年度ビデオ予備費で購入することとした。

4. 課題

2014年度教育予算調整の過程において、今後の課題を次のようにまとめ提言とした。

- 1) 病院所属の特別講師・非常勤講師に対する謝金について
講師の教育のモチベーションを確保できるような配慮・仕組みが必要と思われる。
- 2) TA・臨時助教に対する謝金申請について
TA・臨時助教の確保が難しいという現状が、昨年度に引き続き明らかになった。
その理由を明らかにするためには、研究科委員会等関連部会でその原因を探る必要がある。また、TAを安定的に確保するために、時給単価の引き上げ等も視野に入れる必要がある。
- 3) 会議費の申請基準について
公平生の観点から、会議費支出は実習先との打ち合わせに限るのか、基準を定める必要がある。
- 4) 機器備品の購入について
機器備品は高額になるため、計画的に予算を組む必要がある。
- 5) 次年度以降の教育予算の編成について
法人一体化後、教育予算の在り方、編成方法等根本的な見直しが必要である。

2 広報委員会

1. 役割・職務

大学および大学院の受験生獲得に向けて、大学広報戦

略を検討し、学外に向けた広報活動の企画・実施（オープンキャンパス等、大学案内パンフレット等の作成）を行った。オープンキャンパスは、聖路加国際病院と協働し内容の充実を図った。昨年度スタートした中・高校生向け看護セミナー“集まれ未来のナースたち”は、開催日を増やした。また、広報室と連携し、これらのイベントの周知に努めた。広報委員会活動を効率よく遂行するために、昨年に引き続きチーム制にして各プロジェクトを展開したが、各プロジェクト活動が拡大したため、全メンバーが協力して行った。

- 1) オープンキャンパスの開催：(主メンバー) 池口、加藤木、福田、松崎、櫛田、吉田
- 2) 看護セミナー“集まれ未来のナースたち”：高橋、福田、松崎
- 3) 大学案内パンフレット作成：福田
- 4) 学生広報委員会との連携：高橋、池口、櫛田、福田、松崎
- 5) 学外における広報活動：松崎、福田、吉田、片岡

2. 活動内容

プロジェクト毎に、年頭に目標と年間計画を立て、それぞれのチーム内で緻密に活動を展開した結果、2013年度は、学部、大学院とも志願者の増加に貢献することができた。活動内容の詳細は、以下の通りである。

1) オープンキャンパスの企画・運営

学生広報委員会・広報室との共同企画・運営による、オープンキャンパスを、6月29日(土)、8月3日(土)、4日(日)の計3回実施し、多くの来場者を得た(表1)。今年度も昨年好評であった聖路加国際病院見学ツアーを企画し、病院の協力のもと卒業生と学生広報で案内を行った。実際の病棟内を案内する企画であったが、就職先や実習先をイメージできると好評であり、聖路加ブランドへの期待の大きさを伺うことができた。また、自由に病院内を見学できるフリー見学枠も設けたことで、合計853名が参加した。2階ラウンジには病院紹介コーナーを開設し、病院パンフレットを置き卒業生による相談コーナーを企画した。

例年実施の企画として、在校生による相談、実技体験、学生による学内ツアーは好評であり、大勢の参加があった。これらの企画は、学生と直接交流でき、本学の雰囲気を感じると来場者のアンケート結果をみても満足度が高い。また今年は、教員・

奨学金相談コーナーを学生相談コーナーと同じ場所に移し、新たに6月と8月3日に大学院相談コーナーを設け、大学院受験希望者に向けてガイダンスを行った。ホールでは、昨年同様広報委員による大学案内オリエンテーションをおこなった。模擬授業は、6月は老年看護学、8月は母性看護学、基礎看護学の教員が行い、好評であった。

今回、学生広報のリーダーと広報委員が密に連携し、学生広報の意見を企画や運営に反映することで、協力してくれた学生たちが自分たちの大学をアピールするイベントを達成することができたという充実感を抱くことができた。

2) 看護セミナーの企画・運営

将来看護職を目指す高校生・受験生に看護の魅力について伝えていく目的で、「集まれ！未来のナースたち」と題した高校生向け看護セミナーを、今年度は2回開催した。1回目は、12月14日(土)に精神看護学の萱間真美教授による「看護の魅力～こころのケアを届けるアウトリーチ～」のテーマで、2回目は3月15日(土)に母性・助産看護学准教授による「看護の魅力～新しく生まれる家族の誕生に寄り添う～」のテーマで開催した。参加者は、1回目90名、2回目が96名であった。また、今年度は、初めての試みとして、看護週間の5月18日に国際推進委員会との共催企画としてGlobal Health Seminarと大学説明会を同時開催した。

3) 病院との連携

今年度も、夏休みに聖路加国際病院で1日看護体験をする高校生とボランティアに参加する高校生を対象に聖路加看護大学の紹介をした。病院の看護部の担当者やボランティアコーディネーターの方と打ち合わせを重ね、大学案内のパンフレットの配布と共にオープンキャンパス、白楊祭などのイベントの案内を通して広報活動を行った。オープンキャンパスのアンケートからは、この活動により本学を知り興味を持ったという回答があったことから、来年度も継続して同様の活動を展開していきたい。

4) 2014-2015大学案内パンフレットの作成

昨年度に引き続き、梁プランニング(3年契約3年目)とのパートナーシップを結び、作成を行っている。完成は2014年5月の予定である。冒頭から6ページに法人一体化に関する記事を掲載する予定である。また大学名

変更に伴い、全ページ校正を行い、情報の更新を行った。

5) 学生広報委員会との連携

オープンキャンパスの開催にあたり、学生広報委員会と連携し、計画・運営を行った。白楊祭においては受験生相談コーナーを学生広報委員と連携して行った。さらに、夏休みの母校訪問を学生広報委員と進めた。

6) 学外における広報活動

新宿セミナー等の入試相談会に広報室と協力して参加した。さらに、高等学校からの依頼に応じて、大学の紹介および看護に関する講義を行った。

3. 課題

今年度は、学部・大学院ともにすべての入試において志願者数が増加した。昨年よりも委員数が減った中、全教職員の協力を得ながらの成果達成であった。

昨年度課題にあげていた「オープンキャンパス等の内

容検討と回数の増加」については、オープンキャンパス参加者数の増加だけでなく、病院見学の継続とツアー数を増やしたり、大学院説明会を開催したり、学生広報委員はもちろん卒業生の協力も得るようにした。また、看護セミナーを年に2回開催し（昨年からは1回開催）、高校生などの本学志願者との接触機会を増やした。

「大学案内パンフレット以外の多様な広報誌の作成」の課題については、広報室で受験生に向け「Lu-Bre」を創刊し対応した。

「学生広報委員会との連携改善」の課題については、ノベルティグッズの作成やオープンキャンパス終了後の振り返りの会を工夫するなど、中心となった学生委員の協力もあり、連携は強化されたと思われる。今後に向け、2014年度予算学生広報への謝礼の増額を申請した。

次年度は「大学院入試広報の強化」を課題として、入試事務室や入試委員会の協力を得ながら改善を行ってきたい。

5. 資料・データ

表1 2013年度オープンキャンパス来場者数

(単位：人)

	受験生 (内大学院受験生)	保護者	合計
6月29日 (土)	262名 (33名)	140名	402名 (昨年362名)
8月 3日 (土)	473名 (42名)	347名	846名 (昨年530名)
4日 (日)	523名 (2名)	357名	880名 (昨年855名)
2013年度オープンキャンパス合計来場者数			2128名 (昨年1747名)

3 情報システム委員会

1. 役割・職務

1) コンピュータシステムに関する運用、管理上の諸問題の検討

- ・聖路加看護大学コンピュータネットワーク利用規程
- ・聖路加看護大学コンピュータネットワーク倫理規程
- ・情報システム委員会規程

2) システムの運用の向上を図るための企画

2. 活動内容

1) 学生情報システム委員会について

学生委員は学部生12名、大学院生2名である。今年度は5月、7月、10月の計3回学生合同情報システム委員会を行った。6月にメールシステムの変更があったため、学生への周知の方法について学生委員と意見交換をし、混乱が少ない移行を図った。また、メールシステム移行後の状況やそのほかのサービスの利用状況について、各学年の状況や率直な意見などを学生委員から得ることができた。メールシステムとしてはGmailを使い慣れている学生も多いため、混乱は少なかった一方で、システムの変更を全く知らない学生もいたことがわかり、周知の方法について課題が残った。情報システムについて学生からの意見としては「メールがスマートフォンでアクセスしやすく便利になった」「Wifi環境が整い、どこで

も自分の PC を使用できて便利になった」など、利便性について肯定的な意見が多く聞かれた。

2) GoogleApps の導入

2013年6月に学習環境の向上と Microsoft 社によるサポート終了への対応を目的として、Google Apps for Education (Gmail, Google ドライブ、Google カレンダー) を導入した。

Google Apps for Education 主要サービスの1つである Gmail はスマートフォンやタブレットとの相性もよく、また従来のシステムでは行っていなかった名前の登録も行ったことでメールの利便性がかなり向上したと思われる。

3) 施設予約システムの導入

演習室などの WEB 予約システムを Google Apps for Education を用いて構築。これにより、より活発に学内施設を利用することが可能となった。今後は使用状況および意見の集約を行い、サービス継続・拡大の検討を行う必要がある。

4) 無線 LAN サービスの利用拡大

昨年度、2号館と本館の一部でインターネット無線接続サービス (Wi-Fi) の試験提供を実施した。実施に伴う運用上の問題はなく、学生情報システム委員会等を通じてサービス拡大を希望する声があった。これを受けて、2013年10月28日より2号館、本館の全フロアにアクセスポイントを増設して提供を開始した。学生の要望によりサービスを拡大したことで、学習・情報環境の向上につながっているものと考えられる。

5) 持込 PC からの印刷サービス開始

2013年10月28日からの無線 LAN サービス拡大に併せて学生が持ち込んだ PC から大学内に設置しているプリンタへの印刷サービスを開始した。

本サービス開始後に印刷された枚数のうち約3%が持ち込んだ PC からの印刷によるものであった。引き続き利用状況をもとに、今後のサービス提供を検討していく必要がある。

6) 両面印刷ユニットの設置

昨年度、405号室および2号館メディアルームにあるプリンタに両面印刷ユニットを3台設置したところ大学院生からサービス拡大を希望する声があった。これを受けて2013年6月に両面印刷ユニットを4台追加 (修士ラウンジ1, 2, 3, 博士ラウンジ) 設置し設置後に印刷された枚数のうち約54%が両面印刷

によるものであった。

3. 課題

1) 昨年度からの課題への取り組み

今年度は、Google Apps の導入によって、つぎのようなサービスが利用できるようになった。

- ・ gmail により、従来のメールアドレスの変更なしで場所を選ばずメールの送受信や検索
- ・ Google カレンダーによる会議室予約等のスケジュールの共有
- ・ Google ドライブによるクラウド上でのファイルの共有や複数のパソコンとの同期

これらと、Wi-Fi 環境の拡充により、どこでもパソコン、タブレット、スマートフォンなど端末を選ばずに活用できることで、いわゆるアクティブラーニングなどユビキタスな学習環境が整ってきた。

2) 今後の課題

Google Apps という新システムへの移行プロセスでは、ポスター掲示や講習会も行い、大きな問題は生じなかった。しかし、その周知においては十分には徹底できていなかったことも判明し、さらなる新サービス導入時には、周知方法を再検討する必要がある。新サービスとしては、昨年度公開しなかった、Google グループによるメーリングリスト作成、Google+ による SNS と電子会議の活用やブログやサイトの簡便な作成などがあげられる。

また、学生から提案のあった Web での情報確認、講義資料の電子化の実現においては、教務で e ポートフォリオの導入が試験的に導入されたため、Google Apps との連携について検討していく必要がある。

自由度が高いシステムでは、そのぶん、ユーザーが自分の端末を自分で管理する必要があるため、基本的な情報リテラシーの獲得とその支援が不可欠である。定期的に講習を行ったり、わかりやすいマニュアルやガイド、FAQ などを作成する必要がある。この作業においては、専門家がただ一方的に作成しているのでは、学習効果も期待できず、ユーザーのニーズに合わせにくい。そのため、学生情報システム委員会を含めた学生有志や各部門の教職員と一緒に、それらの学習システムを作り上げていかなくてはならない。

また、病院との一体化に伴い、各々の情報システ

ムやネットワークにおいて統合できる部分についても検討していく必要がある。

014年1月より本学での受入れ開始に至る)

②イリノイ大学への派遣プログラム実施検討
(2014年1月に相手校へ赴き協議の結果、2015年夏に本学から数名を約10週間派遣するプログラム実施の合意に至る)

7) 国際化推進の資金申請 (日本学術振興会留学生交流支援制度2013年採択、2014年申請)

8) 白楊祭参加：活動紹介展示・海外プログラム体験
学生によるプレゼンテーション

9) SNS サービス (Facebook 及び Twitter) を活用した委員会情報発信

4 国際化推進委員会

1. 役割・職務

国際化推進委員会規程に基づく

2. 活動内容

1) タイ、韓国、台湾との交換留学プログラムの実施
[表1参照]

①派遣学生の募集、選考の実施、②派遣学生への単位認定、③受入れプログラムの実施

2) 学生国際化推進委員会による交換研修生歓迎会、
交流プログラムの企画及び実施

3) 聖路加看護大学 Global Health Seminar(全3回)
の実施 [表2参照]

4) NCLEX-RN 講座 2nd(全9回)の実施 [表3参照]

5) 学術交流協定校との新規学生派遣・交換プログラム
実施検討

①高雄医学大学との短期交換研修プログラムの交
渉と実施 (2013年8月に相手校へ赴き協議の結果、

3. 次年度への課題

1) 新しい交換留学プログラムの検討を継続し、次々
年度を目標として具体化を目指す。

2) 挑戦的資金の獲得と教育予算内で可能なグローバル
人材育成施策の検討と実施。

3) 本学の国際化推進をグローバルキャリアマップと
して作成し、学生に概観できるようにする。

4) 本学の国際化推進の活動を受験生に広報する戦略
を検討する。

4. 資料・データ

表1 2013年度交換研修プログラム等実績

国	相手校	滞在期間	参加者名
受 入	タイ マヒドン大学 (4名)	2013年9月14日(日) ～9月28日(土)	Ms. Nalin Suleesathira (4年生), Ms. Boonyapa Nontijan (4年生) Ms. Tanuttha Udomsiririkom (4年生), Ms. Rujira Pajjing (4年生)
	韓国 ヨンセイ大学 (6名)	2013年7月4日(木) ～7月17日(水)	Ms. Sun Young Jang (3年生), Ms. Minha Kim (3年生), Ms. Ga-Yeong Lee (3年生), Mr. Yun Hyeong Lee (3年生), Ms. So Young Shin (3年生), Mr. Jin Woo Yoon (3年生)
	台湾 高雄医学大学 (2名)	2014年1月5日(日) ～1月18日(土)	Ms. Yi-Ling Chen (3年生), Ms. Hsin-Yu Lin (3年生),
派 遣	タイ マヒドン大学 ラマティポディ校 [4名]	2013年8月7日(水) ～8月20日(火)	浅倉 美貴 (2年生)、小林 彩音 (2年生)、轡田 みどり (2年生)、 佐藤 翔子 (2年生)
	韓国 ヨンセイ大学 (6名)	2013年9月5日(木) ～9月17日(火)	安 奈美 (2年生)、杉本 あま乃 (2年生)、埴 千賀子 (2年生)、平山 萌 菜 (2年生)、萩野谷 美奈 (2年生)、柏木早穂 (学士17回生)

表2 2013年度聖路加看護大学 Global Health Seminar 実績

日時	講師/発表者名、内容		参加人数
2013年5月18日(土) (広報委員会との共催)	阿川 牧	グローバルヘルスを紡ぐ実践力：セミナー「プロジェクトマネジメントについて」	108名
	赤尾 和美 東間 未来	グローバルヘルスを紡ぐ実践力：トークセッション	
	ブース展示セッション：NPO 法人アジア・チャイルドケア・リーグ (ACCL)、認定 NPO 法人フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーJAPAN、NPO 法人 HANDS(Health and Development Service)、認定 NPO 法人難民支援協会、認定 NPO 法人シェア=国際保健協力市民の会 (SHARE)		
2013年6月13日(木)	大塚 美香	「グローバルヘルスを紡ぐ実践力」：福祉・教育分野での経験から、海外に目を向けるようになったきっかけ、現在のキャリア選択の動機、今日に至るキャリアパスについて	19名
2014年1月28日(金)	石松 伸一 金子 あや	「与えること、与えられること」-医療従事者のボランティア活動を支えるシンプルな情熱：医療従事者としてキャリアを重ねながら国内外でボランティアを行う理由と、活動から得た気づきや学びについて	26名

表3 NCLEX-RN トライアル講座(全9回)実績 (参加申込人数)

学部生	9名 (うち本学学生6名)
大学院生	2名 (うち本学学生1名)
社会人・一般	12名 (うち本学卒業生6名)
合計	23名

5 表彰運営委員会

1. 役割・職務

委員会は、本学の学生および教職員が互いの努力を称え、感謝の意を伝えあう機会を提供するため、以下に挙げる各賞等に関する事項の審議ならびに実務を行う。

- 1) 教員の教育活動・研究活動やその成果に関するもの
- 2) 学生の学習成果や活動内容に関するもの
- 3) 学内の職員の活動に関するもの
- 4) 学生の社会的活動に関するもの
- 5) キリスト教精神の学習や関連する活動に関するもの
- 6) その他表彰委員会で定めたもの

2. 活動内容

1) 表彰内容、対象者、方法の決定

教職員委員および学生委員との合同会議により本年度の表彰対象者と表彰名、対象選択方法、選択時期、授与の時期や場、表彰状や記念品の内容を決定した。

「クラス表彰」は修士・

博士1年目を加えて、クラスでの貢献者を学生が推

薦しクリスマス会での表彰を行った。「チャプレン賞」はチャペル委員が中心に活動し、チャペルアワールの出席ポイントが高い学生が受賞した。「グッドティーチャー賞」前期は今年度初めて非常勤講師が受賞した。総合看護・看護研究Ⅱの各発表会場から選出された「グッドプレゼンター賞」は12名であり、2階ラウンジに発表内容をポスター掲示した。「SLスター」は学内部署の取材を学生委員が選択し実施した。「グッドボランティア」は学生委員の調査や教員・大学院の推薦で選出した。

2) 広報

1年間の表彰内容とスケジュールのポスター等を学内に掲示し周知を促した。また、学生委員による各クラス等への呼びかけにより、対象者の選択や投票を促した。その結果、グッドティーチャー賞は過去最高の186名が投票した。表彰結果は学園ニュースに掲載した。

3) 表彰式の運営

クリスマス会および創立記念行事での表彰式において、教職員委員および各学年の学生委員が式の運営を行った。

3. 課題

- 1) 投票や表彰者選出への関心、創立記念行事時に行う表彰式の参加者の増加が課題である。広報および表彰時期についても検討したい。今回大学院の参加の機会が減少してしまった。大学院が参加できる企画をしていく必要がある。
- 2) 同様の方法を繰り返すと表彰者が固定化される企

画も出てくる可能性がある。表彰企画の主旨からも、多くの人の活躍を知ってもらう機会をつくる必要がある。

- 3) 教職員委員と学生委員とのスムーズな連携のために、学生が動きやすい時期や連絡方法を考慮しながら運営していく必要がある。

4. 資料・データ

表1 表彰名、表彰対象者、選出方法、表彰会場

表彰名	選出方法 / 受賞者 (敬称略)	表彰会場
チャブレン賞	【選出方法】チャベルアワーの参加ポイントが多かった学生1名を選出 【受賞者】並木桃子(3年生)	創立記念行事
グッドプレゼンター賞	【選出方法】総合看護・看護研究Ⅱの発表会会場で各1名を選出 【受賞者】川上玲子、澤田彩乃、大塚早記、松本砂里、星名美佳、佐藤舞、川口彩香、丸山紗希、小林真衣、徳永亜衣子、安田理恵、松谷遥	創立記念行事
グッドティーチャー賞	【選出方法】優れた教授を行った教員を、学部生が前期・後期に投票。各1名を表彰 【受賞者】川名賢一郎(前期)・伊東美奈子(後期)	創立記念行事
クラス表彰	【選出方法】クラスに貢献したクラスメートを学部の各学年・各学士編入、大学院の各コースで選出 【受賞者】矢花瑠理子(学部1年)、本山浩子(学士17)、河内由佳子(2年生)、実習を必死でがんばる3年生・編入16回生全員(学部3年・学士16)、板橋みずほ(学士15)、内山貴美子(4年生)、滑川愛美(看護学専攻修士1年)、秋葉友紀子(ウイメンズヘルス・助産学専攻修士1年)、緒方愛(博士1年)	クリスマス会
SLスター	【選出方法】大切な役割を担っている学内部署を「今年のスターの部署」として学生委員が取材し、紹介 【受賞部署】危機管理室(1年生・学士17)、広報室(2年生)、健康管理室(3年生・学士16)、図書館(4年生・学士15)	創立記念行事
グッドボランティア	【選出方法】過去に紹介されなかったボランティアを行っている個人あるいはグループを調査し、委員会で表彰対象者を選択 【受賞者】平山萌菜(2年生)(小学校の補習手伝いなど様々なボランティア)、大森沙樹(学士17)(カンボジアでのボランティア)、萱沼義三(管財委託職員)(校内外の植物のお世話)、竹内翔子(博士2年)(産科クリニックボランティア)	創立記念行事
学会等受賞者紹介	【紹介内容】優れた研究により学会等で表彰された教員・学生を表彰式場で紹介(氏名と受賞理由・研究テーマ) 【受賞者】大久保暢子(日本私立看護系大学協会看護学研究奨励賞、日本看護科学学会学術論文優秀賞)、角田秋・柳井晴夫・萱間真美他(日本看護科学学会学術論文奨励賞)、有森直子(共同執筆)(第42回シグマ・テータ・タウ・看護学国際名誉学会最優秀看護学論文[臨床部門])、白木和夫(平成26年度日本小児科学会賞) 堀内成子・新福洋子(ファイザーヘルスリサーチ振興財団国際共同研究助成金「アフリカの思春期リプロダクティブ・ヘルスプロモーション」)、亀井智子(国際遠隔医療学会 Excellent abstract award)、朝澤恭子(博士3年)(第16回 East Asian Forum of Nursing Scholars(EAFONS) Outstanding Research Award 受賞)、柳井晴夫(ご逝去に際して従四位 瑞宝小綬章)	創立記念行事

6 紀要委員会

1. 役割・職務

- 1) 聖路加看護大学紀要委員会規程を参照。

2. 活動内容

- 1) 紀要第40号の発行
 - (1) 名誉理事長・理事長・学長・学部長・同窓会長から40号を記念する特別寄稿を得た。
 - (2) 投稿申込み数は27本（原著2、研究報告8、論説1、短報16）であった。その後、原稿の取り下げや論文種類の変更があり、最終的には21本（研究報告3、論説1、短報17）を掲載した。
 - (3) 掲載論文数が多いため、目次を表紙・裏表紙に印字せず、表紙デザインを変更した。
 - (4) 3月12日に650部を発行した。

3. 課題

- 1) 2014年度からの大学名の変更と組織の改組に伴い、「聖路加看護大学紀要」の名称変更、また投稿要項の見直しを、早急に行う必要がある。
- 2) 看護の研究成果を発表できる学会誌が増えている現在、紀要の位置づけを再考し、投稿資格者や論文種類・字数の変更、査読の有無などを検討する必要がある。
- 3) 投稿申込みの取下げや、申込み以降の論文種類変更が増加していることへの対策が求められる。

7 入試委員会

1. 役割・職務

- 1) 聖路加看護大学入試委員会規程により看護学部入学者選抜の実施に関する事項を審議し公正な方法で実施運営を図る。
- 2) 審議事項は、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）、入学者選抜方法の検討と選抜試験の実施、入学選抜に関する情報提供および情報開示、各委員（出題、校正、面接、採点）の人選、入学者選抜の統計、その他入学者選抜に関すること。重要事項は教授会の議を経て決定する。

2. 活動内容

- 1) 委員会は常設で定例会は原則毎月1回開催した。

- 2) 7月末に指定校推薦入学試験の事前説明会を企画した。（参加申し込みと出願なし）
- 3) 入試ミス防止のため第三者による入試問題事前チェックを2014年度学士編入学「生物」、2014年度一般入試「理科（生物Ⅰ、化学Ⅰ）」「英語」「国語」の合計5科目について実施した。
- 4) 推薦・帰国生・指定校入学試験の選考基準を明確に定めた。一般入試については2013年度の選考基準について検証を行い、その結果、2014年度も同じ選考基準を用いることになった。
- 5) 2014年度推薦・帰国生入学試験受験者を対象に、本学を知った時期、受験勉強開始時期、本学来校回数等のアンケート調査を実施した。
- 6) 在校生の入学試験面接評価と入学後の学習状況について分析と評価を行った。
- 7) 一般入試マニュアルの見直しを行い、改訂版を作成した。
- 8) 2014年度一般入試の出願速報を受付開始5日目、10日目、最終確定の計3回公表した。
- 9) 2013年度一般入試および2014年度学士編入学入試において情報開示を実施した。
- 10) 大学入試センター導入について、試算算出、労力と費用、会場等について検討したが、導入は見送ることになった。
- 11) 一般入試改革に向けての情報収集として、広報委員会との共催で、河合塾(株)KEI アドバンス、マイナビによる全教職員への講演会と、河合塾(株)KEI アドバンスによる入試委員会委員および広報委員会委員を対象としたコンサルテーションを実施した。
- 12) 平成21年告示高等学校学習指導要領に対応した出題教科・科目等について検討し、2015年度（平成27年度）一般入学試験は、【1次】＜必須：英語＞「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」＜必須：理科＞「生物基礎」「化学基礎」＜選択：国語＞「国語総合」（古文・漢文を除く）「現代文」＜選択：数学＞「数学Ⅰ」「数学A」【2次】＜小論文＞および＜面接＞と決定し、大学ホームページ上で公表した。1次試験の旧教育課程履修者に対する経過措置および2016年度（平成28年度）実施の「国語」と「英語」の科目、試験時間、配点等については、2014年度中に決定し公表する予定である。
- 13) 2015年度（平成27年度）看護学部入学試験より、アドミッションポリシーの一部を【現】「探究心の旺

盛な人」→【新】「科学的な探究心の旺盛な人」に改訂。

14) 2015年度入試会場について選定を行い「ベルサークル神田」に決定した。

収容人数に制限があるため、志願者数によっては、大学と2会場で実施する。

15) 教学社「大学入試シリーズ(赤本)」の2015年度版新規刊行が決定した。

16) 2014年度推薦・学士編入学の入学予定者および2014年度一般入学試験志願者へ校名変更について書面にて周知した。

3. 課題

1) 「英語」出題者より、校正中に試験問題が変更するため第3者による入試問題チェックを「事前」に加えて「事後」にも実施してほしいとの要望があった。今後、予算化が必要である。

2) 新学習指導要領による2016年度(平成28年度)一般入学試験「国語」および「英語」の出題科目の決定と公表

3) 他大学(看護系)との入試日程調整による受験生の確保

4) 募集要項へ記載可能な時期の奨学金制度の決定

5) 募集要項の取得資格に関する標記の確認

6) 入試結果の継続的な分析と評価

7) 入学者選抜規程の検討

8) 出願方法および入学検定料支払方法の検討

9) 合格発表方法の検討

10) 入試広報のあり方(重点)の検討

8 FDSO 委員会

1. 役割・職務

学部・大学院の教育・研究活動及び大学組織運営推進のために行う、Faculty Development (FD) および Staff Development (SD) に関する事項の審議ならびに実務を行う。

2. 活動内容

1) 教職員および組織のニーズに基づき FDSO 研修を企画・実施・評価した(表1)。

2) FDSO-Week では各回の後半にグループワークを取り入れ参加型とし、本学で取り組むべき課題に対する関心を高めた。全教職員対象の研修会(学事)では、病院の関係部署からの参加を呼びかけ、合同で行った。成果は FS ミーティングにおいて共有した。

3) FDSO マップに基づき各種研修を位置づけ、自己の能力開発・管理について FS ミーティングにおいて解説した。

4) 特色ある大学をめざし、教員力・職員力を高める研究交流の場としてサイエンスカフェのプログラムを新規に導入した。

3. 課題

1) 法人組織の経営および教育研究活動を推進する FDSO 研修を企画・実施・評価する。

2) 教職員個人の FDSO の自己開発・管理、法人全体の FDSO の共有・体系化を進める。

3) 業務遂行に役立つ実用的な技術研修会(役立つツール道場)を継続する。

4) 教員力・職員力を高める研究交流の場(サイエンスカフェ)を継続する。

4. 資料・データ

表1 2013年度 FSDS 研修一覧

時期	テーマ (MAP 領域)	講師 (所属)	場所	参加人数
8月5日 (月) FSDS-Week	大学運営における事業管理 ～事業計画の立て方・書き方～ (主に職員向・共通ⅠⅡ)	渡辺明良事務局長	本館 402	教員17 職員26
8月6日 (火) FSDS-Week	“大学と病院の法人一体化”の実現に 向けて～一体化により何が可能になる か～ (教職員向・共通Ⅲ)	福井次矢理事長・院長 渡辺明良事務局長 菱沼典子学部長 柳橋礼子副院長	本館 講堂	教職員83 病院26
8月7日 (水) FSDS-Week	“大学教育の質的転換”に向けて～主 体的に考える力を育むアクティブラー ニング～ (主に教員向・教育Ⅱ共通Ⅱ)	菱沼典子学部長 三浦真琴教授 (関西大学教 育開発支援センター)	本館 402	教員40 職員11
10月4日 (金) サイエンスカフェ	メンタリングの機能と効果 (教職員向・共通Ⅱ・研究Ⅰ)	萱間真美教授	本館 2階 ラウンジ	教員11 職員2 院生2
12月3日 (火) サイエンスカフェ	Building your research around your passions : story of one activist scholar (教職員向・共通Ⅱ・研究Ⅰ)	Dr. Alicia Matthews (イリノイ大学)	本館 2階 ラウンジ	職員2 教員11 院生5 学部生2
1月31日 (金) まなば道場	e-Portfolio manaba course2の使い方 (教職員向・共通Ⅰ・教Ⅰ)	栗原彩 (株式会社朝日ネット)	2号館 メディアルーム	教員 19 職員 7 学生 3
3月7日 (金) サイエンスカフェ	女性のリプロダクション健康課題の意 思決定支援 (教職員向・共通Ⅱ・研究Ⅰ)	有森直子教授	本館 2階 ラウンジ	教員4 職員5 院生1

9 衛生委員会

1. 役割・職務

衛生委員会は、教職員の健康障害の防止、健康の保持増進、労働増進、労働災害の防止及び快適な職場環境を形成するための調査審議及び提言を以下の通り行う。

- 1) 教職員の健康障害を防止するための基本となるべき対策に関すること
- 2) 教職員の健康の保持増進を図るための基本となるべき対策に関すること
- 3) 労働災害の原因及び再発防止対策で、衛生にかかわるものに関すること
- 4) その他教職員の健康障害の防止及び健康の保持増進に関する重要事項

なお、定例委員会は毎月1回第3火曜日とする。

2. 活動内容

- 1) 2013年度活動方針の策定
- 2) 時間外労働の実態調査

－財務経理課より長時間労働者一覧の提供があった。時間外労働の実態を把握する為、昨年度の長時間時間外労働者(年200時間以上)へ勤務内容・有給休暇の取得状況等について、ヒアリングを実施した。

3) 有給休暇取得率の把握

－2013年度の取得率は平均して25.9%(2012年度末退職者を除いた場合には、19.2%)であった。これは、業界ごとの有給取得率(2012年度厚生労働省就労条件総合調査)の教育・学習支援事業40.0%を大きく下回った。

4) ハッピーマンデーに実施される授業についての検討

－2013年度は祝日であるハッピーマンデーに授業が行われていたが、運用として好ましくないとの意見もあったため、FSMにて教職員より意見・提案を募集した。結果、2014年度はハッピーマンデー分の授業は土曜日に振り替えることとなった。

5) 教職員健康診断受診状況報告、感染症の状況報告

－健康診断受診状況報告は4.資料・データを参照。また、今年度の感染症報告はゼロであった。

- 6) インフルエンザ予防接種実施の増進
- 7) 2014年度の他大学の衛生委員会の運営方法・状況についてのヒアリング

3. 課題

- 1) 有給休暇取得率の向上
- 2) 時間外労働の改善
- 3) ワクチン接種率の向上

4. 資料・データ

表1 教職員定期健康診断

(人)

年度	35歳未満	35～40歳未満	40歳～75歳未満(特定健診) ^{*1}		
			対象人数	受診	受診率
2012年度	8	11	61	59 ^{*2}	96.7%
2013年度	7	14	62	57 ^{*3}	91.9%

*1：予防医療センター半日ドック利用者

*2：他院受診者2名を含む

*3：他院受診者（結果未提出のため）含まず

5. その他

2014年度からは聖路加国際メディカルセンターとの一体化計画により、衛生委員会を統合することとなった。

10 ファカルティ・スタッフミーティング

1. 役割・職務

- 1) 教員および職員参加による学事全般に関する連絡、報告を行う。
- 2) 教員および職員参加による学事全般における討議事項を議論する。
- 3) 連絡報告および討議検討を通して、情報共有と周知を図る。

2. 活動内容

- 1) 原則、月1回(4/2, 4/16, 5/28, 6/18, 7/23, 9/17, 10/15, 11/19, 12/17, 1/21, 2/18, 3/5)、連絡・報告及び検討事項の活発な意見交換を行った。定例の連絡・報告は、学長、学部長、事務局長、教務部長、学生部長、看護実践開発研究センター長、図書館長、健康管理室より行われ、委員会等からは伝達事項がある際に適宜行われた。入学式、卒業式などの重要行事の役割分担やマニュアル確認の場ともなっている。
- 2) 本年度は特に、聖路加国際病院との法人一体化に関する連絡・報告、検討が多くなされた。前半は、文部科学省への申請の状況について、一体化が決ま

った後半は、大学名称や寄付行為の変更、組織の構成、実習のあり方、就業規則など具体的な事柄についての報告・説明があり、様々な意見が聞かれた。また一体化も見据え、今後の学部・大学院教育充実のため6つのプロジェクト（私立大学戦略的研究基盤形成支援事業、アクティブ・ラーニングプロジェクト、学部カリキュラム改訂プロジェクト、学士編入2年制導入プロジェクト、FNFプロジェクト、大学院における保健師国家受験資格コースプロジェクト）を立ち上げメンバーを募集した。各プロジェクトは後期から始動し、eポートフォリオの開発など一定の成果をあげたものもあるが、多くは大学主管の委員会に発展し、次年度以降も活動を継続することとなった。その他、次年度は大学基準協会の受審が予定されているため、学内が一体となって協力していくことを確認した。

3. 課題

教職員が一同に会する唯一の定例会議であり、情報共有するという点においては十分に機能している。聖路加国際病院との法人一体化にともない病院との人事交流も増えるため、新たな視点も取り入れつつ、教職員のより活発な意見交換の場として発展することが期待される。

VIII 関連施設報告

1 聖公会関係大学・短期大学学長懇親会

1. 日時・場所・出席者

〔日 時〕 2013年11月18日 13:00～16:00

〔場 所〕 ホテルグランヴィア大阪

〔出席者〕 桃山学院大学：学長 前田徹生・社会学部教授 伊藤高章

名古屋柳城短期大学：学長 新海英行

立教女学院短期大学：学長 若林一美

平安女学院大学：副学長 坂口慶治

神戸松蔭女子学院大学：学長 郡司隆男

神戸国際大学：学長 遠藤雅己

立教大学：総長 吉岡知哉

プール学院大学：学長 木村一信・副学長 蔵田實

聖路加看護大学：学長 井部俊子・事務局長 渡辺明良

2. 各大学・短期大学の学事近況報告

3. 議事

1) 2014年 CUAC 総会・2015年 CUAC アジアサービスラーニングプログラムについて

- ・2014年7月5日～7月13日に韓国にて総会を開催。
- ・2015年度は教員の派遣や学生の参加を計画する。

2) 建学の精神に基づいた教育（キリスト教教育）の在り方について

- ・キリスト教活動センターの設置や行事などにおける礼拝の在り方、ボランティア活動の実際、聖歌隊の活動、クリスチャンコードの実際など、各大学、短期大学における取組について情報交換を行った。

3) 私立大学等改革総合支援事業について

- ・自治体との包括連携協定の実践について、各大学、短期大学から情報を得た。
- ・プール学院は2つの自治体と13の教育委員会と提携している。インターンシップや市民講座に講師を派遣している。教育委員会とは留学生の国際交流などを行っている。
- ・立教大学は豊島区、新座市、埼玉県、陸前高田市

と提携。

- ・桃山学院は和泉市など20以上の提携があり、定期的に協議会を開催している。

4) 高大連携と大学における初年次教育について

2 リエゾン・コミッティ

1. 役割・職務

St. Luke's Medical Center, Tokyo のための基金、Teusler Memorial Fund の使途に関する病院との合同協議

2. 活動内容

2013年度は開催なし

3 聖路加国際病院ナースマネージャー会

1. 役割・職務

- 1) 聖路加国際病院のナースマネージャー会への出席（原則として第1、第3水曜日13:00～14:00）
- 2) ナースマネージャー会における議題のうち、本学の教育・研究に関わる事項について教職員に伝達する
- 3) 必要に応じて、本学の教育・研究活動について伝達する

2. 活動内容

- 1) 2013年度のナースマネージャー会は24回開催され、開催日は下記のとおりであった。
4月10日,24日、5月1日,15日、6月5日,19日、7月3日,17日、8月7日,28日、9月4日,18日、10月2日,16日、11月6日,20日、12月4日,18日、1月8日,22日、2月5日,19日、3月5日,19日。
- 2) ナースマネージャー会では、聖路加国際病院並びに関連施設における看護提供に関わる問題の検討ならびに、変更事項の通達がなされる。このうち、本学の教育、研究に関連する事項について「ナースマネージャー会報告」と題し教職員に向けてメールを発信した。

また、看護手順の改訂がなされた際には、教職員にメールにて情報提供を行うとともに、図書館に所蔵している看護手順等を新たな版に差し替えるよう依頼した。

- 3) ナースマネージャー会において、本学における学事行事、学会、研究会等の開催に関する情報提供を行った。

7月3日の会にて、本学主催の看護師向けの研修会について、聖路加国際病院の看護師へ案内する方法の検討を行った。その結果、本学研修会担当者は、チラシなどの案内をPDF形式としメールに添付して教育研修部のナースマネージャーなどに送信することとした。窓口となるナースマネージャーが、情報をイントラネットに掲載し、すべてのナースマネージャーに配信するという方法に決定した。

3. 課題

聖路加国際病院においては、看護手順も含め、いくつかの手順等が作成、改訂されている。これらについて、過不足なく本学教職員に伝達していくことや、更新情報が漏れなく伝達される仕組みを構築することが課題であると考えられる。

4 ウィリアムズ主教記念基金運営委員会

1. 役割・職務

- 1) ウィリアムズ主教記念基金運営委員会（委員長：吉岡知哉立教大学総長）に、聖路加看護大学からの委員としてウィリアムズ主教記念基金の運営に参加する。

2. 活動内容（上記1に沿って記述）

- 1) 5月10日の第105回運営委員会に参加し下記の報告を受け、課題について話し合った。
 - ・客員研究員3名の動向について：Sierra Leoneからの1名（2011.10月～2013.3月）は、14科目を履修し、すべてAの評価を受け終了帰国した；選考した1名は、辞退する旨（結婚のためのオーストラリア渡航）について雇用主より連絡があった；1名（リベリア）（2013年10月～2015年3月の予定で来日し、研究を開始する予定、

- ・2012年度の会計報告と2013年の予算案についてウィリアムズ記念講演会（Robert M.Bellah氏9月27日～10月8日に招聘の際の、指定寄付の移管処理がなされず、その後会計年度が変わり、収支報告書に反映できなかったことについての説明があり、2013年度4月現在の基金元本は66,037,170円であることが報告された。

- ・第13回の記念講座講演録の作成に関して、立教大学での講演会（2回分）とシンポジウムは岩波書店より書籍として発刊されるため、本講演録には掲載しないことが確認され、1000部を作成し、前例に沿って900部を配布、100部を残すことが話し合われた。

- 2) 12月6日の第106回運営委員会に出席し、下記の報告を受け、課題を審議した。

- ・客員研究員の状況および辞退報告

現在、来日中の Mr. James Daiwarkollie Owah 研究員より研究が順調に進捗しているとの報告があった。

- ・2014年度の予算に関して審議した。

- ・2014～2016年客員研究員（応募者総数4名からの選考）

順位を決め、2名の客員研究の選考を行った。

第1位選考者 ウガンダの Nanziri, Brendar 氏へ連絡し、来日意志を確認する。第2位には、Agway, Gerald Gaccad（フィリッピン）が選考されている。

- ・次年度運営会議・客員研究員の募集・選考日程について、前例を参考に決定した。

運営委員会 2014年5月13日（火）18時～20時

選考小委員会 2014年11月18日（火）18時～20時

運営委員会 2014年12月5日（金）18時～20時

3. 課題

- 1) ウィリアムズ主教基金で運営されている客員研究員は年々応募が少なくなっている。

引き続き、研究員招聘制度のニーズの見直し等運営委員会の課題である。

- 2) 聖路加看護大学でも引き受けたいが、受け入れ条件に満たない。積極的な看護・医療の研究生のリクルートに関して取り組む必要がある。

IX 聖路加国際メディカルセンターとの一体化計画

本学と聖路加国際メディカルセンターの一体化計画は、2012年8月10日の福井理事長と文部科学省医学教育課長および私学行政課との面談から始まり、2012年度は文部科学省と3回の事前相談を行うとともに、先行事例である東北薬科大学への訪問、理事会・評議員会での報告などを行った。

2013年度は、4月25日と6月11日に文部科学省へ事前相談を行うとともに、電話や電子メール等による指導を経て、6月27日に事前相談書の正式提出に至った。その後、文部科学省私学行政課からの指導に基づき、寄附行為や組織図案などの修正を行うとともに、8月6日には学内FD・SD研修会にて大学、病院職員へ経緯を説明し、9月27日の理事会・評議員会にて経緯説明を行った。

10月25日に文部科学省より、本学の付属施設として病院を設置することに関する寄附行為変更等の正式な申請書の提出があり次第、認可手続きを進めていくとの連絡があった。(なお、聖路加国際メディカルセンターの収益事業〈不動産賃貸業等〉は対象外)

これを受け、2014年4月1日に一体化を完了すべく、寄附行為変更、学則改定、大学院学則改定、法人名称変更、大学名称変更の各届出を行うため、教授会を経て11月27日に臨時理事会・評議員会においてこれらの承認を得た。

その後、12月16日には文部科学省大学設置・学校法人審議会大学設置分科会運営委員会にて大学名称変更が承認され、寄附行為変更、学則変更、大学院学則変更については12月20日に文部科学省に対する申請を完了した。

一方、2014年度からの新体制を構築するため、11月末に17のワーキンググループと意思決定のための法人一体化推進会議を設置し、検討を進めた。

学生・保護者・受験生・同窓生などには、4月から大学名称が「聖路加国際大学」に変更となる旨を通知するとともに、特に学生に対しては、12月21日のクリスマスの集いにて一体化の経緯について学長が説明を行った。また、12月27日付の朝日新聞朝刊に大学名称変更の一面広告を掲載し、内外への周知を行った。

2月27日の理事会・評議員会では4月からの役員選出、新体制後の事業計画および予算、一般財団法人聖路加国際メディカルセンターの医療関連事業の譲渡、各種規程の改編などが審議され、それぞれ承認を得た。

3月3日に4月からの主要人事の内示が行われ、3月中旬には事務職員の人事の内示を行うとともに、各部署における諸手続きや、各種規程、委員会等の統合作業を進めた。ただし、人事賃金制度や情報システムなど、4月以降も次年度に統合を進める案件もあり、これらは引き続き作業を進める予定である。

聖路加看護大学年報 2013年度（平成25年度）

2014年5月

発行者 聖路加国際大学

〒104-0044 東京都中央区明石町10番1号

TEL (03) 3543-6391

FAX (03) 5565-1626

<http://www.slcn.ac.jp/>

